



VR-5000

ALL MODE
100kHz~2600MHz
COMMUNICATIONS RECEIVER

取扱説明書

安全上のご注意 1

ご使用の前に 3

基本的な操作のしかた 9

メモリーを使う 17

プライオリティ機能 27

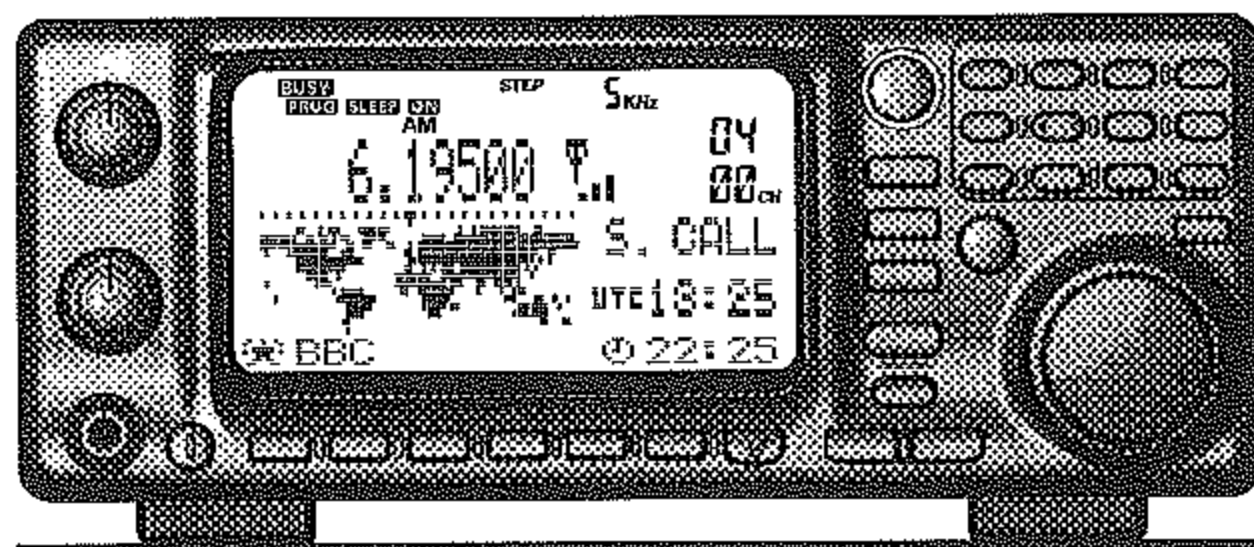
スマートサーチ 28

周波数監視機能 30

時計機能 32

さらに進んだ使いかた 36

資料 52



当社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
正しくお使いいただくために、この「取扱説明書」を良くお読
みください。

お読みになった後は、大切に保管してください。

目次

安全上のご注意	1	アラーム機能	34
ご使用の前に	3	設定した時間になると	
付属品&オプション	3	自動的に電源を“ON”にする	34
前面の説明	4	スリープ機能	35
背面の説明（接続方法）	6	設定した時間が経過したら	
ディスプレイの説明	8	自動的に電源を“OFF”にする	35
時計のあわせかた	8	さらに進んだ使いかた	36
基本的な操作のしかた	9	フロントエンドを最適化する	36
信号を受信する	9	混信を軽減する	36
周波数のあわせかた	9	雑音を軽減する	38
受信するモード（電波型式）のあわせかた	9	受信感度を下げる	38
2つの周波数を同時に受信する	10	周波数などが変わらないようにする	39
リセットのしかた	10	周波数ステップを変更する	40
信号のある周波数を自動的に探す	11	ファンクションキーの有効時間を変更する	40
世界の放送を受信する	14	操作音を鳴らないようにする	40
簡単操作のラジオとして使うには	15	ディスプレイの明るさを変える	40
ラジオチャンネルの使用状況を確認する	16	ディスプレイのコントラストを変える	41
メモリーをつかう	17	信号の電界強度をグラフ表示する	41
メモリー操作	17	設定した時間に	
メモリーチャンネルに書き込む	17	自動的に周波数を変更する	42
メモリーバンクを指定して書き込む	17	信号の音声波形を表示する	43
メモリーチャンネルを呼び出す	18	スキャン機能を選択する	44
メモリーチャンネルの		停止したスキャンが	
使用状況を確認する(PMR)	19	再開する条件を変更する	44
メモリーチャンネルをスキャンする	20	スキャン停止中の各動作時間を変更する	45
メモリーチャンネルを消去・上書き		モードセレクトスキャン	45
できないようにする	21	スキャンが停止する条件を変更する	46
メモリーチャンネルの編集	22	放送局の周波数リストを変更する	47
メモリーチャンネルに名前を付ける	22	音声機能	48
メモリーバンクに名前を付ける	23	周波数を音声で確認する	48
メモリーチャンネルに付けた名前呼び出す	23	音声録音・再生機能	48
メモリーチャンネルの順番を並び替える	24	クローン機能	49
メモリーチャンネルを消去する	26	通信速度（ボーレート）の設定	49
消去したメモリーチャンネルを復活させる	26	CAT運用	50
プライオリティ機能（優先受信）	27	資料	52
スマートサーチ	28	オプションの取付方法	52
周波数監視機能	30	DSPユニット“DSP-1”の取付方法	52
バンドスコープ	30	デジタルボイスメモリーユニット	
時計機能	32	“DVS-4”の取付方法	52
世界時計	32	音声合成ユニット“FVS-1A”の取付方法	52
登録されている都市の名称を変更する	33	故障かな？と思ったら	53
UTCの変更	33	アフターサービスについて	53
		索引	54
		オートステップ・オートモード関係表	56

安全上のご注意（必ずお読みください）

本機を安全に正しくお使いいただくために、必ずお読みください。

お客様または第三者の方が、この製品の誤使用・使用中に生じた故障・その他の不具合あるいはこの製品の使用によって受けられた損害については、法令上賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

マークの種類と意味



危険

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が障害を負う可能性が想定される内容および物的障害のみの発生が想定される内容を示しています。

図記号の種類と意味



本機を安全にお使いになるために、行ってはならない禁止事項です。
たとえば、㊟は分解禁止を示しています。



本機を安全にお使いになるために、必ず守っていただきたい注意事項です。



危険



病院内や医療用電子機器の近くでは使用しないでください。
医療用電子機器に影響を与える場合があります。



雷が鳴り出したら、早めに電源を切り、電源コードとアンテナケーブルを本機から外してください。
雷によっては、火災や感電・故障の原因になります。

安全上のご注意 (必ずお読みください)



警告



水のかかる場所で使用したり、濡れた手で触らないでください。
故障や感電などの原因になります。



当社指定以外のACアダプターや電源ケーブルは使用しないでください。
火災や故障の原因になります。



分解や改造をしないでください。
ケガ・感電・火災・故障の原因になります。



指定された電源電圧以外の電圧では使用しないでください。
火災や感電の原因になります。



電源コードは直接、直流電源に接続してください。
電源ケーブルの延長や継ぎ足しは、火災や故障の原因になります。



“煙が出ている”、“変な臭いがする”などの異常状態のまま使用すると、火災や故障の原因になります。
すぐに電源を切り、本機を電源から外してください。
煙や変な臭いなどが出なくなったことを確認の上、お買い上げいただきました販売店またはサービスに修理をご依頼ください。



注意



本機を直射日光の当たる場所や熱器具の付近に置かないでください。
変形・変色などの原因になります。



本機を湿気やホコリの多い場所に置かないでください。
火災や故障の原因になります。



本機を押入や本棚などの、風通しが悪く狭い場所に押し込まないでください。
内部に熱がこもり、火災の原因になることがあります。



本機をぐらついた台の上や傾いた所などの不安定な場所に置かないでください。
落ちたり倒れたりして、ケガの原因になることがあります。



本機をジュウタンや布団の上に置かないでください。
内部に熱がこもり、火災の原因になることがあります。



本機の上に重い物を置かないでください。
落ちたり倒れたりして、ケガの原因になることがあります。



本機の上に花瓶・化粧品・コップなどの、水の入った容器を置かないでください。
こぼれたり中に入った場合、火災や故障の原因になります。



電源コードの上に重い物を載せたり、電源コードを無理に曲げたり引っ張ったりしないでください。
電源コードが傷つき、火災や故障の原因になります。



シンナーやベンジンなどでケースを拭かないでください。
ケースの汚れは中性洗剤を湿した布で軽く拭いて汚れを落とし、乾いた布で拭き取ってください。



本機の上にクリップなどの小さな金属物を置かないでください。
中に入った場合、火災や故障の原因になります。



長期間ご使用にならない場合には、安全のため、電源を切るとともに、電源コードを電源から外してください。



万一、内部に異物が入った場合には、すぐに電源を切り、本機を電源から外してください。
そのまま使用すると、火災や故障の原因になります。



本機を移動させるときには、電源コードを電源から外すとともに、アンテナケーブルや周辺機器などを接続している全てのケーブルを外した上で行ってください。



磁気カードやビデオテープなどは本機に近づけないでください。
キャッシュカードやビデオテープなどの内容が、消去される場合があります。



イヤホンやヘッドホンなどを使用するときは、音量を大きくしないでください。
聴力障害の原因になります。

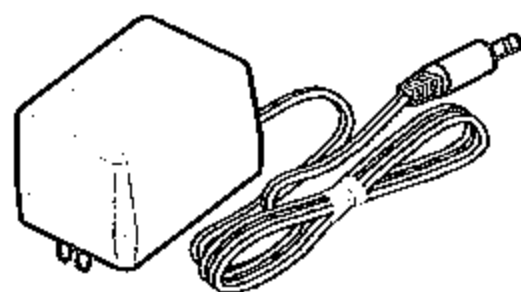


小さなお子さまの手の届かない場所に保管してください。
ケガなどの原因になります。

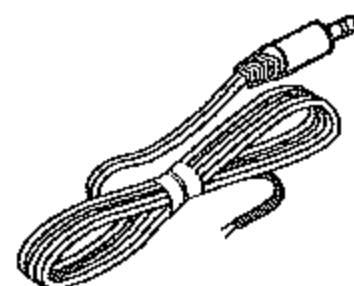
付属品

- 取扱説明書
- 保証書
- ご愛用者カード

保証書に、お買い上げになりました
販売店名と日付が記入されているこ
とを、ご確認ください。



AC アダプター “PA-28A”



電源ケーブル

オプション

- 音声合成ユニット “FVS-1A”
- ボイスメモリーユニット “DVS-4”
- DSP ユニット “DSP-1”

前面の説明

SQL ツマミ

信号を受信していないときの“ザー”というノイズが消える位置までまわします。

●メモリーモード時に、サブ周波数に対して調節を行う場合は、一度メモリーチューン機能(18ページ)を動作させ、調節を行ってからメモリーモードに戻してください。

VOL ツマミ (MAIN 側)

右にまわすとメインバンドの音が大きくなります。

VOL ツマミ (SUB 側)

右にまわすとサブバンドの音が大きくなります。

TONE ツマミ

聞きやすい音質にあわせます。

ヘッドホン端子

ヘッドホンを接続します。

⚠ ヘッドホンを使用するときは、音量を最低にしてから電源を“ON”にしてください。

PWR キー

1秒以上押すと電源が“ON”になり、再び1秒以上押すと電源が“OFF”になります。

メインバンドとサブバンドを切り替えます。(p.10)

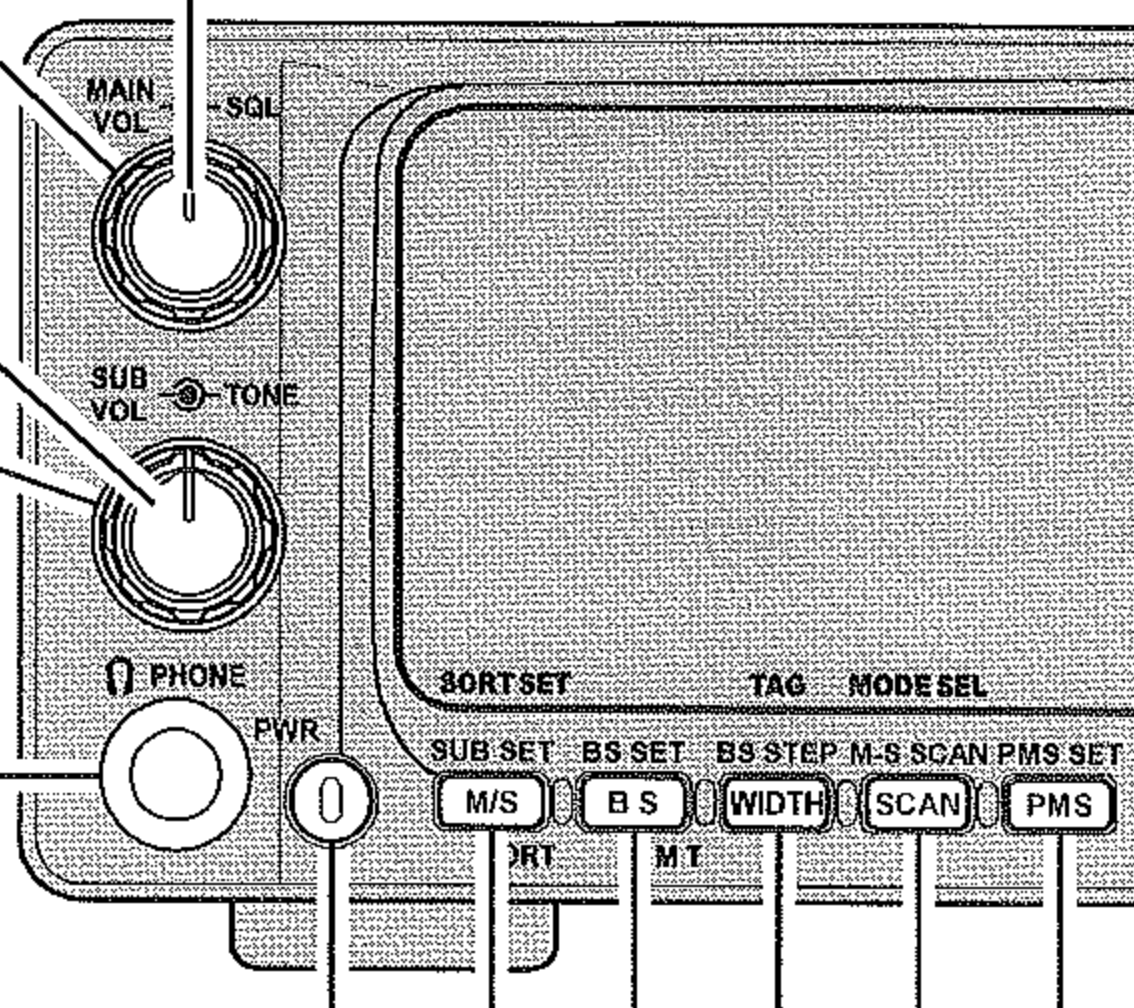
バンドスコープを動作させます。(p.30)

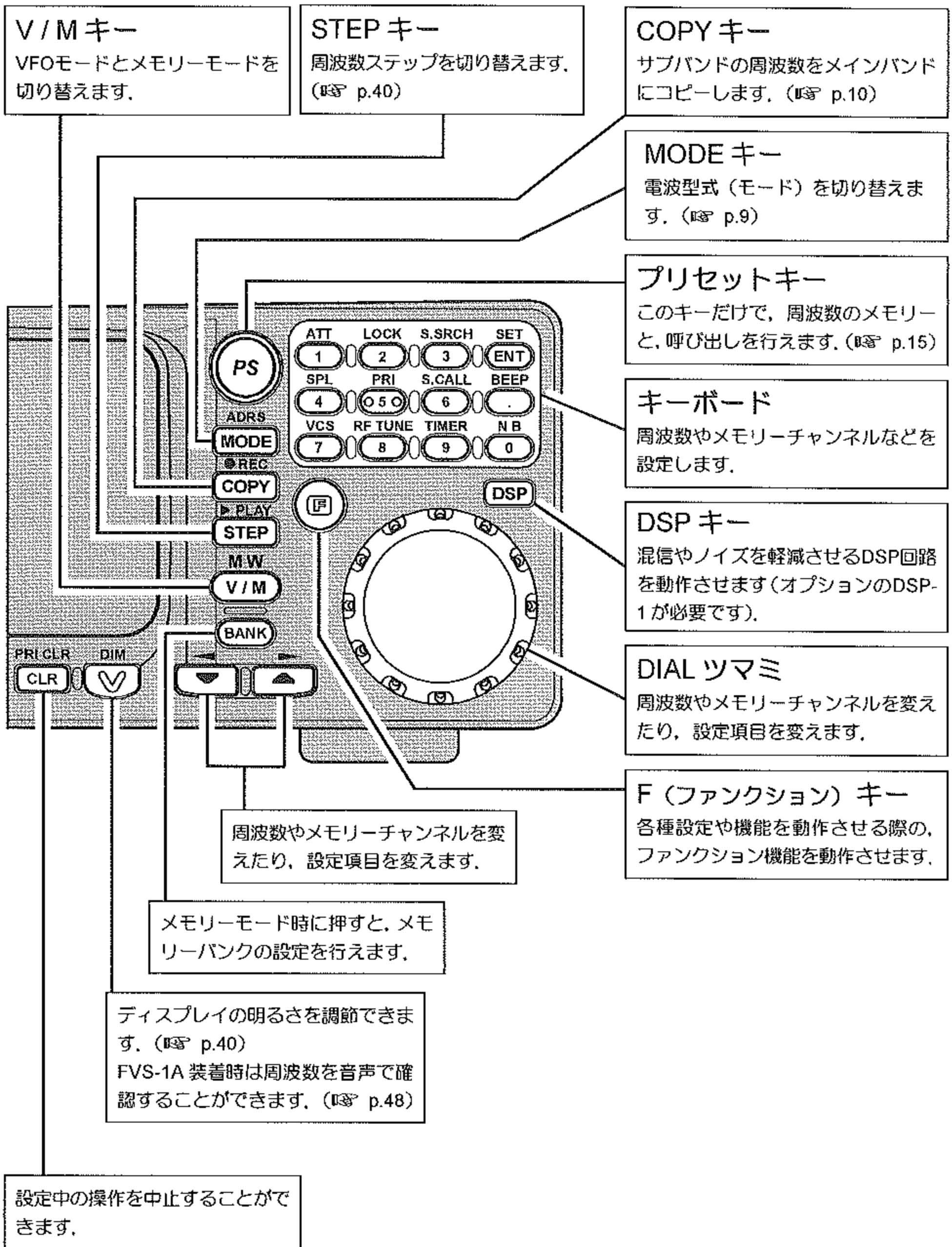
バンドスコープの表示幅を変更します。(p.30)

スキャンをスタートさせます。(p.11)

PMS(プログラマブルメモリスキャン)を動作させます。(p.12)

使用前に





背面の説明（接続方法）

MUTE 端子

本機と送信機を併用するとき、送信時に本機の動作を止めるための端子です。この端子がGNDに接続されると本機の動作は停止します。送信機の内部にある“ON/OFF”回路と接続します。この回路がオープン時の電圧は8V、クローズド時の電流は0.9mAです。

電源端子（DC 13.5V）

付属のACアダプター“PA-28A”を使用して、交流100Vのコンセントと接続します。

●当社指定のACアダプターおよび電源ケーブル以外は絶対に接続しないでください。火災や故障の原因になることがあります。

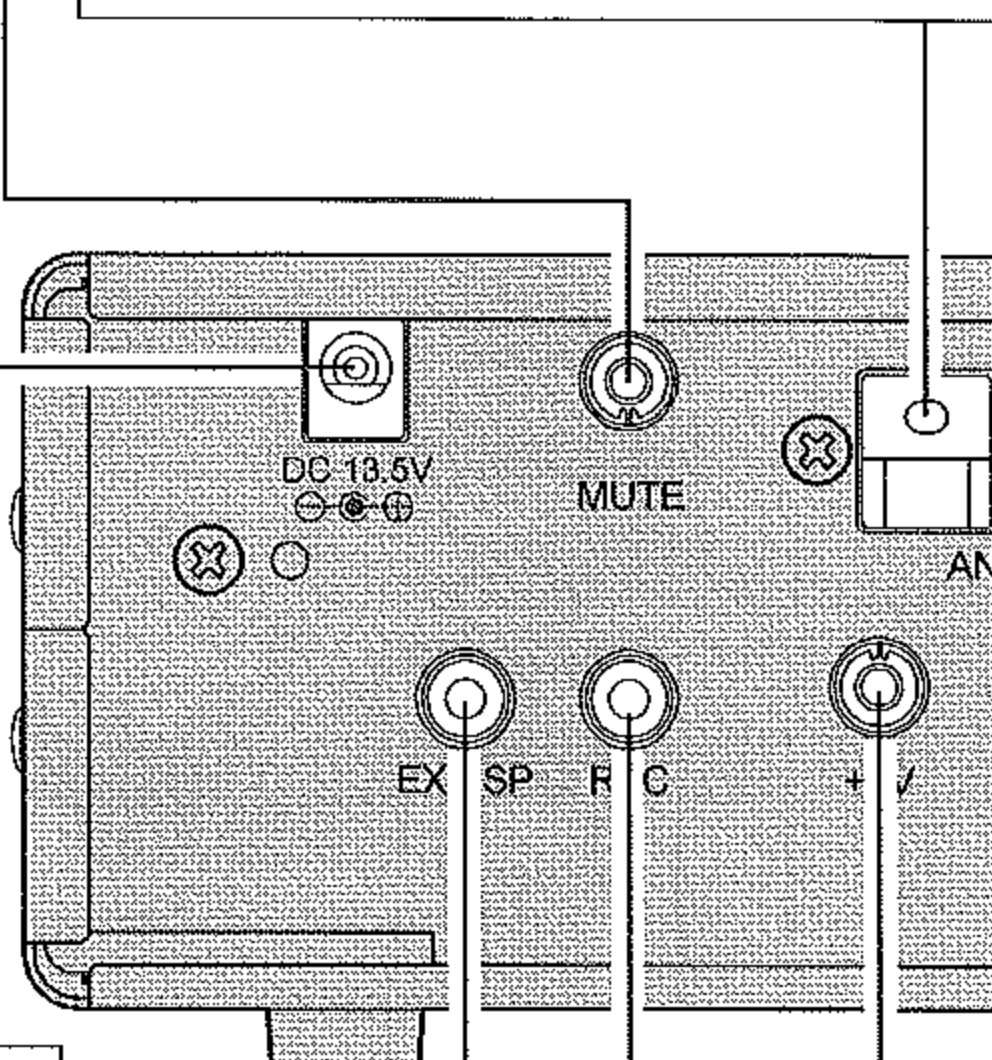
●付属の電源ケーブルを使用する際、接続する電源は、直流11.5V～15.5V、電流容量900mA以上の電源を使用し、白黒線をプラス（+）端子に、黒線をマイナス（-）端子に接続してください。

●ACアダプターなどの接続、取り外しを行うときには、必ず電源を切ってください。

●電源電圧が下がると、ディスプレイに“ERROR LOW VOLTAGE”が表示され、すべての操作を受け付けなくなりますので、一度電源ケーブルを抜き、再度接続し直してください。

アンテナアース端子

アンテナのアース線を、端子にはさみこんでください。



外部スピーカー端子

外部スピーカー（4～16Ω）を接続します。外部スピーカーを接続すると、内蔵スピーカーから音が出なくなります。

⚠ この端子には、イヤホンやヘッドホンは絶対に接続しないでください。

録音端子

受信した信号を録音するとき、テープレコーダーなどの録音機器を接続します。パネル面のVOLツマミの位置に関係なく、常に一定のレベルで出力されます。出力電圧は1kΩ負荷で8mV(rms)です。

8V 端子

DC8Vが出力されていますので、周辺機器の電源（100mA以下）として使用できます。

背面の説明（接続方法）

アンテナについて

本機に接続できるアンテナは、ロングワイヤータイプまたは、同軸ケーブルを使用したダイポールアンテナなどを使用することができます。

いずれの場合も、できるだけ障害物から離して、高い場所に設置すると、効率よく電波を受信することができます。

●雷が鳴り始めたら本機からアンテナと電源コードを外してください。

アンテナ端子（ロングワイヤー用）

アンテナ線（ビニール被覆線など）の被覆を先端から1cmほどとり、端子にはさみこんでください。

●30MHz以上の周波数では使用できません。

アンテナ切り替えスイッチ

同軸ケーブルに接続したアンテナを使用するときは“A”に、ロングワイヤーアンテナを使用するときは“B”に切り替えてください。

アンテナ端子（M型コネクター用）

同軸ケーブルのM型コネクターを接続してください。

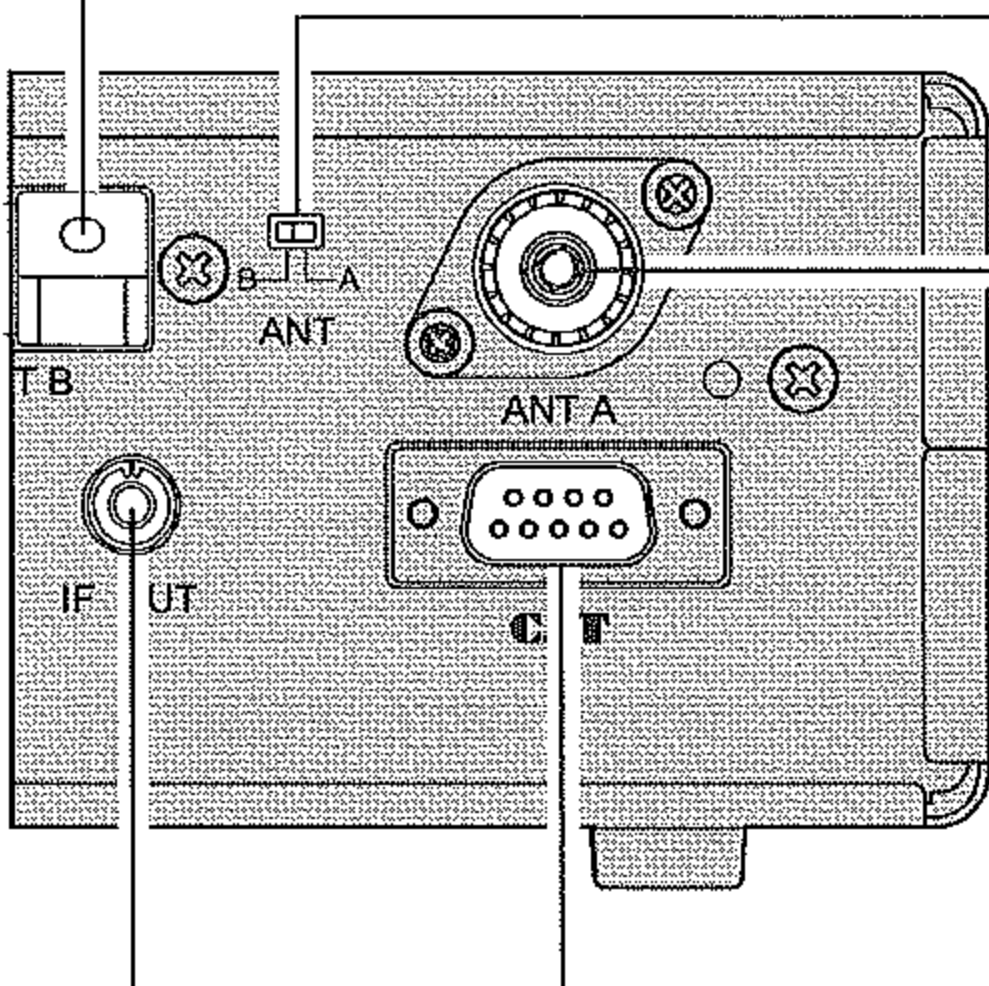
CAT 端子

CATシステムを接続する端子です。

IF 出力端子

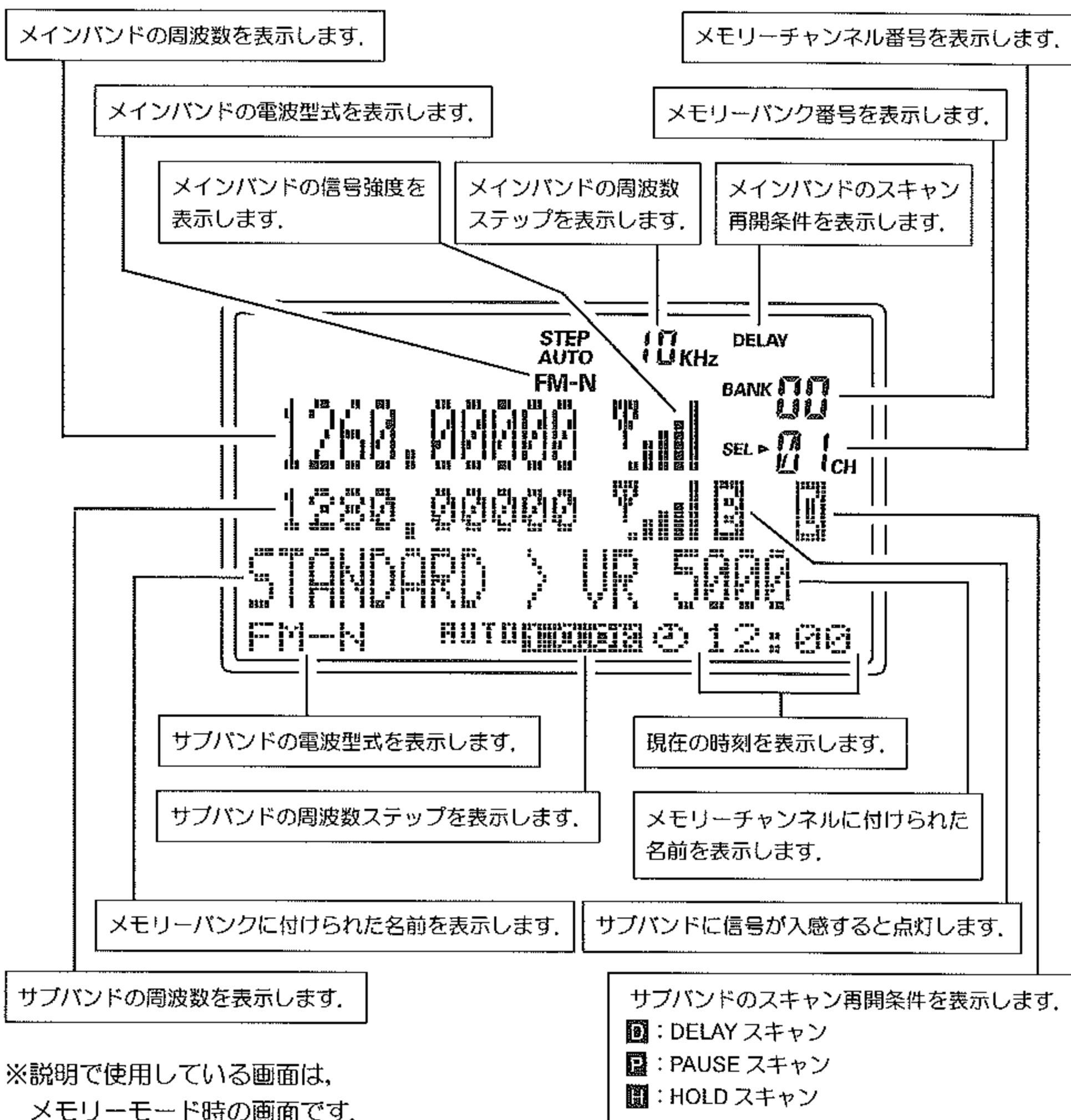
10.7MHzのIF信号が出力されていますので、自作のFMステレオ回路などに使用することができます。

ご使用前に



ディスプレイの説明

ご使用前に



時計のあわせかた

1. **[F]** を押したあとに **[ENT]** を押します。
2. DIAL ツマミで "→" を "MISC" にあわせて **[ENT]** を押します。
3. DIAL ツマミで "→" を "CLOCK" にあわせて **[ENT]** を押します。
4. キーボードで現在の時間を 24 時間制で入力して **[ENT]** を押します。
 《例》午前 9 時 38 分にあわせる場合 : **[0]** **[9]** **[3]** **[8]** **[ENT]** と押します。
 午後 1 時 5 分にあわせる場合 : **[1]** **[3]** **[0]** **[5]** **[ENT]** と押します。
5. DIAL ツマミで "→" を "END" にあわせて **[ENT]** を押します。
6. "→" が "WRITE" を指していることを確認して **[ENT]** を押します。

◎時計をあわせた後に "UTC の変更" (33 ページ) の操作をお勧めします。

●AC アダプターをコンセントから抜いたり、安定化電源などの電源を OFF にすると、時計表示が "ー:ー" に戻ります。

本機は、お買い上げになった時にはオートモード、オートステップが設定されています。受信したい周波数にあわせると、自動的にその周波数に最適なモード（電波型式）とステップ幅に設定されます。

周波数のあわせかた

■ DIAL ツマミをまわす

右にまわすと周波数は高くなり、左にまわすと低くなります。

◎受信するバンドやモード（電波型式）に適したステップ幅で周波数が変化します（オートステップ機能）。

◎**[F]**を押した後に DIAL ツマミをまわすと、1MHz 単位で周波数が変化します。

もう一度**[F]**を押すか 5 秒間経過すると、元のステップで変化するようになります。

■ **[▲]** または **[▼]** キーを押す

[▲]を押すと周波数は高くなり、**[▼]**を押すと低くなります。

◎受信するバンドやモード（電波型式）に適したステップ幅で周波数が変化します（オートステップ機能）。

◎**[F]**を押した後に **[▲]** または **[▼]** キーを押すと、10MHz 単位で周波数が変化します。

もう一度**[F]**を押すか 5 秒間経過すると、元のステップで変化するようになります。

■ キーボードから入力する

キーボードから周波数を直接入力することができます。

《例》81.3MHz の場合：**[8]** **[1]** **[.]** **[3]** **[ENT]**

594kHz の場合：**[.]** **[5]** **[9]** **[4]** **[ENT]**

◎周波数を変更すると、モード（電波型式）も自動的に“受信周波数に適したモード”に切り替わります（オートモード機能）。

◎ DIAL ツマミやキーボードで、周波数を自由に設定できる状態を“VFO モード”といいます。

- 本機で受信することのできる周波数範囲は、0.1MHz ～ 2599.99998MHz ですが、右表の周波数帯は受信することができません。

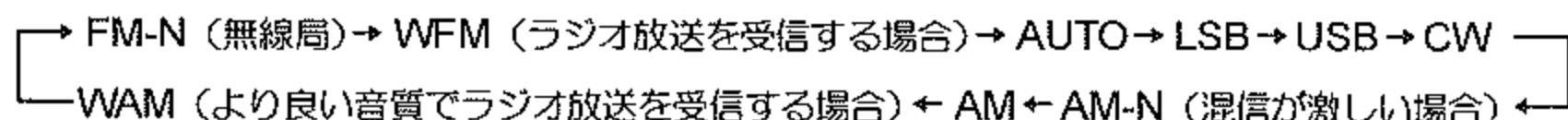
- 無線通信の内容を窃用したり、他人に漏らすことは、法律により禁止されています。

253MHz ～ 256MHz	810MHz ～ 835MHz
262MHz ～ 267MHz	843MHz ～ 846MHz
271MHz ～ 276MHz	860MHz ～ 890MHz
380MHz ～ 383MHz	898MHz ～ 901MHz
412MHz ～ 416MHz	915MHz ～ 961MHz

受信するモード（電波型式）のあわせかた

受信している信号にあわせて、モード（電波型式）を変更することができます。

[MODE]を押すたびに、モード（電波型式）が以下のように切り替わります。



◎短波帯のラジオ放送などで WAM モード使用すると、混信が激しくなることがありますので、その場合は AM や AM-N にあわせてください。

◎工場出荷時は、自動的に受信周波数に適したモードに切り替わる“AUTO（オートモード）”に設定されています。なお、“AUTO モード”以外に設定すると、周波数を変更してもモード（電波型式）は変わらず、設定したモードのままになります。

オートモード時の、受信周波数とモード（電波型式）の関係は、オートステップ・オートモード関係表をご覧ください（56 ページ）。

信号を受信する (2)

2つの周波数を同時に受信する

本機ではメインバンドの他に、メインバンド周波数の $\pm 20\text{MHz}$ 範囲の周波数を受信することができる“サブバンド”があります。

●サブバンドで受信できる周波数範囲は、メインバンド周波数の $\pm 20\text{MHz}$ 以内です。

《例》メインバンドが 1280.00000MHz の場合、サブバンドで受信することができる周波数は、 $1260.00000 \sim 1300.00000\text{MHz}$ です。

●サブバンドに設定できるモード（電波型式）は、AMまたはFM-Nのみです。

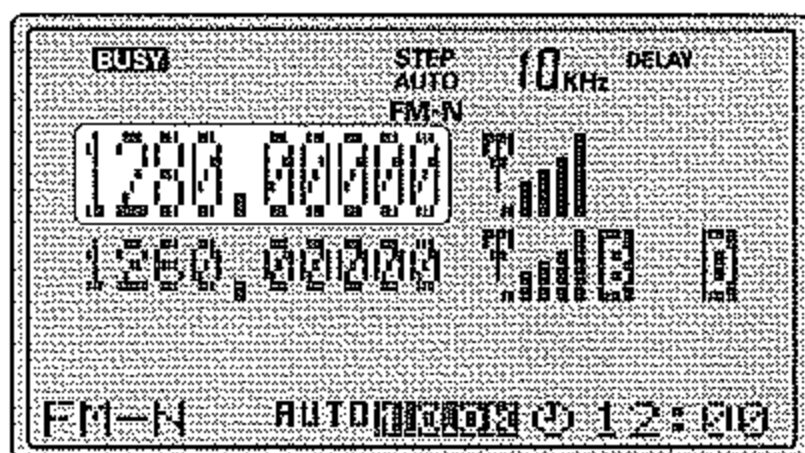
●メインバンドとサブバンドに設定した周波数の関係によっては、バンドパスフィルターの帯域特性により、サブバンドの受信感度を十分に得ることができない場合があります。

●DSP機能が動作しているとき（ディスプレイに**DSP**が点灯）は、サブバンドの信号を受信することはできませんので、**[F]**に続けて**[M/S]**を押して、DSP機能を“OFF”にしてください。

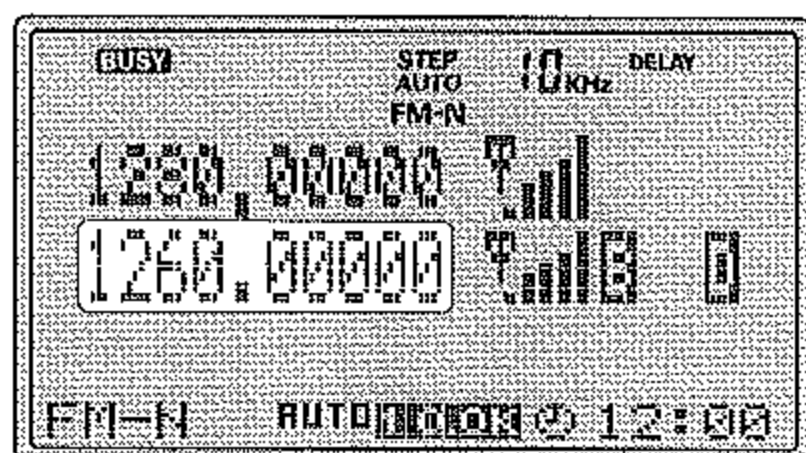
[M/S]を押すたびに、操作できるバンドが

“メインバンド” $\Rightarrow$ “サブバンド” $\Rightarrow$ “メインバンド”

と交互に切り替わります。



メインバンド表示



サブバンド表示

◎サブバンドの音量は“SUB VOL”ツマミで調節します。

◎メインバンドの周波数を変えると、サブバンドの周波数も変化します（サブバンドの周波数を変更中は、メインバンドの周波数は変化しません）。

◎**[F]**を押したあとに**[M/S]**を押すと、メインバンドの周波数を変えた時に、サブバンドの周波数が変化しないようにすることができます。

再度同じ操作を行うと、再びサブバンドの周波数も変化するようになります。

◎**[COPY]**を押すと、サブバンドの周波数をメインバンドにコピーすることができます。

◎メインバンドを操作できる状態のときに**[F]**を押したあとに**[CLR]**を押すと、サブバンドが無効になり、メインバンドのみの表示になります。**[M/S]**を押すとサブバンドが有効になります。

◎サブバンドを操作できる状態のときに**[F]**を押したあとに**[CLR]**を押すと、サブバンドが無効になり、メインバンドのみの表示になり、さらに**[M/S]**を押すと、メインバンドの操作を行うことができます。再び**[M/S]**を押すと、サブバンドが有効になります。

リセットのしかた

設定した内容を、初期値（工場出荷時の状態）に戻すことができます。

●メモリーの内容も含む、全ての設定値が初期値に戻ります。

1. 電源を“OFF”にします。
2. **[CLR]**を押しながら電源を“ON”にします。
3. **[ENT]**を押します。

◎**[CLR]**を押すとリセットを中止することができます。

リセットを行うと、メモリーした内容は全て消去されます。
メモリー内容は、紙などに控えておくようにしてください。

信号のある周波数を自動的に探す (スキャンする)

■全ての周波数をスキャンする

0.1 ~ 2599.99998MHz の範囲にある“信号がある周波数”を自動的に探す (スキャンする) ことができます。

1.  を押して VFO モードにします。
2. “ザー” というノイズが聞こえなくなる位置に、SQL ツマミをあわせます。
3.  を押します。

表示している周波数より上方向 (周波数が高くなる方向) にスキャンを開始します。

信号を受信するとスキャンは一旦停止し、信号が無くなると約2秒後にスキャンを再開します。

◎スキャンがバンドエッジ (2599.99998MHz) に達したときには、反対側のバンドエッジ (0.1MHz) に移り、スキャンが繰り返されます。

◎スキャン中に DIAL ツマミを左にまわす (または  を押す) と周波数が低くなる方向へ、右にまわす (または  を押す) と周波数が高くなる方向へスキャンを開始します。

◎スキャン方向を変更した場合、次にスキャンを開始するときには、この“変更した方向”にスキャンを開始します。

◎希望する周波数範囲内だけをスキャンすることができます。(12 ページ)

◎音声が含まれた信号だけをスキャンすることができます。(46 ページ)

◎停止したスキャンが再開する条件を変更することができます。(44 ページ)

◎スキャン停止中の各動作時間を変更することができます。(45 ページ)

4.  を押すとスキャンを中止します。

◎VFO モードに戻ります。

■メインバンドとサブバンド間の周波数をスキャンする (M-S スキャン)

メインバンドに設定された周波数と、サブバンドに設定された周波数の間をスキャンすることができます。

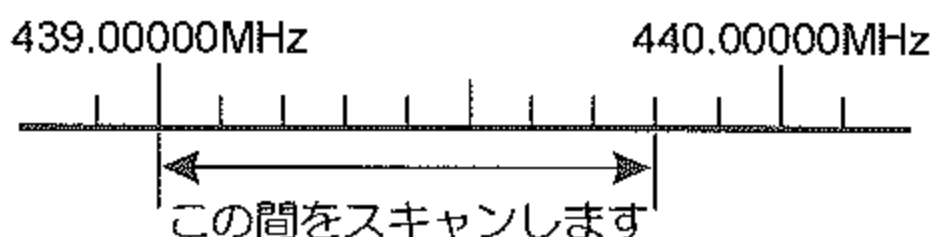
《例》メインバンドに 1260.00000MHz、サブバンドに 1280.00000MHz が設定されている場合は、1260.00000MHz ~ 1280.00000MHz の間をスキャンします。

1.  を押して VFO モードにします。
2. “ザー” というノイズが聞こえなくなる位置に、SQL ツマミをあわせます。
3.  を押したあとに  を押すと、M-S スキャンが動作します。
 を押すと、スキャンが停止して通常の VFO モードに戻ります。

信号を受信する (4)

■周波数範囲を指定してスキャンする（プログラマブルメモリスキャン：PMS）
決められた周波数範囲内だけをスキャンすることができます。

《例》“START F” に 439.00000MHz, “END F” に 439.80000MHz をメモリーした場合



プログラムチャンネルの設定

周波数範囲を自由に設定できるプログラムチャンネルが 50 チャンネルあります。

1. **[F]** を押したあとに **[PMS]** を押します。

プログラムが書き込まれていない最も小さい番号のチャンネルが表示されます。

2. DIAL ツマミで “→” を “PMS TAG” にあわせて **[ENT]** を押します。

3. DIAL ツマミをまわすかキーボードを押して、チャンネルに付ける名前の 1 文字目を入力します。

◎キーボードの押しかたによって、下表に示す各種の文字を入力することができます。

《例》[B] を入力する場合：**[2]** を 3 回押します。

[e] を入力する場合：**[3]** を 6 回押します。

◎DIAL ツマミをまわすと、設定できるすべての文字や記号を順番に呼び出すことができます。

⦿ 記号 ⦿ 数字 ⦿ 英大文字 ⦿ 英小文字 ⦿ 記号 ⦿

Key	選択できる文字	Key	選択できる文字	Key	文字設定中の機能
1	1 スペース	8	8 S T U s t u	BS	カーソル前文字削除
2	2 A B C a b c	9	9 V W X v w x	▼	左にカーソル移動
3	3 D E F d e f	0	0 Y Z y z	▲	右にカーソル移動
4	4 G H I g h i	DSP	! " \$ % & ' (	CLR	文字設定中止
5	5 J K L j k l		) * + :	F → CLR	入力文字の消去
6	6 M N O m n o	—	—	ENT	確定
7	7 P Q R p q r	—	—	—	—

4. **[←]** を押して “_” 表示を次（右側）の桁に移動させます。

◎次に入力する文字が違うキー上にあるときは、そのキーを押すと “_” 表示は自動的に右へ移動します。

◎ **[BS]** を押すと、一桁前の文字を消去することができます。

5. 操作 3～4 を繰り返して文字を入力し最後に **[ENT]** を押します。

6. “→” が “START F” を指していることを確認して **[ENT]** を押します。

7. スキャンをスタートさせたい周波数にあわせて **[ENT]** を押します。

8. “→” が “END F” を指していることを確認して **[ENT]** を押します。

9. スキャンを終了させたい周波数にあわせて **[ENT]** を押します。

● “START F” に設定した周波数より低い周波数を “END F” に設定した場合は、バンドエッジ（2599.99998MHz）側にスキャンを開始します。

10. DIAL ツマミで “→” を “END” にあわせて **[ENT]** を押します。

11. “→” が “WRITE” を指していることを確認して **[ENT]** を押します。

◎ “CANCEL” を選択すると設定中止, “RETRY” を選択すると操作 2 からやり直すことができます。

PMS を動作させる

1. **[PMS]** を押すと“PMS”を開始します。
2. 希望のPMSプログラムチャンネルをテンキーで入力します。
 ◎プログラムチャンネルは、二桁で入力してください(例:5チャンネルの場合は05と入力)。
 ◎スキャン中にDIALツマミまたは**[V/M]**を操作すると、スキャン方向をそれぞれの方向に変えることができます。
 ◎**[SCAN]**を押すとスキャンが一時停止し、再度**[SCAN]**を押すと再びスキャンがスタートします。
 ◎**[V/M]**を押すとPMSが終了し、PMSを動作させる前のモードに戻ります。

PMS スキャン条件を設定する

PMS スキャン動作中の各種設定やスキャンが停止する条件を設定することができます。

1. **[PMS]**を押した後、設定したいプログラムチャンネルをテンキーで呼び出します。
2. **[SCAN]**を押して、PMS スキャンを一時停止させます。
3. **[F]**を押したあとに**[PMS]**を押します。
4. DIAL ツマミで“→”を“MISC”にあわせて**[ENT]**を押します。
5. DIAL ツマミで設定したい項目にあわせします。
 ◎設定可能な項目は下記の7項目です。詳しい動作の説明は、指定のページをご覧ください。
 ScanStop: 停止したスキャンが再開する条件を設定します (44 ページ)。
 S-LvlScan: 設定されたレベル以上の信号のみをスキャンします (46 ページ)。
 VCS : 音声が含まれた信号のみをスキャンしたい場合は“ON”にします。
 ATT : 信号が強すぎたり、近くに強力な信号がある場合は“ON”にします。
 SKIP : スキャンしたくない周波数の削除。
 DSP : “DSP-1”を使用した、混信・雑音低減機能を“ON/OFF”できます (36 ページ)。
 LINK : “ON”に設定すると、END周波数までスキャンした後に、他のプログラム(LINKがONになっているプログラム)を続けてスキャンします。
6. DIAL ツマミで“→”を“END”にあわせて**[ENT]**を押します。
7. “→”が“WRITE”を指していることを確認して**[ENT]**を押します。
 ◎“PROTECT”を選択すると設定内容を保護することができます。また、“CANCEL”を選択すると設定中止、“RETRY”を選択すると操作3からやり直すことができます。

スキャンしたくない周波数を登録する (周波数スキップ)

受信したくない周波数を登録 (合計50チャンネルまで) することにより、次回からはこの周波数をスキップ (無視) して、PMS スキャンを行います。

1. PMS スキャンをスタートさせます。
2. 受信したくない周波数でスキャンが一時停止しているときに**[CLR]**を押します。
 ◎周波数スキップが登録され、PMS スキャンが再開します。

周波数スキップを解除する

1. **[SCAN]**を押して、PMS スキャンを一時停止させます。
2. **[F]**を押したあとに**[CLR]**を押します。
3. DIAL ツマミで“→”をスキップ解除したい周波数にあわせて**[ENT]**を押します。
4. DIAL ツマミで“→”を“END”にあわせて**[ENT]**を押します。
5. “→”が“WRITE”を指していることを確認して**[ENT]**を押します。

世界の放送を受信する

世界各地の主な放送局を国別で選択し、地図上におおよその場所を点滅表示しながら受信することができます。

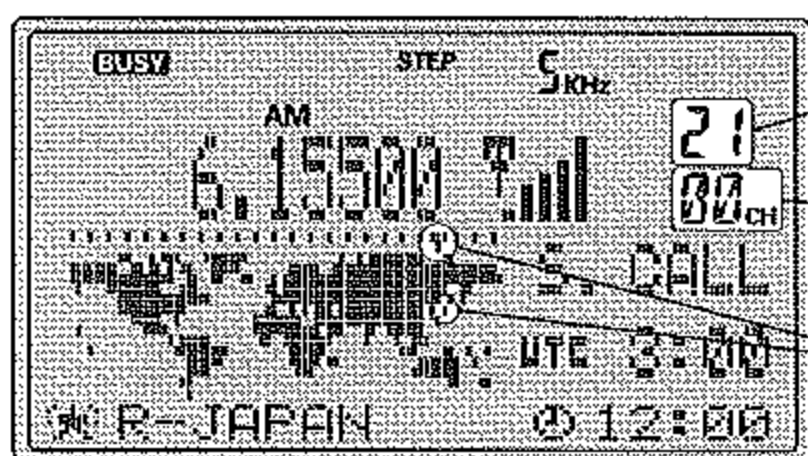
1. **[F]**を押したあとに**[6]**を押します。
2. **[V]**または**[A]**を押して、希望の地域を選択します（下表参照）。
3. DIAL ツマミをまわすと、登録されている周波数（下表参照）を選択することができます。

◎ **[CLR]**を押すと“STATION CALL”を呼び出す前のモードに戻ります。

●受信する時間帯や電波の状態が悪い時は、受信できない場合があります。

●各放送局の周波数は、下表以外にも受信できる周波数があります。詳しくは周波数帳などを参考にしてください。

●下表に記載してある周波数を変更することができます（47 ページ）。



地域番号

チャンネル番号

カーソルとドットの点滅で、おおよその位置を表示します。

地域番号	表示	国名	放送局名	登録周波数 (MHz)
00	VOA	アメリカ	Voice Of America	6.030 6.160 9.760 11.930
01	R-CANADA	カナダ	Radio Canada International	5.995 7.235 9.735 11.705
02	R-PORTUG	ポルトガル	Radio Portugal	9.780 11.960 15.555 21.655
03	SPAIN	スペイン	Radio Exterior de Espana	7.270 9.520 11.920 15.585
04	BBC	イギリス	British Broadcasting Corporation	6.195 9.410 12.095 15.310
05	R-FRANCE	フランス	Radio France International	6.045 9.790 11.670 15.525
06	BELGIUM	ベルギー	Radio Vlaanderen International	5.985 9.925 11.780 13.740
07	R-NEDERL	オランダ	Radio Nederland	5.955 6.020 9.895 11.655
08	R-LUXEMB	ルクセンブルグ	Radio Luxembourg	6.090
09	D-WELLE	ドイツ	Deutsche Welle	3.955 6.075 9.545 9.735
10	SWISS-R	スイス	Swiss Radio International	3.985 6.165 9.885 15.220
11	R-NORWAY	ノルウェー	Radio Norway International	7.485 9.590 9.985 13.800
12	ITALY	イタリア	Italian Radio International (RAI)	6.060 7.175 9.515 17.710
13	R-DENMAR	デンマーク	Radio Denmark	9.590 9.985 13.800 15.735
14	R-SWEDEN	スウェーデン	Radio Sweden	6.065 9.490 13.625 17.505
15	R-FINLAN	フィンランド	Radio Finland	6.120 9.630 9.795 11.755
16	ISRAEL	イスラエル	Israel Broadcasting Authority	9.435 11.585 15.615 17.545
17	RUSSIA	ロシア	Voice of Russia	5.920 5.940 7.205 12.030
18	INDIA	インド	All India Radio (AIR)	6.045 9.595 11.620 15.020
19	CHINA-R	中国	China Radio International (CRI)	5.250 7.190 9.855 11.685
20	R-KOREA	韓国	Radio Korea	5.975 7.275 9.570 13.670
21	R-JAPAN	日本	Radio Japan	6.155 7.200 9.750 11.850
22	R-AUSTRA	オーストラリア	Radio Australia	5.995 9.580 9.660 12.080

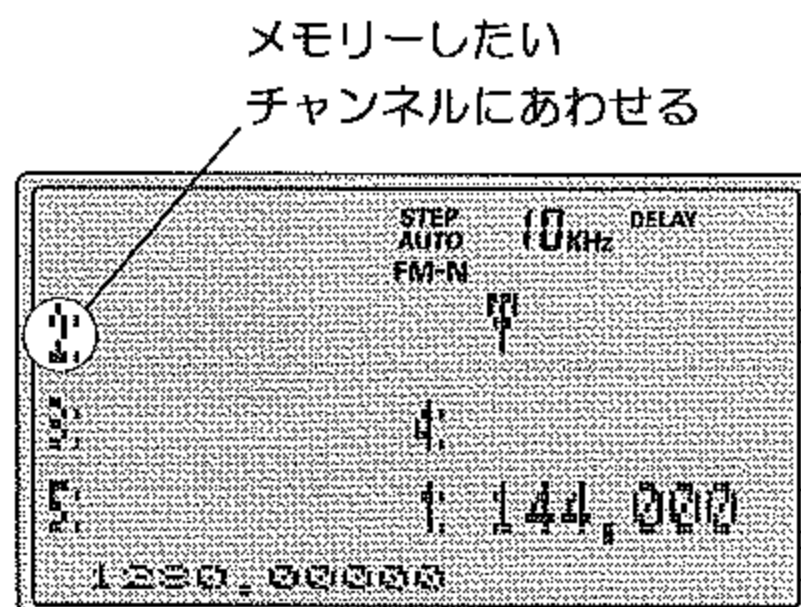
簡単操作のラジオとして使うには

難しい操作は必要なく **PS** ボタンだけで操作できる，“簡単操作ラジオ”として使用することができます。

頻繁に利用する周波数を，専用の“PS（プリセット）メモリー”に記憶させることができますので，記憶させた周波数は，**PS** ボタン1つで簡単に呼び出すことができます。

■ PS メモリーの書き込み

1. メモリーしたい周波数にあわせます。
2. **PS** を1秒以上押します。
3. **PS** を押して，メモリーしたいチャンネルを選択します。（1～5チャンネル）
4. **PS** を1秒以上押します。
5. DIAL ツマミをまわすかキーボードを押して，チャンネルに付ける名前の1文字目を入力します。



◎キーボードの押しかたによって，下表に示す各種の文字を入力することができます。

《例》[B] を入力する場合：**2** を3回押します。

[e] を入力する場合：**3** を6回押します。

◎DIAL ツマミをまわすと，設定できるすべての文字や記号を順番に呼び出すことができます。

記号 ➡ 数字 ➡ 英大文字 ➡ 英小文字 ➡ 記号 ➡

Key	選択できる文字	Key	選択できる文字	Key	文字設定中の機能
1	1 スペース	8	8 S T U s t u	BS	カーソル前文字削除
2	2 A B C a b c	9	9 V W X v w x	▼	左にカーソル移動
3	3 D E F d e f	0	0 Y Z y z	▲	右にカーソル移動
4	4 G H I g h i	DSP	! " \$ % & ' () * + :	CLR	文字設定中止
5	5 J K L j k l	—	—	F → CLR	入力文字の消去
6	6 M N O m n o	—	—	ENT	確定
7	7 P Q R p q r	—	—	—	—

6. **PS** を押して“_”表示を次（右側）の桁に移動させます。

◎次に入力する文字が違うキー上にあるときは，そのキーを押すと“_”表示は自動的に右へ移動します。

◎**BS** を押すと，一桁前の文字を消去することができます。

7. 操作5～6を繰り返して文字を入力し最後に**ENT**を押します。

8. 設定内容を確認して**ENT**を押します。

◎**CLR** を押すとメモリー書き込みを中止することができます。

■ PS メモリーの呼び出し

PS を押します。

◎**PS** を押すたびに，メモリーされたチャンネルが順番に呼び出されます。

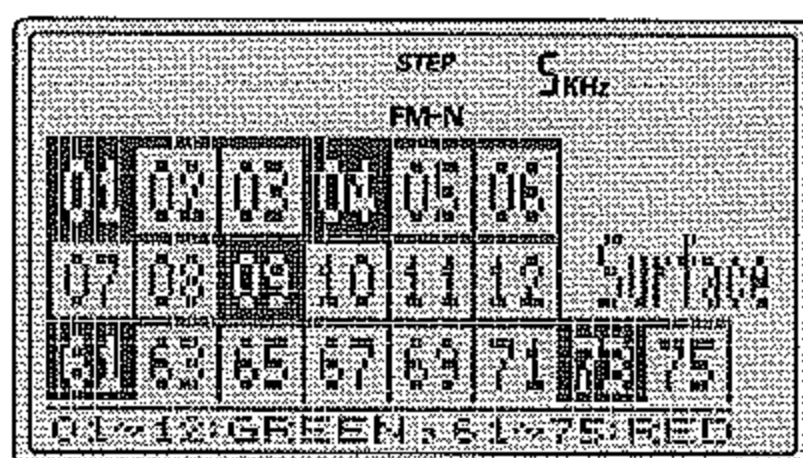
◎DIAL ツマミをまわすと，プリセットメモリーを呼び出す前の状態に戻ります。

◎PSメモリー呼び出し中に**PS** を0.5秒以上押すと，メモリーに付けた名前を修正することができます（上記の操作5からの設定方法で修正することができます）。

ラジコンチャンネルの使用状況を確認する

ラジコンで使用する“チャンネル”を一覧表示し、使用中のチャンネルを黒く表示させることにより、空きチャンネルを瞬時に判別することができます。

《例》“JP R/C BOARD”（日本）の“JP Surface”（陸上用バンド）画面を表示した場合



01, 04, 09, 61, 73 が使用中のチャンネル

1. SQL ツマミを 12 時の位置にあわせます。
2. **F** を押したあとに **4** を押します。
3. DIAL ツマミで “→” を希望の地域（下表参照）にあわせて **ENT** を押します。
4. DIAL ツマミで “→” を希望のバンド（下表参照）にあわせて **ENT** を押します。
◎使用中のチャンネルが黒く表示されます。
5. **ENT** を押して “→” が “CANCEL” を指していることを確認して **ENT** を押すと、ラジコン機能を表示させる前のモードに戻ります。
◎ “RETRY” を選択すると、操作 4 からやり直すことができます。

地域		バンド	
表示	国名	表示	区分
US R/C BOARD	アメリカ	US Aircraft	空
		US Surface	陸
		US 27MHz	27MHz バンド
		US 50/53MHz	50/53MHz バンド
UK R/C BOARD	イギリス	UK Aircraft	空
		UK Surface	陸
		UK 27MHz	27MHz バンド
JP R/C BOARD	日本	JP Aircraft	空
		JP Surface	陸



この機能は、チャンネル使用状況の確認を補助するための機能です。
実際にプロポ（ラジコン送信機）のスイッチを入れるときには、必ず、周りの人が使用しているチャンネル（周波数）を確認してください。
また、本機能を使用して生じた事故について、当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

メモリー操作 (1)

本機には、2000 チャンネルのメモリーがあり、メモリーを呼び出している状態を“メモリーモード”といいます。

メモリーチャンネルに書き込む

一時的にメモリーしておきたい周波数は、簡単な操作でメモリーすることができます。

◎メモリーバンク“00”に99チャンネル分書き込むことができます。

1. メモリーしたい周波数を設定します。
2. **[F]**を押したあとに**[V/M]**を押します。
3. **[COPY]**を2回押すとメモリーバンク“00”に書き込まれます。

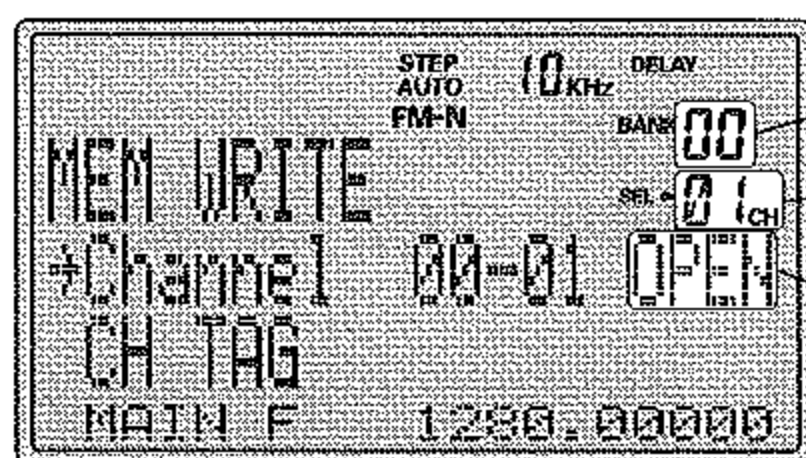
◎メモリーチャンネル番号は、順番に“01”から“99”まで、自動的に割り当てられます。

◎99チャンネル以上書き込むことはできませんので、不要なメモリーは削除(26ページ)するか、他のメモリーバンクにコピーした後に削除してください。

◎メモリーチャンネルに書き込まれた、周波数以外の情報を変更することができます(22ページ)。

メモリーバンクを指定して書き込む

2000チャンネルあるメモリーを、最大100のジャンルに分類することができる“メモリーバンク”があり、一つのメモリーバンクには最大100チャンネルのメモリーを書き込めます。



1. メモリーしたい周波数を設定します。
2. **[F]**を押したあとに**[V/M]**を押します。
3. “→”が“Channel”を指していることを確認して**[ENT]**を押します。
何も書き込まれていない最も小さい番号のメモリーバンクとチャンネルが表示されます。
4. **[▼]/[▲]**で希望のメモリーバンクを選択して**[ENT]**を押します。
◎選択できるメモリーバンク番号は、すでにメモリーが存在するメモリーバンクまたは、メモリーが何も書き込まれていない最も小さい番号です。
◎**[SCAN]**を押すと、空いているメモリーチャンネル(消去されたチャンネル)を自動的に選択します。
◎メモリーチャンネルに書き込まれた、周波数以外の情報を変更することができます(22ページ)。
●ディスプレイ左下に“■と周波数”または“■とメモリーに付けた名前”が表示されているチャンネルは、一時的に消去されているチャンネルです(消去されたチャンネルは復活させることができます:26ページ)。
5. DIAL ツマミで“→”を“END”にあわせて**[ENT]**を押します。
6. “→”が“WRITE”を指していることを確認して**[ENT]**を押します。
◎メモリーへの書き込みが完了し、VFOモードに戻ります。



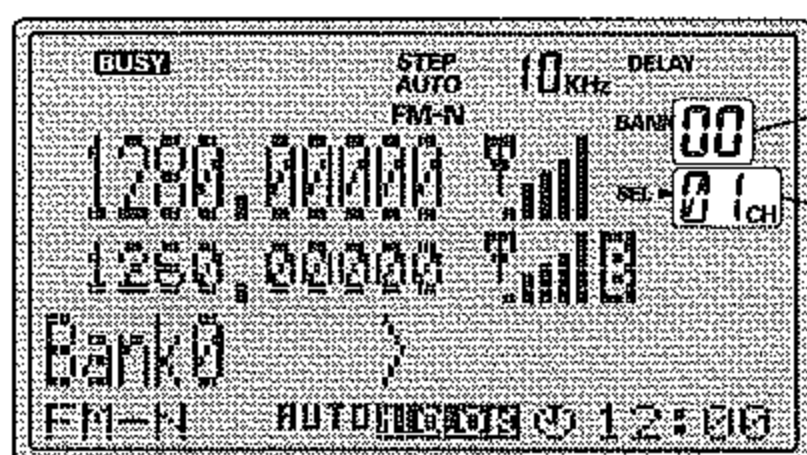
メモリーした内容は、誤操作や静電気または電氣的雑音を受けたときに消失する場合があります。また、故障や修理の際にも消失する場合がありますので、メモリーした内容は必ず紙などに控えておくようにしてください。

メモリーを使う

メモリー操作 (2)

メモリーチャンネルを呼び出す

1. メモリーモードにします (V/M) を押して切り替えます。
 2. / またはキーボードで、呼び出したいメモリーバンクを選択します。
 3. DIAL ツマミをまわして、呼び出したいメモリー番号を選択します。
- ◎同一メモリーバンク内のチャンネルのみを呼び出します。



メモリーバンク

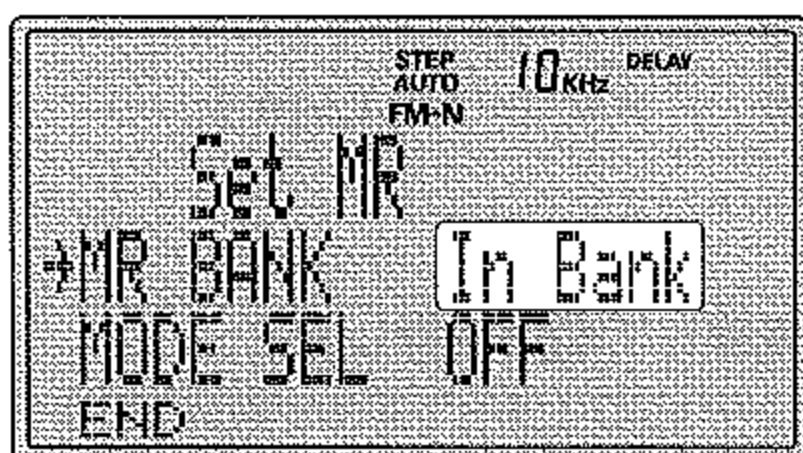
メモリーチャンネル

■全てのメモリーチャンネルを呼び出す

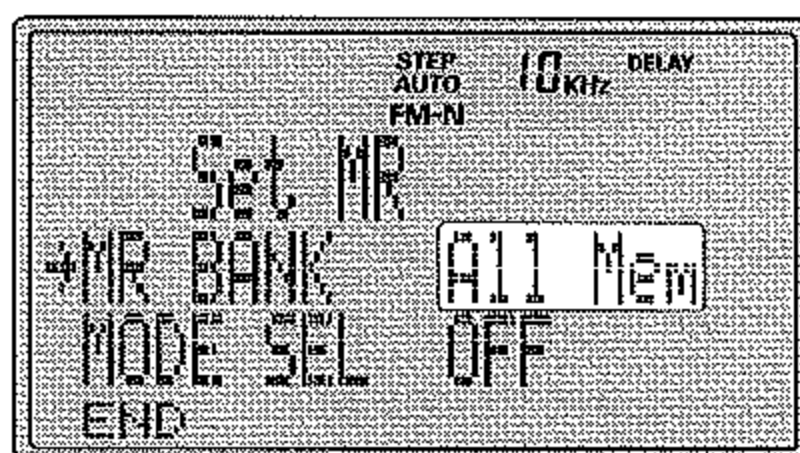
メモリーを呼び出す際、バンクの指定に関係なく、全てのメモリーチャンネルをDIAL ツマミで呼び出すことができます。

1. を押したあとに を押します。
2. DIAL ツマミで “→” を “MR” にあわせて を押します。
3. “→” が “MR BANK” を指していることを確認して を押します。

◎ “In Bank” の表示が “All Mem” に変わります



指定したメモリーバンク内の
メモリーチャンネルだけを呼び出す



すべてのメモリーバンク内の
メモリーチャンネルを呼び出す

4. DIAL ツマミで “→” を “END” にあわせて を押します。
5. “→” が “WRITE” を指していることを確認して を押します。

◎操作3で “In Bank” を選択すると、再び指定メモリーバンク内のみの呼び出しになります。

■メモリーチャンネルの内容を一時的に変更する (メモリーチューン機能)

メモリー呼び出し中、一時的にメモリー内容を変更することができます。

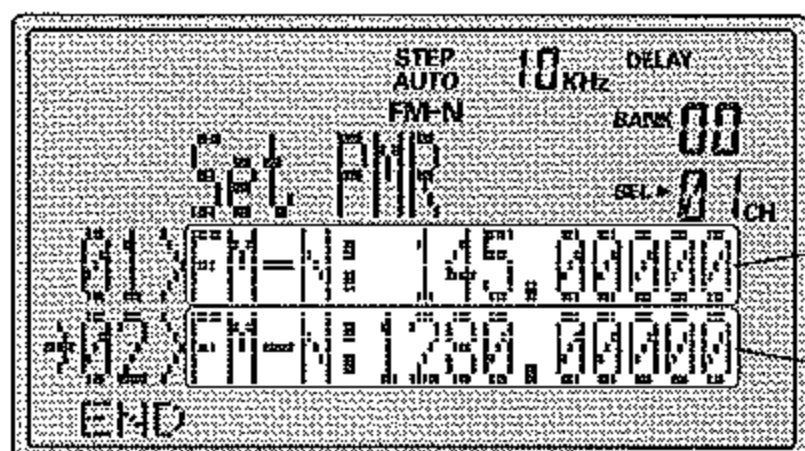
1. 希望のメモリーチャンネルを呼び出します。
 2. を押すと “M-TUNE” が表示され、メモリー内容を一時的に変更することができます。
 3. を押すとメモリーモードに戻ります。
- ◎ を押すと変更した周波数でVFOモードに戻ることができます。

メモリーチャンネルの使用状況を確認する (PMR)

あらかじめ登録してあるメモリーチャンネル“プログラマブルメモリー”(合計50チャンネル)を一覧表示し、使用中のチャンネルを黒く表示させることにより、空きチャンネルを瞬時に判別することができます。

■プログラマブルメモリーの登録

1. 登録したいメモリーチャンネルを呼び出します。
2. **F**を押したあとに **3**を押します。
3. **CH**を押して、登録したいメモリーチャンネルを表示させます。



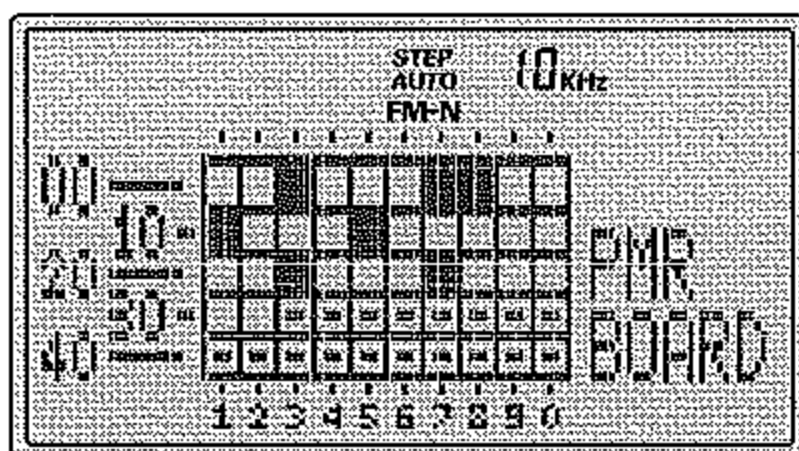
既にメモリーしてある周波数

登録しようとしている周波数

4. DIAL ツマミで“→”を“END”にあわせて **ENT**を押します。
 5. “→”が“WRITE”を指していることを確認して **ENT**を押します。
- ◎ “CANCEL”を選択すると設定中止，“RETRY”を選択すると操作3に戻ります。

■PMR (プログラマブルメモリー) を動作させる

1. **F**を押したあとに **4**を押します。
 2. DIAL ツマミで“→”を“PMR BOARD”にあわせて **ENT**を押します。
- ◎ 使用中のチャンネルが黒く表示されます。



登録チャンネル数 32 チャンネル

- : 使用中のチャンネル
- : 未使用チャンネル
- : 未登録チャンネル

3. **ENT**を押して“→”が“CANCEL”を指していることを確認して **ENT**を押すと、PMRを動作させる前のモードに戻ります。

■プログラマブルメモリーの消去

1. メモリーモードにします。
 2. **F**を押したあとに **3**を押します。
 3. DIAL ツマミで“→”を消去したいプログラマブルメモリーにあわせて **CH**を押します。
 4. DIAL ツマミで“→”を“END”にあわせて **ENT**を押します。
 5. DIAL ツマミで“→”を“WRITE”にあわせて **ENT**を押します。
- ◎ 指定したプログラマブルメモリーが消去され、メモリーモードに戻ります。

メモリー操作 (4)

メモリーチャンネルをスキャンする

信号があるメモリーチャンネルを自動的に探すことができます。

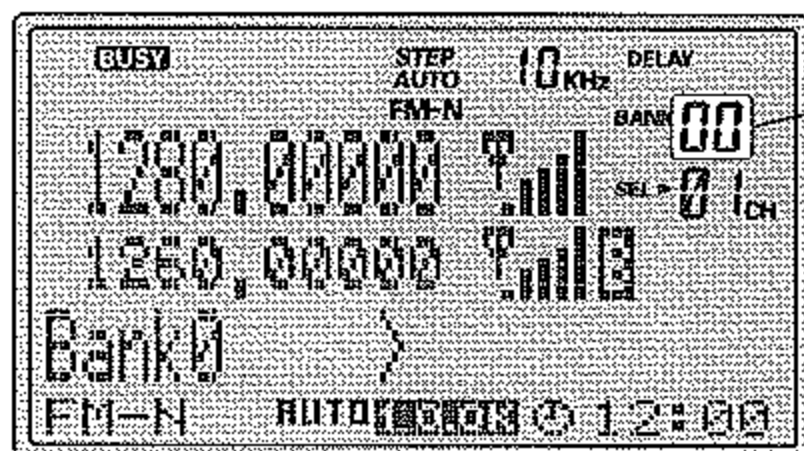
●メモリーチャンネルに書き込まれた“メイン周波数”をスキャンしますので、“サブ周波数”に信号があっても、スキャンは停止しません。

◎“停止したスキャンが再開する条件” (44 ページ)、“スキャン停止中の各動作時間” (45 ページ)、“スキャンが停止する条件” (46 ページ) を変更することができます。

■希望のメモリーバンク内のメモリーチャンネルだけをスキャンする

1. **[V/M]** を押してメモリーモードにします。

2. **[V]** / **[M]** を押して、希望のメモリーバンクを呼び出します。



メモリーバンク

3. **[SCAN]** を押すと、スキャンを開始します。

◎再度 **[SCAN]** を押すと、スキャンが停止します。

◎スキャン中に DIAL ツマミを左にまわす (または **[V]** を押す) と下方向 (周波数が低くなる方向) へ、右にまわす (または **[M]** を押す) と上方向 (周波数が高くなる方向) へスキャンを開始します。

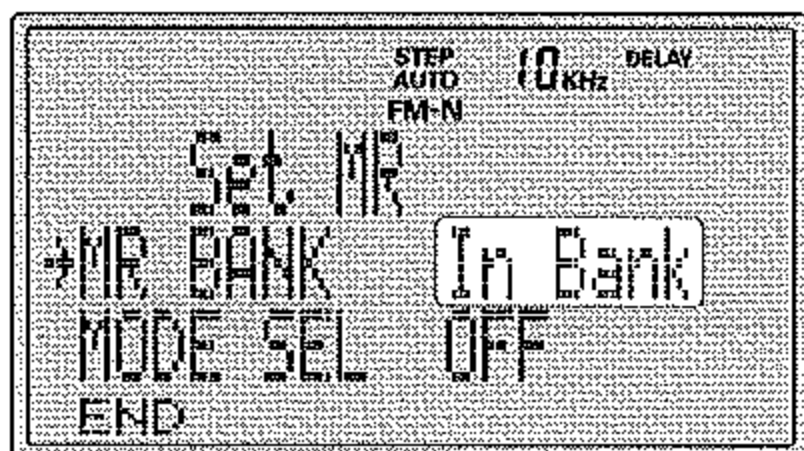
■全てのメモリーバンクのメモリーチャンネルをスキャンする

1. **[F]** を押したあとに **[ENT]** を押します。

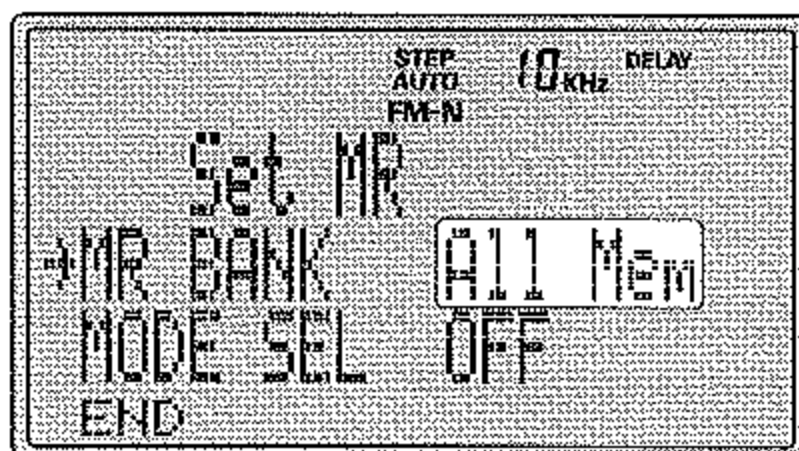
2. DIAL ツマミで“→”を“MR”にあわせて **[ENT]** を押します。

3. “→”が“MR BANK”を指していることを確認して **[.]** を押します。

◎“In Bank”の表示が“All Mem”に変わります。



指定したメモリーバンク内の
メモリーチャンネルだけをスキャンする



すべてのメモリーバンク内の
メモリーチャンネルをスキャンする

4. DIAL ツマミで“→”を“END”にあわせて **[ENT]** を押します。

5. “→”が“WRITE”を指していることを確認して **[ENT]** を押します。

◎操作3で“In Bank”を選択すると、再び指定メモリーバンク内のみのスキャンになります。

6. **[V/M]** を押してメモリーモードにして、**[SCAN]** を押すと、スキャンを開始します。

◎再度 **[SCAN]** を押すと、スキャンが停止します。

■ スキャンしたくないチャンネルをスキップする

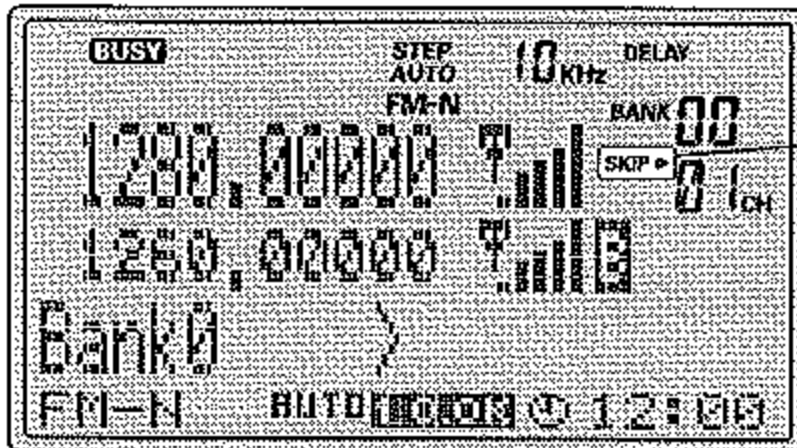
メモリースキャンの時、受信したくないチャンネルでもスキャンが止まることがあります。このようなチャンネルはあらかじめ指定しておくことで、スキャン中にそのチャンネルを受信しないことが可能になります。

1. スキップさせたいメモリーチャンネルを呼び出します。

2. **[CLR]** を押します。

“SEL” の表示が “SKIP” に変わります。

◎再度上記の操作を行い “SKIP” の表示を “SEL” に変えると、スキップを解除することができます。



SKIP が表示される

メモリーチャンネルを消去・上書きできないようにする (メモリープロテクト機能)

誤ってメモリーチャンネルを消去したり、上書きしたりしないように、メモリー内容を保護 (プロテクト) することができます。

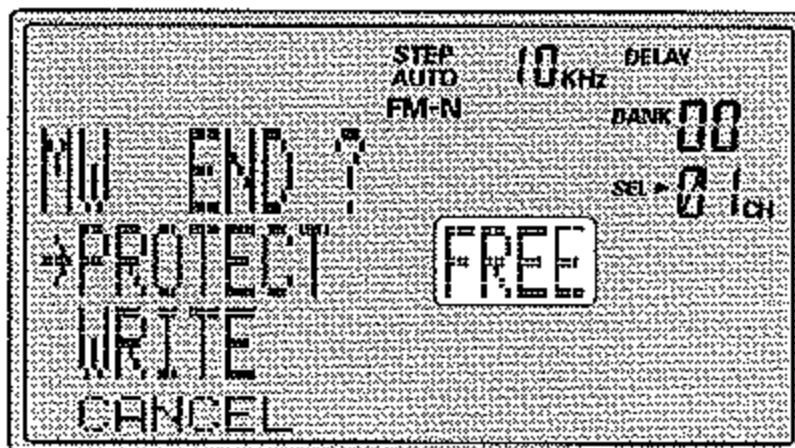
1. 保護したいメモリーチャンネルを呼び出します。

2. **[F]** を押したあとに **[V/M]** を押します。

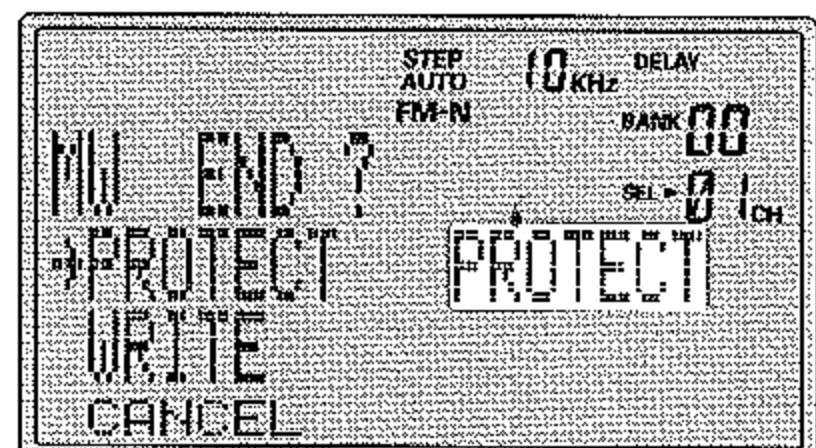
3. DIAL ツマミで “→” を “END” にあわせて **[ENT]** を押します。

4. DIAL ツマミで “→” を “PROTECT” にあわせて **[.]** を押します。

“FREE” の表示が “PROTECT” に変わります。



削除・上書き可能



削除・上書き不可能

5. DIAL ツマミで “→” を “WRITE” にあわせて **[ENT]** を押します。

◎ “CANCEL” を選択すると設定中止, “RETRY” を選択すると操作3からやり直すことができます。

◎メモリープロテクトを解除したいときは、上記の操作を繰り返し、操作4で表示を “FREE” に戻します。

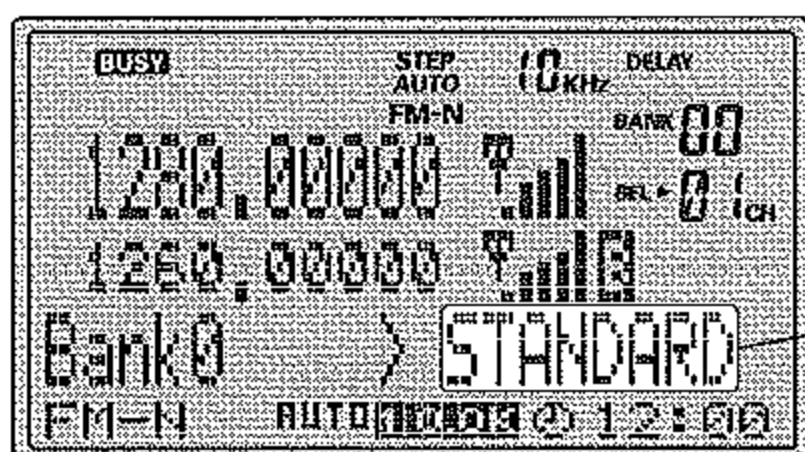
メモリーチャンネルの編集 (1)

メモリーチャンネルを使いやすくするために、様々な編集を行うことができます。

メモリーチャンネルに名前を付ける

メモリーチャンネルに放送局名などの名前を付けることができます（最大8文字）。

●メモリープロテクト機能（21ページ）が動作している場合は、プロテクトを解除してから操作を行ってください。



最大8文字までの名前を付けることができます。

1. 名前を付けたいメモリーチャンネルを呼び出します。

2. **[F]**を押したあとに**[V/M]**を押します。

3. DIAL ツマミで“→”を“CH TAG”にあわせて**[ENT]**を押します。

4. DIAL ツマミをまわすかキーボードを押して、チャンネルに付ける名前の1文字目を入力します。

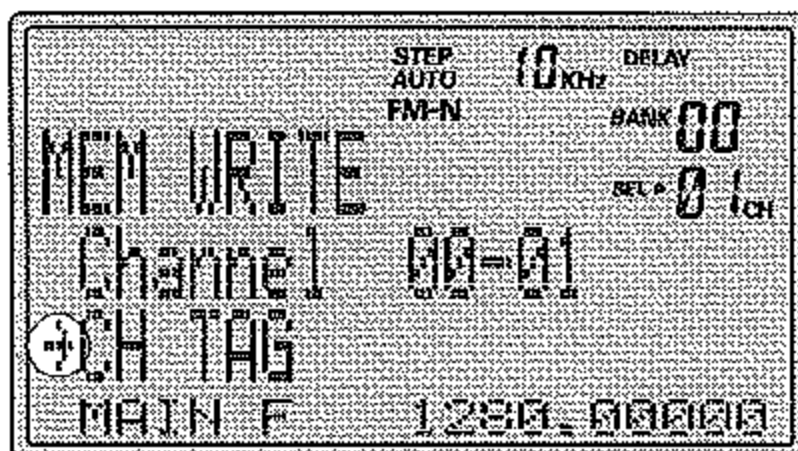
◎キーボードの押しかたによって、下表に示す各種の文字を入力することができます。

《例》[B]を入力する場合：**[2]**を3回押します。

[e]を入力する場合：**[3]**を6回押します。

◎DIAL ツマミをまわすと、設定できるすべての文字や記号を順番に呼び出すことができます。

◆◆ 記号 ◆◆ 数字 ◆◆ 英大文字 ◆◆ 英小文字 ◆◆ 記号 ◆◆



Key	選択できる文字	Key	選択できる文字	Key	文字設定中の機能
1	1 スペース	8	8 S T U s t u	BS	カーソル前文字削除
2	2 A B C a b c	9	9 V W X v w x	▼	左にカーソル移動
3	3 D E F d e f	0	0 Y Z y z	▲	右にカーソル移動
4	4 G H I g h i	DSP	! " \$ % & ' (	CLR	文字設定中止
5	5 J K L j k l	—	) * + :	F → CLR	入力文字の消去
6	6 M N O m n o	—	—	ENT	確定
7	7 P Q R p q r	—	—	—	—

5. **[BS]**を押して“_”表示を次（右側）の桁に移動させます。

◎次に入力する文字が違うキー上にあるときは、そのキーを押すと“_”表示は自動的に右へ移動します。

◎**[BS]**を押すと、一桁前の文字を消去することができます。

6. 操作4～5を繰り返して文字を入力し、最後に**[ENT]**を押します。

7. DIAL ツマミで“→”を“END”にあわせて**[ENT]**を押します。

8. “→”が“WRITE”を指していることを確認して**[ENT]**を押します。

◎“CANCEL”を選択すると設定中止，“RETRY”を選択すると操作3からやり直すことができます。

メモリーチャンネルの編集 (2)

メモリーバンクに名前を付ける

メモリーバンクに名前を付けることができます (最大 8 文字)。

◎工場出荷時は、メモリーバンク“1”に“S.SCH”が、メモリーバンク“2”以降は、自動的にメモリーバンク“1”と同じ名前が付けられます。

最大 8 文字までの名前を
付けることができます。



1. **[V/M]** を押して、メモリーモードにします。
2. **[<]/[>]** で名前を付けたいメモリーバンクを選択して **[BANK]** を押します。
3. “→” が “BANK TAG” を指していることを確認して **[ENT]** を押します。

4. DIAL ツマミをまわすかキーボードを押して文字を入力します。

キーボードの押しかたによって、左ページの表に示す各種の文字を入力することができます。

5. **[<]/[>]** を押して “_” 表示を次 (右側) の桁に移動させます。



◎次に入力する文字が違うキー上にあるときは、そのキーを押すと “_” 表示は自動的に右へ移動します。

◎ **[BS]** を押すと、一桁前の文字を消去することができます。

6. 操作 4～5 を繰り返して文字を入力し、最後に **[ENT]** を押します。
7. DIAL ツマミをまわして “→” を “END” にあわせて **[ENT]** を押します。
8. “→” が “WRITE” を指していることを確認して **[ENT]** を押します。

◎ “CANCEL” を選択すると設定中止，“RETRY” を選択すると操作 3 からやり直すことができます。

メモリーチャンネルに付けた名前呼び出す

メモリーチャンネルにつけた名前を手がかりにして、メモリーチャンネルを呼び出すことができます。

1. **[V/M]** を押してメモリーモードにし、続けて **[WIDTH]** を押します。
2. DIAL ツマミをまわすかキーボードを押して 1 文字目を入力します。

キーボードの押しかたによって、左ページの表に示す各種の文字を入力することができます。

◎ **[MS]** を押すと、1 文字目が同じ名前のメモリーチャンネルを順次表示します。

3. 操作 2 を繰り返し、2 文字目以降の文字を入力していきます。

◎文字を入力するたびに **[MS]** を押すことにより、入力した文字が同じ名前のメモリーチャンネルを順次表示します。

4. 希望のメモリーチャンネルが表示されたら、**[ENT]** を押します。

◎メモリーモードに移り、呼び出されたチャンネルを受信します。

メモリーを使う

メモリーチャンネルの編集 (3)

メモリーチャンネルに書き込んである周波数を変更する

すでにメモリーチャンネルに書き込まれている、周波数を変更することができます。

●メモリープロテクト機能 (21 ページ) が動作している場合は、プロテクトを解除してから操作を行ってください。

1. 変更したいメモリーチャンネルを呼び出します。
2. **(F)**を押したあとに **(V/M)**を押します。
3. DIAL ツマミで “→” を “MAIN F” または “SUB F” にあわせて **(ENT)**を押します。

◎ “MAIN F” : メイン周波数を変更するとき

“SUB F” : サブ周波数を変更するとき

4. 変更したい周波数にあわせて **(ENT)**を押します。
 5. DIAL ツマミで “→” を “END” にあわせて **(ENT)**を押します。
 6. “→” が “WRITE” を指していることを確認して **(ENT)**を押します。
- ◎ “PROTECT” を選択すると設定内容を保護することができます。また、“CANCEL” を選択すると設定中止、“RETRY” を選択すると操作 3 からやり直すことができます。

RF チューン機能の値を変更する

フロントエンドを最適化する、“RF チューン機能 (36 ページ)” の値を変更することができます。

●メモリープロテクト機能 (21 ページ) が動作している場合は、プロテクトを解除してから操作を行ってください。

1. 変更したいメモリーチャンネルを呼び出します。
 2. **(F)**を押したあとに **(V/M)**を押します。
 3. DIAL ツマミで “→” を “MISC” にあわせて **(ENT)**を押します。
 4. DIAL ツマミで “→” を “RF-TUNE” にあわせて **(ENT)**を押します。
 5. DIAL ツマミで希望の値にあわせて **(ENT)**を押します。
- ◎ **(F)**に続けて **(CLR)**を押すと、RF チューンの値を初期値に戻すことができます。
6. “→” が “END” を指していることを確認して **(ENT)**を押します。
 7. “→” が “WRITE” を指していることを確認して **(ENT)**を押します。

◎ “PROTECT” を選択すると設定内容を保護することができます。また、“CANCEL” を選択すると設定中止、“RETRY” を選択すると操作 3 からやり直すことができます。

スキップスキップ/ATT/ノイズブランカーの設定を変更する

スキップをスキップさせる “スキップスキップ”, 受信感度を下げる “アッテネーター機能”, パルス性の雑音を軽減する, “ノイズブランカー機能” の設定を変更することができます。

●メモリープロテクト機能 (21 ページ) が動作している場合は、プロテクトを解除してから操作を行ってください。

1. 内容を変更したいメモリーチャンネルを呼び出します。
2. **(F)**を押したあとに **(V/M)**を押します。
3. DIAL ツマミで “→” を “MISC” にあわせて **(ENT)**を押します。
4. DIAL ツマミで “→” を設定したい項目にあわせて, **(.)**で設定します。

メモリーチャンネルの編集 (4)

◎設定可能な項目は下記の4項目です。詳しい動作の説明は、指定のページをご覧ください。
SCAN : スキャンさせたくない場合は“SKIP”にあわせます (21 ページ)。
ATT : 信号が強すぎたり、近くに強力な信号がある場合は“ON”にします (38 ページ)。
NB : パルス性の雑音を軽減する場合は“ON”にします (38 ページ)。
RF-TUNE : 左ページの“RF チューン機能の値を変更する”をご覧ください。

5. DIAL ツマミで“→”を“END”にあわせて **ENT** を押します。

6. “→”が“WRITE”を指していることを確認して **ENT** を押します。

◎“PROTECT”を選択すると設定内容を保護することができます。また、“CANCEL”を選択すると設定中止、“RETRY”を選択すると操作3からやり直すことができます。

メモリーチャンネルの順番を並び替える (メモリーソート機能)

同じメモリーバンク内にメモリーされているチャンネルを、下記の条件でソート (並べ替え) することができます。

メモリーチャンネルにつけられた名前でソートする (TAG NAME)

メモリーチャンネルに付けられた名前を基に、アルファベット順に並べ替えます。

周波数でソートする (FREQUENCY)

メモリーされた周波数順 (昇順または降順) に並べ替えます。

電波型式 (モード) でソートする (Rx MODE)

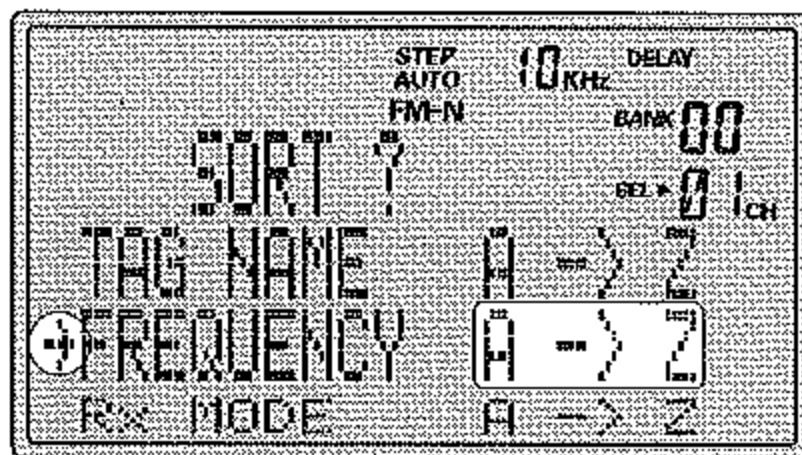
電波型式順に並べ替えます。

◎昇順: AUTO モード → LSB → USB → CW → AM-N → AM → WAM → FM-N → WFM の順番
降順: WFM → FM-N → WAM → AM → AM-N → CW → USB → LSB → AUTO モード の順番

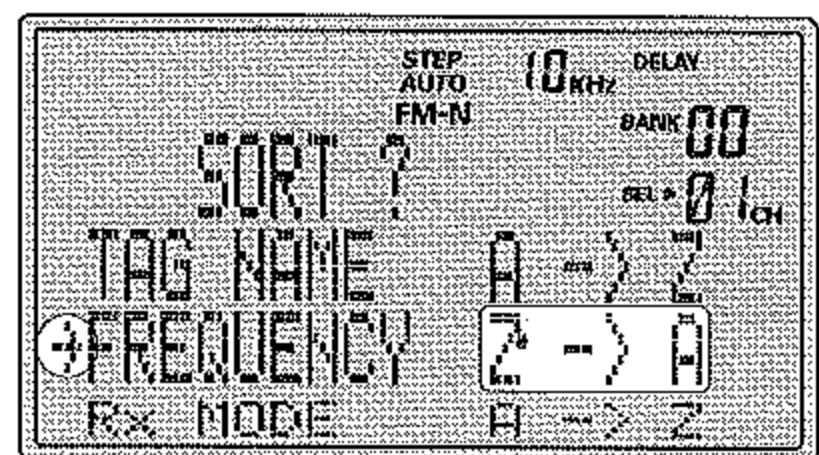
メモリーチャンネル番号を割り当て直す (CHANNEL)

メモリーチャンネル番号順 (降順または昇順) に並べ替えます。

《例》周波数でソートする場合。



周波数の低いチャンネルから高いチャンネルへと並べ替えられます



周波数の高いチャンネルから低いチャンネルへと並べ替えられます

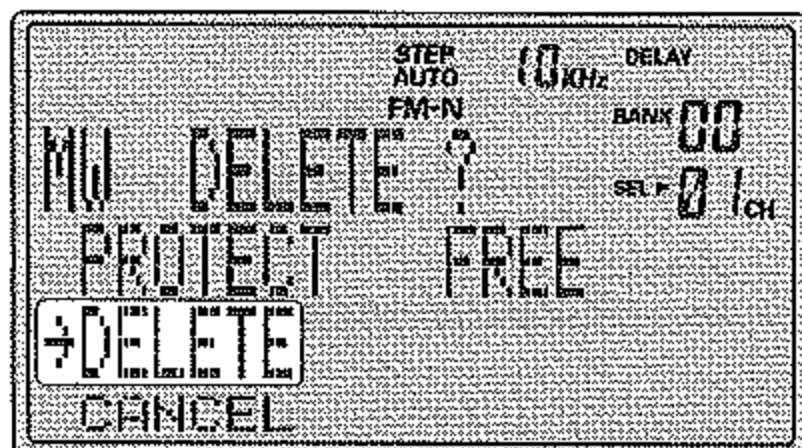
●ソートを行うと、一度消去したメモリーチャンネルを復活させることができなくなります。

1. **V/M** を押してメモリーモードにし、続けて **M/S** を押します。
2. DIAL ツマミで“→”を希望のソート条件にあわせます。
3. **ENT** を押すたびに“A→Z” (昇順) と“Z→A” (降順) が切り替わりますので、希望の条件にあわせます。
4. **ENT** を押します。

メモリーチャンネルの編集 (5)

メモリーチャンネルを消去する

1. 消去したいメモリーチャンネルを呼び出します。
2. **[F]**を押したあとに**[V/M]**を押します。
3. “→”が“Channel”を指していることを確認して**[ENT]**を押します。
4. **[F]**を押したあとに**[CLR]**を押します。
5. “→”が“DELETE”を指していることを確認して**[ENT]**を押します。
6. **[CLR]**を押します。
7. “→”が“CANCEL”を指していることを確認して**[ENT]**を押します。



◎消去したメモリーチャンネルは、復活させることができます。

◎メモリーチャンネルを完全に消去したい場合は、上記の操作を行った後に“メモリーソート機能” (25 ページ) を動作させてください。

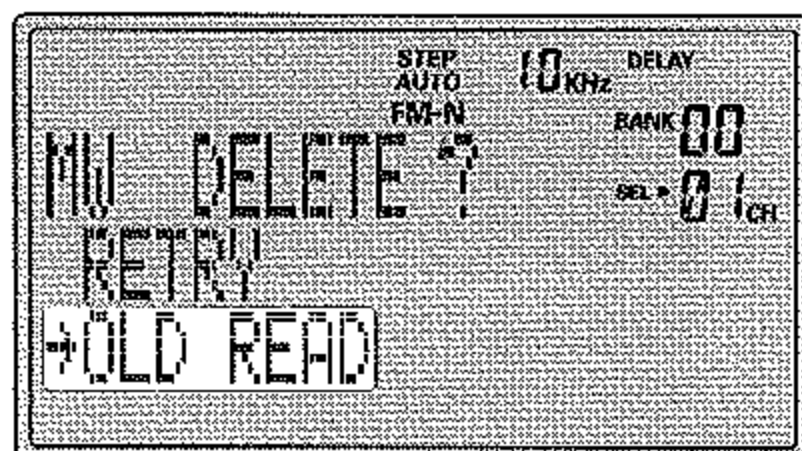
消去したメモリーチャンネルを復活させる

●“メモリーソート機能” (25 ページ) を動作させると、消去したメモリーチャンネルを復活させることができなくなります。

1. **[V/M]**を押して、メモリーモードにします。
2. **[F]**を押したあとに**[V/M]**を押します。
3. “→”が“Channel”を指していることを確認して**[ENT]**を押します。
4. **[<]/[>]** (メモリーバンクの選択) または **DIAL** ツマミ (メモリーチャンネルの選択) で、復活させたいメモリーチャンネルを選択します。

●ディスプレイ左下に“■と周波数”または“■とメモリーに付けた名前”が表示されているチャンネルは、一時的に消去されているチャンネルです。

5. **[F]**を押したあとに**[CLR]**を押します。
6. **DIAL** ツマミで“→”を“OLD READ”あわせて**[ENT]**を押します。
7. **DIAL** ツマミで“→”を“END”にあわせて**[ENT]**を押します。
8. “→”が“WRITE”を指していることを確認して**[ENT]**を押します。



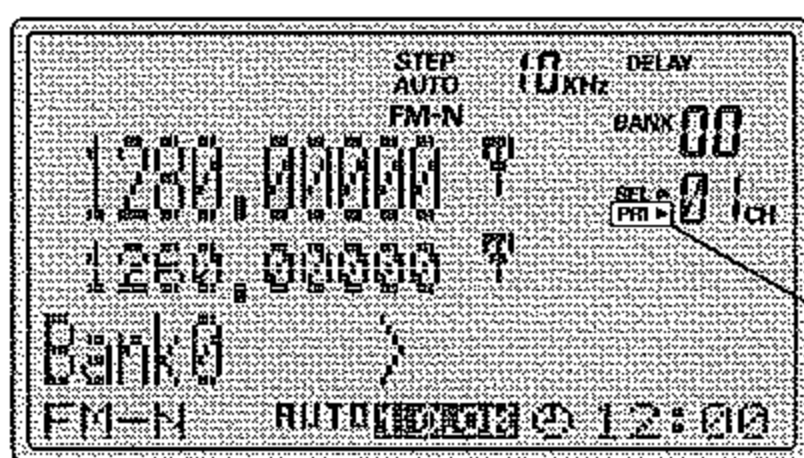
◎“CANCEL”を選択すると設定中止，“RETRY”を選択すると操作3からやり直すことができます。

プライオリティ機能（優先受信）

希望する特定のメモリーチャンネル（プライオリティチャンネル）を5秒間に一度確認し、信号があるとプライオリティチャンネルを優先的に受信します。

■プライオリティチャンネルを設定する

1. 優先的に受信したいメモリーチャンネルを呼び出します。
 2. **(F)**を押したあとに **(V/M)**を押します。
 3. “→” が “Channel” を指していることを確認して **(ENT)**を押します。
 4. **(F)**を押したあとに **(5.0)**を押し、続けて **(ENT)**を押します。
“PRI” 表示が出ます
 5. DIAL ツマミで “→” を “END” にあわせて **(ENT)**を押します。
 6. “→” が “WRITE” を指していることを確認して **(ENT)**を押します。
- ◎ “CANCEL” は設定中止, “RETRY” は、操作3からやり直すことができます。



PRIが表示される

■プライオリティを動作させる

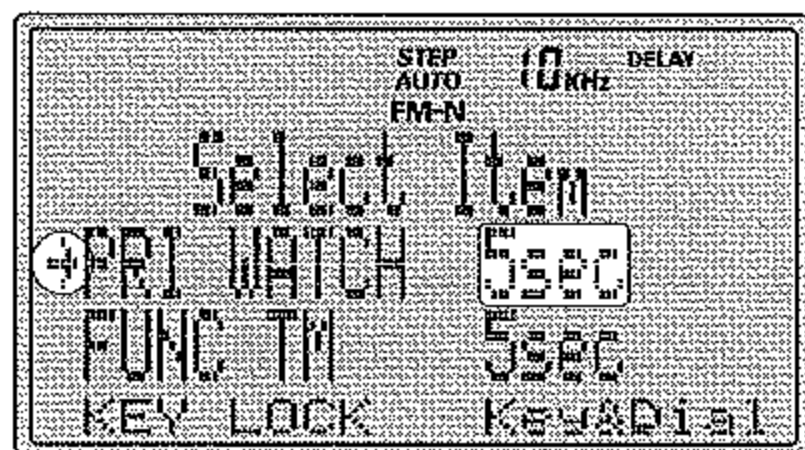
- (F)**を押したあとに **(5.0)**を押すと、プライオリティ機能が動作します。
- メモリーチャンネル（プライオリティチャンネル）に書き込まれた“メイン周波数”を確認しますので、“サブ周波数”に信号があっても、プライオリティ機能は停止しません。
 - ◎再び **(F)**を押したあとに **(5.0)**を押すと、プライオリティ機能の動作が停止し、プライオリティ機能を動作させる前の状態に戻ります。
 - ◎プライオリティチャンネルを受信中、**(F)**に続けて **(CLR)**を押すと、プライオリティチャンネルを受信したまま、プライオリティ機能が停止します。

■プライオリティチェック時間変更

プライオリティチャンネルをチェックする時間（工場出荷時は5秒）を変更することができます。

1. **(F)**を押したあとに **(ENT)**を押します。
2. DIAL ツマミで “→” を “MISC” にあわせて **(ENT)**を押します。
3. “→” が “PRI WATCH” を指していることを確認して **(ENT)**を押します。
4. DIAL ツマミをまわして希望の時間にあわせ **(ENT)**を押します。
5. DIAL ツマミで “→” を “END” にあわせて **(ENT)**を押します。
6. “→” が “WRITE” を指していることを確認して **(ENT)**を押します。

◎ “CANCEL” を選択すると設定中止, “RETRY” を選択すると、操作2からやり直すことができます。



スマートサーチ

設定した周波数範囲内にある、信号のある周波数を自動的に探し出し、指定したメモリーバンク内に書き込みます。

■スマートサーチの動作条件設定

1. **[F]**を押したあとに**[PMS]**を押します。
2. “→”が“PMS CH”を指していることを確認して**[ENT]**を押します。
3. DIAL ツマミで、動作条件を保存したいチャンネルにあわせて**[ENT]**を押します。
◎選択できるチャンネルは、すでに設定されているチャンネルまたは、何も設定されていない最も小さい番号です。
4. “→”が“PMS TAG”を指していることを確認して**[ENT]**を押します。
5. DIAL ツマミをまわすかキーボードを押して、チャンネルに付ける名前の1文字目を入力します。

◎キーボードの押しかたによって、下表に示す各種の文字を入力することができます。

《例》[B]を入力する場合：**[2]**を3回押します。

[e]を入力する場合：**[1]**を6回押します。

◎DIAL ツマミをまわすと、設定できるすべての文字や記号を順番に呼び出すことができます。

記号 ➡ 数字 ➡ 英大文字 ➡ 英小文字 ➡ 記号 ➡

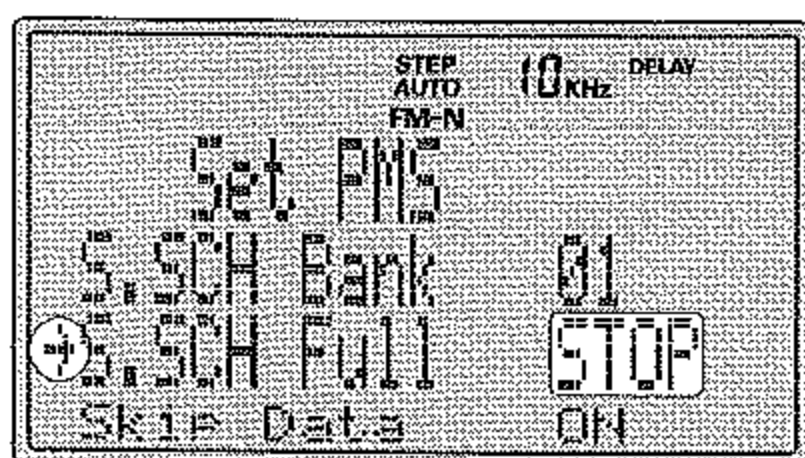
Key	選択できる文字	Key	選択できる文字	Key	文字設定中の機能
1	1 スペース	8	8 S T U s t u	BS	カーソル前文字削除
2	2 A B C a b c	9	9 V W X v w x	▼	左にカーソル移動
3	3 D E F d e f	0	0 Y Z y z	▲	右にカーソル移動
4	4 G H I g h i	DSP	! " \$ % & ' () * + :	CLR	文字設定中止
5	5 J K L j k l	—	—	F→CLR	入力文字の消去
6	6 M N O m n o	—	—	ENT	確定
7	7 P Q R p q r	—	—	—	—

6. **[ENT]**を押して“_”表示を次（右側）の桁に移動させます。
◎次に入力する文字が違ふキー上にあるときは、そのキーを押すと“_”表示は自動的に右へ移動します。
◎**[BS]**を押すと、一桁前の文字を消去することができます。
7. 操作5～6を繰り返して文字を入力し最後に**[ENT]**を押します。
8. “→”が“START F”を指していることを確認して**[ENT]**を押します。
9. スマートサーチをスタートさせたい周波数にあわせて**[ENT]**を押します。
10. “→”が“END F”を指していることを確認して**[ENT]**を押します。
11. スマートサーチを終了させたい周波数にあわせて**[ENT]**を押します。
● “START F”に設定した周波数より低い周波数を“END F”に設定した場合は、バンドエッジ（2599.99998MHz）側にスマートサーチを開始します。
12. DIAL ツマミで“→”を“END”にあわせて**[ENT]**を押します。
13. “→”が“WRITE”を指していることを確認して**[ENT]**を押します。
◎ “CANCEL”を選択すると設定中止，“RETRY”を選択すると操作2からやり直すことができます。

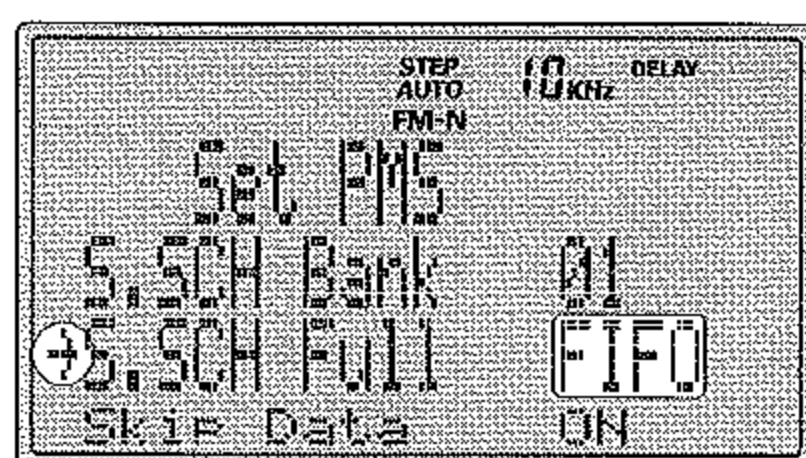
■書き込むメモリーバンクの指定

探し出した周波数を、何番のメモリーバンクに書き込むかを指定します。

1. **[F]**を押したあとに**[ENT]**を押します。
2. DIAL ツマミで“→”を“PMS”にあわせて**[ENT]**を押します。
3. “→”が“S.SCH Bank”を指していることを確認して**[ENT]**を押します。
4. DIAL ツマミでメモリーしたいバンクの番号にあわせて**[ENT]**を押します。
◎すでにメモリーが存在するメモリーバンクのみ、選択することができます。
5. “→”が“S.SCH Full”を指していることを確認します。
6. **[.]**を押すたびに“STOP”と“FIFO”が切り替わりますので、希望の書き込み条件にあわせます。



上書き禁止



上書き可能

7. DIAL ツマミで“→”を“END”にあわせて**[ENT]**を押します。
8. “→”が“WRITE”を指していることを確認して**[ENT]**を押します。
◎“CANCEL”は設定中止，“RETRY”は、操作2からやり直すことができます。

■スマートサーチを動作させる

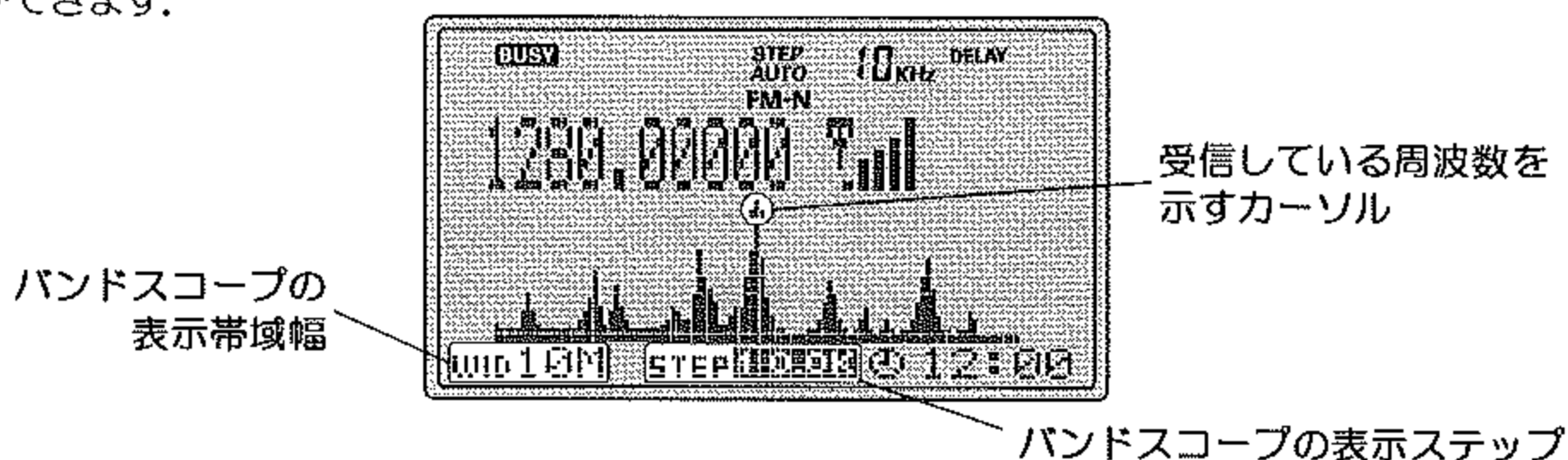
1. **[PMS]**を押します。
2. スキャンしたい周波数範囲が設定されているプログラムチャンネルを、テンキーで入力します。
◎プログラムチャンネルは、二桁で入力してください（例：5チャンネルの場合は05と入力）。
3. **[F]**を押したあとに**[3]**を押すとスマートサーチを開始します。
◎**[SCAN]**を押すと“スマートサーチ”は停止します。
◎**[V/M]**を押すと“スマートサーチ”を動作させる前のモードに戻ります。

■スマートサーチで書き込んだ周波数を呼び出す

1. メモリーモードにします。
2. **[<v>]**/**[>v>]**またはキーボードで、スマートサーチメモリーを書き込んだメモリーバンクを選択します。
3. DIAL ツマミをまわすと、書き込まれたメモリーを呼び出します。

バンドスコープ

VFOモード時、現在受信中の周波数を中心に、上下の周波数の使用状況をグラフで表示させることができます。

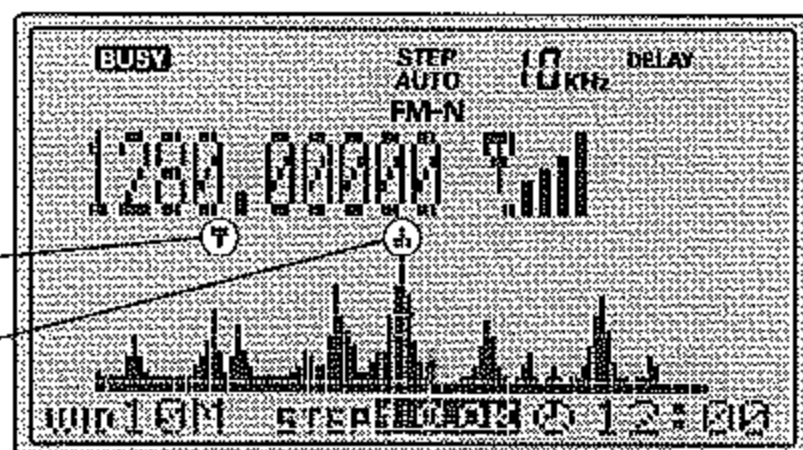


1. VFOモードにします。
2. **[BS]**を押すと、バンドスコープが表示されます。
 - ◎ DIAL ツマミをまわすか **[V/F]** / **[V/M]** を押すと、中心周波数を変更することができます。
 - ◎ **[WIDTH]** を押すと、表示帯域幅を 90kHz ~ 10MHz の範囲（右表参照）で変更することができます。
 - ◎ 次の操作で、表示ステップを変更することができます。
 1. **[MODE]** で電波型式をあわせませす（オートモードを解除します p.9）。
 2. **[STEP]** を押して、希望のステップにあわせませす。
 3. DIAL ツマミをまわしませす。
 - ◎ AM/FMモード時は、**[F]** に続けて **[WIDTH]** を押しても、表示ステップを変更することができます。
 - 次の操作を行うと、一旦バンドスコープ表示がクリアされ、再表示を開始しませす。
 - ◎ 受信モードを切り替える
 - ◎ **[STEP]** を押して周波数ステップを切り替えた後に、DIAL ツマミをまわす
 - ◎ 表示帯域幅を変更する
 - ◎ 表示されている周波数範囲外の周波数に変更する

■バンドスコープで見つけた信号をコピーする

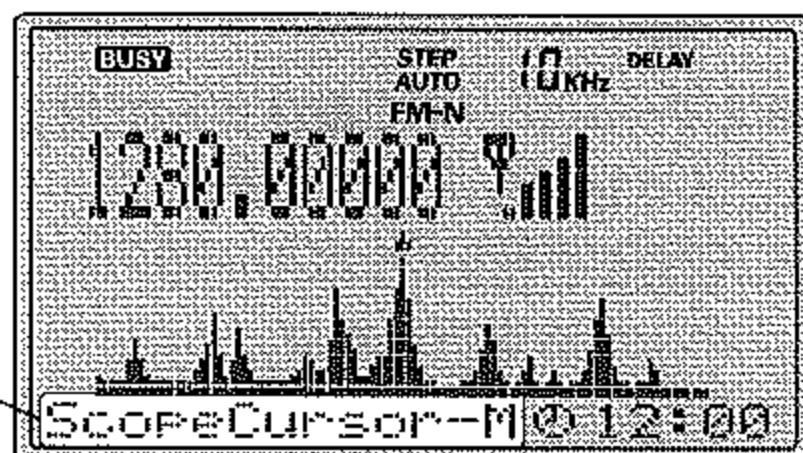
1. バンドスコープ動作中に **[M/S]** を押しませす。
 - ◎ サブバンド用のカーソルが表示されませす。

サブバンド用カーソル
メインバンド用カーソル



2. **[F]** を押ししたあとに **[BS]** を押しませす。
3. **[BS]** を押ししたたびに、コピーされるバンドが切り替わりますので、希望のバンドを選択しませす。

ScopeCursor-M : メインバンドにコピー
ScopeCursor-S : サブバンドにコピー



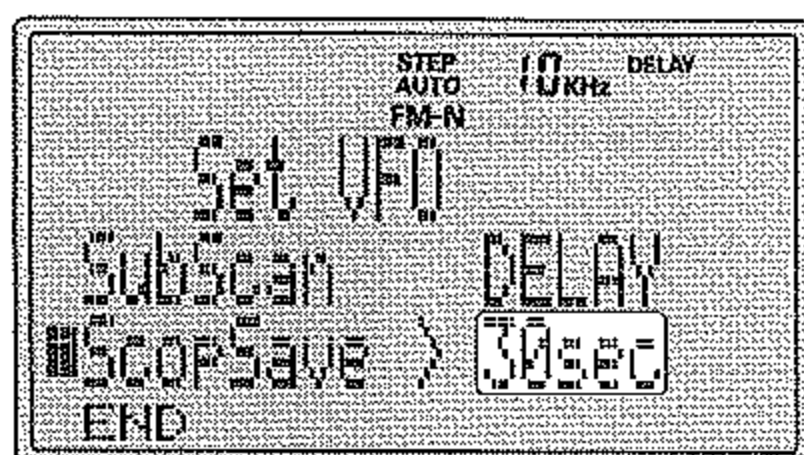
4. DIAL ツマミをまわすか **[V/F]** / **[V/M]** を押しして、カーソルをコピーしたい信号にあわせて **[COPY]** を押しませす。
 - ◎ **[M/S]** を押しすると、サブバンド用のカーソルを消灯させることができます。

■グラフの表示を一定時間保存する

バンドスコープ動作後、メインバンドとサブバンドを切り替えた後などに、再度バンドスコープに移った際、前回のグラフ表示を再度表示させることができますが、このグラフ表示を保存する時間を設定することができます。

1. **ENT** を押したあとに **ENT** を押します。
2. “→” が “VFO” を指していることを確認して **ENT** を押します。
3. DIAL ツマミで “→” を “ScopSave” にあわせて **ENT** を押します。
4. DIAL ツマミで保存したい時間を設定して **ENT** を押します。
5. “→” が “END” を指していることを確認して **ENT** を押します。
6. “→” が “WRITE” を指していることを確認して **ENT** を押します。

◎ “CANCEL” は設定中止、“RETRY” は、操作2からやり直すことができます。



組合せ可能な“表示帯域幅”と“BS ステップ”および“モード”

帯域幅	ステップ	モード	帯域幅	ステップ	モード	帯域幅	ステップ	モード	帯域幅	ステップ	モード	
100kHz	20Hz	LSB USB CW	500kHz	20Hz	LSB USB CW	2MHz	1kHz	※7	5MHz	1kHz	※7	
	100Hz			100Hz			5kHz	※3		5kHz	※3	
	500Hz			500Hz			6.25kHz	WAM FM-N		6.25kHz	WAM FM-N	
	1kHz	※1		1kHz	※1		9kHz	※7		9kHz	※7	
	5kHz	5kHz		※2	10kHz		※4	10kHz		※4		
	9kHz	※7		6.25kHz	WAM FM-N		12.5kHz	WAM FM-N		12.5kHz	WAM FM-N	
	10kHz	9kHz		※7	20kHz		※3	20kHz		※3		
	20kHz	10kHz		※3	25kHz		※3	25kHz		※3		
	25kHz	12.5kHz		WAM FM-N	50kHz		※4	50kHz		※4		
	50kHz	20kHz		※3			100kHz	※5		100kHz	※5	
200kHz 250kHz	1kHz	※7	1MHz	25kHz	※3	2.5MHz	500kHz	WFM	10MHz	500kHz	WFM	
	5kHz			100kHz			WAM FM-N	1kHz		※7	1kHz	※7
	9kHz			1kHz			※7	5kHz		※3	5kHz	※3
	10kHz			5kHz	※3		6.25kHz	WAM FM-N		6.25kHz	※6	
	20kHz			6.25kHz	WAM FM-N		9kHz	※7		9kHz	※7	
	25kHz			9kHz	※7		10kHz	※3		10kHz	※4	
	50kHz			10kHz	※4		12.5kHz	WAM FM-N		12.5kHz	※6	
300kHz	20Hz	LSB USB CW	1MHz	12.5kHz	WAM FM-N	2.5MHz	20kHz	※3	10MHz	20kHz	※3	
	100Hz			20kHz	25kHz		25kHz			25kHz		※4
	500Hz			25kHz	50kHz		50kHz			50kHz		※4
	1kHz			50kHz	※4		100kHz	WAM FM-N		100kHz	※5	
	5kHz			100kHz	※5		500kHz	WFM		500kHz	WFM	
				500kHz	WFM							

※1 : LSB/USB/CW/AM-N/AM
※2 : LSB/USB/CW/AM-N/AM/FM-N
※3 : AM-N/AM/WAM/FM-N

- ※1 : LSB/USB/CW/AM-N/AM
 ※2 : LSB/USB/CW/AM-N/AM/FM-N
 ※3 : AM-N/AM/WAM/FM-N
 ※4 : AM-N/AM/WAM/FM-N/WFM
 ※5 : WAM/FM-N/WFM
 ※6 : AM/WAM/FM-N
 ※7 : AM-N/AM

世界時計

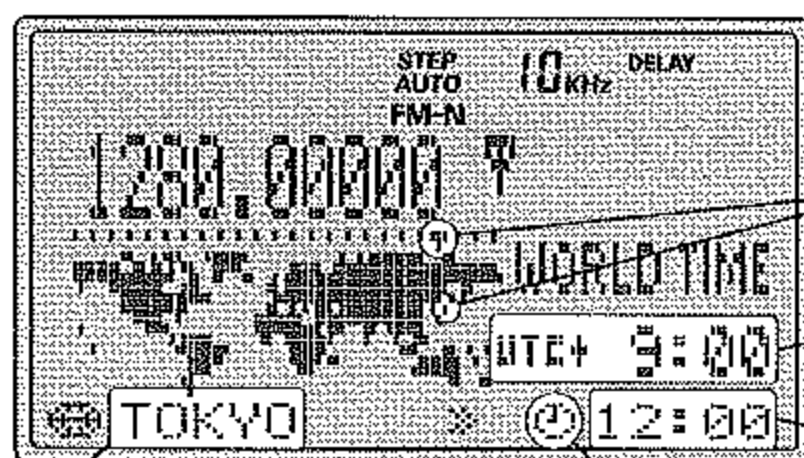
世界 66 の都市や地域（下表参照）の時間（グリニッジ標準時）を表示することができます。

1. **[F]** を押したあとに **[4]** を押します。
2. “→” が “WORLD TIME” を指していることを確認して **[ENT]** を押します。
3. DIAL ツマミまたは **[V]** / **[A]** で、希望の都市や地域にカーソルをあわせます。

◎ **[CLR]** を押して “→” が “CANCEL” を指していることを確認して **[ENT]** を押すと、世界時計を表示させる前の状態に戻ります。

◎ **[S]** を押すと “サマータイム” の時間を表示します。

◎ グリニッジ標準時ではなく、現在の時間を表示させたい場合は、“UTC の変更”（右ページ）操作で、基準都市を “TOKYO” にあわせてください。



おおよその場所を点滅表示

グリニッジ標準時との差

グリニッジ標準時

都市名または地域名

サマータイム表示中は **[S]**

登録されている都市名

表示	都市名	表示	都市名	表示	都市名
HONOLULU	ホノルル	DAKAR	ダカール	KABUL	カブール
TAHITI	タヒチ	LONDON	ロンドン	KARACHI	カラチ
ANCHORAG	アンカレッジ	MADRID	マドリッド	MALDIVES	モルディブ
VANCOUVR	バンクーバー	BARCELON	バルセロナ	NEW DELH	ニューデリー
SAN FRAN	サンフランシスコ	PARIS	パリ	CALCUTTA	カルカッタ
LOS ANGL	ロスアンゼルス	BRUSSELS	ブリュッセル	KATMANDU	カトマンズ
CALGARY	カルガリー	AMSTERDM	アムステルダム	DHAKA	ダッカ
DENVER	デンバー	ZURICH	チューリッヒ	YANGON	ヤンゴン
MEX CITY	メキシコ	ROME	ローマ	BANGKOK	バンコク
DALLAS	ダラス	BERLIN	ベルリン	JAKARTA	ジャカルタ
CHICAGO	シカゴ	VIENNA	ウィーン	SINGAPOR	シンガポール
MIAMI	マイアミ	STOCKHLM	ストックホルム	HONGKONG	ホンコン
TORONTO	トロント	ATHENS	アテネ	PERTH	パース
PANAMA	パナマ	HELSINKI	ヘルシンキ	BEIJING	ペキン
LIMA	リマ	CAIRO	カイロ	TAIPEI	タイペイ
MONTREAL	モントリオール	JERUSALM	エルサレム	SEOUL	ソウル
NEW YORK	ニューヨーク	NAIROBI	ナイロビ	TOKYO	トウキョウ
SANTIAGO	サンチャゴ	MOSCOW	モスクワ	ADELAIDE	アデレード
CARACAS	カラカス	JEDDAH	ジッタ	SYDNEY	シドニー
B. AIRES	ブエノスアイレス	RIYADH	リヤド	NOUMEA	ヌーメア
SAO PAUL	サンパウロ	TEHRAN	テヘラン	WELLNGTN	ウェリントン
CANARY I	カナリア諸島	DUBAI	ドバイ	FIJI	フィジー

登録されている都市の名称を変更する

1. **[F]**を押したあとに**[4]**を押します。
2. “→”が“WORLD TIME”を指していることを確認して**[ENT]**を押します。
3. DIAL ツマミをまわして、名称を変更したい都市にあわせます。
4. **[ENT]**を押します。
5. DIAL ツマミをまわすかキーボードを押して文字を入力します。
キーボードの押しかたによって、28 ページの表に示す各種の文字を入力することができます。
6. **[▲]**を押して、点滅表示を次（右側）の桁に移動させます。
◎次に入力する文字が違うキー上にあるときは、そのキーを押すと点滅表示は自動的に右へ移動します。
7. 操作5～6を繰り返して文字を入力し、最後に**[ENT]**を押します。
8. “→”が“WRITE”を指していることを確認して**[ENT]**を押します。
◎“CANCEL”を選択すると設定中止、“RETRY”を選択すると、操作2からやり直すことができます。

UTC の変更

本機の世界時計は、ロンドンを基準としたグリニッジ標準時*を表示するように設定してありますが、この基準を変更することにより、変更した都市や地域を基準とした時刻を表示することができます。

《例》基準都市を“ロンドン”にした場合と“東京”にした場合の表示時刻の違い。

（日本時間が 00:00 の時）

UTCの基準都市	選択都市	ディスプレイに表示される時刻
ロンドン	ロンドン	00:00
	東京	09:00
東京	ロンドン	15:00
	東京	00:00

1. **[F]**を押したあとに**[4]**を押します。
2. DIAL ツマミで“→”を“UTC Set”にあわせて**[ENT]**を押します。
3. DIAL ツマミをまわして、基準にしたい都市または地域にあわせます。
◎東京を基準にする場合は“TOKYO”にあわせます。
4. **[F]**を押したあとに**[9]**を押します。
5. **[CLR]**を押して“→”が“CANCEL”を指していることを確認して**[ENT]**を押します。
選択した都市または地域が基準に設定され、設定操作を行う前の状態に戻ります。

※本書では、便宜上“UTC（Coordinated Universal Time：協定世界時）”のことを“GMT（Greenwich Mean Time：グリニッジ標準時）”と記載しています。

アラーム機能

設定した時間になると自動的に電源を“ON”にする

設定した時間になると自動的に電源が“ON”になり、信号を受信する“ラジオアラーム機能”または、ピープ音を鳴らす“ピープアラーム機能”を動作させます。

■ラジオアラーム機能

設定した時間になると自動的に電源が“ON”になり、希望の周波数を受信することができます。

1. を押したあとにを押します。
2. “→”が“ALARM”を指していることを確認してを押します。
3. を押して表示を“RADIO”にあわせてを押します。
4. キーボードで、ラジオを“ON”にする時間を24時間制で設定しを押します。
5. DIAL ツマミで“→”を“END”にあわせてを押します。
6. “→”が“WRITE”を指していることを確認してを押します。

◎“CANCEL”を選択すると設定中止，“RETRY”を選択すると、操作2からやり直すことができます。

◎ラジオアラーム機能が動作中は、ディスプレイにが点灯します（本機の電源を“OFF”にしている間は表示は点灯しません）。

7. 電源が“ON”になったときに受信したい周波数にあわせます。

8. 電源を“OFF”にすると“ラジオアラーム”の設定は完了です。

◎ラジオアラーム機能を“OFF”にするときは、操作2での代わりにを押し（OFFが表示されます）、その後操作5に移ってください。

■ピープアラーム機能

設定した時間になると自動的に電源が“ON”になり、ピープ音を鳴らします。

1. を押したあとにを押します。
2. “→”が“ALARM”を指していることを確認してを押します。
3. を押して表示を“BEEP”にあわせを押します。
4. キーボードで、ピープ音を発する時間を24時間制で設定しを押します。
5. DIAL ツマミで“→”を“END”にあわせてを押します。
6. “→”が“WRITE”を指していることを確認してを押します。

◎“CANCEL”を選択すると設定中止，“RETRY”を選択すると、操作2からやり直すことができます。

◎ピープアラーム機能が動作中は、ディスプレイにが点灯します（本機の電源を“OFF”にしている間は表示は点灯しません）。

7. 電源を“OFF”にすると、ピープアラームの設定は終了です。

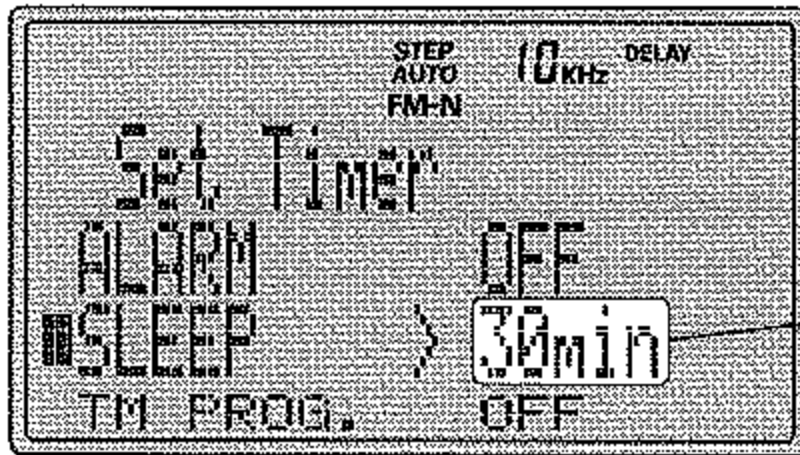
◎ピープ音はDIAL ツマミをまわすか、いずれかのキーを押すと停止します。

◎ピープアラーム機能を“OFF”にするときは、操作2での代わりにを押し（OFFが表示されます）、その後操作5に移ってください。

設定した時間が経過したら自動的に電源を“OFF”にする

あらかじめ設定した時間までにDIAL操作やキー操作を行わないと、自動的に電源が“OFF”になります（スリープ機能）。

1. **F**を押したあとに**S**を押します。
2. DIAL ツマミで“→”を“SLEEP”にあわせて**ENT**を押します。
3. DIAL ツマミで電源が“OFF”になるまでの時間（30/60/90/120分）を選択して**ENT**を押します。

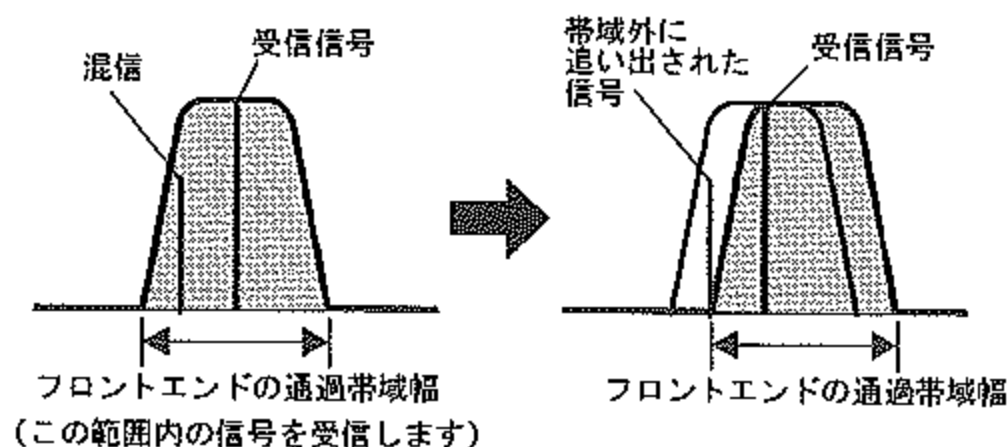


電源がOFFになるまでの時間

4. DIAL ツマミで“→”を“END”にあわせて**ENT**を押します。
5. “→”が“WRITE”を指していることを確認して**ENT**を押します。
 - ◎ “CANCEL”を選択すると設定中止，“RETRY”を選択すると、操作2からやり直すことができます。
 - ◎ 操作3の時に“OFF”を表示させるとタイマーの動作を中止することができます。
 - ◎ スリープ機能が動作中は、ディスプレイに**SLEEP**が点灯します。

フロントエンドを最適化する (RF チューン機能)

RF-BPFの値はすでにプリセットされておりますが、この値を変更することで、さらに最適なチューニングを行えるだけでなく、同時に不要な混信を軽減させることもできます。



1. **[F]**を押したあとに **[ENT]**を押します。
2. 最もよく受信できるように、DIAL ツマミをまわし **[ENT]**を押します。
 - 1.8MHz 以下ではLPF (ローパスフィルター)、1000MHz 以上ではBPF (バンドパスフィルター) として動作しますので、値を設定することができません。
 - ◎ RF チューンの値は、バンドごとに設定することができます。
 - ◎ 設定した値は自動的に記憶しますので、異なるバンドに周波数をあわせても、再び同バンドに戻ると、設定した値でRF チューン機能が動作します。
 - ◎ 操作1のあとに、**[F]**に続けて **[CLR]**を押すと、RF チューンの値を初期値に戻すことができます。

混信を軽減する (LO SHIFT機能/NOTCH機能/デジタルバンドパスフィルター機能 / CWフィルター機能/CWピッチ機能)

■ LO SHIFT 機能

受信信号の中に妨害信号が含まれているときは、ローカル周波数をシフトさせることにより、その妨害信号を除去できる場合があります。

1. **[F]**を押したあとに **[ENT]**を押します。
2. DIAL ツマミで“→”を“MISC”にあわせて **[ENT]**を押します。
3. DIAL ツマミで“→”を“LO SHIFT”にあわせます。
4. **[ON]**を押して“ON”にあわせます。
“OFF”にあわせると“LO SHIFT 機能”を“OFF”にすることができます。
5. DIAL ツマミで“→”を“END”にあわせて **[ENT]**を押します。
6. “→”が“WRITE”を指していることを確認して **[ENT]**を押します。
 - ◎ “CANCEL”を選択すると設定中止，“RETRY”を選択すると、操作2からやり直すことができます。

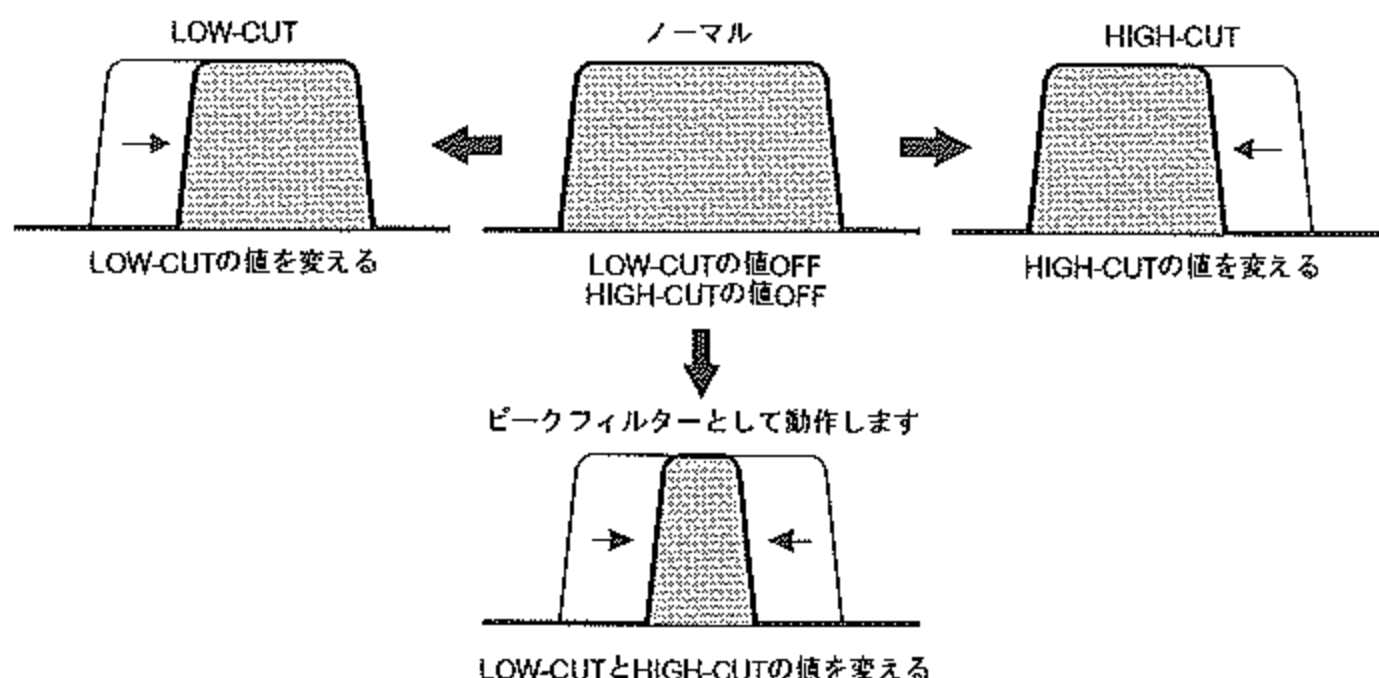
■ NOTCH 機能 (オプションの“DSP-1”が必要です)

受信信号に含まれる、不要なビート音を自動的に取り除くことができます。

1. **[F]**を押したあとに **[DSP]**を押します。
2. DIAL ツマミで“→”を“NOTCH”にあわせます。
3. **[ON]**を押して“ON”にあわせます。
“OFF”にあわせると“NOTCH 機能”を“OFF”にすることができます。
4. DIAL ツマミで“→”を“END”にあわせて **[ENT]**を押します。
5. “→”が“UPDATE”を指していることを確認して **[ENT]**を押し、続けて **[DSP]**を押します。
 - ◎ “CANCEL”を選択すると設定中止，“RETRY”を選択すると、操作2からやり直すことができます。

■デジタルバンドパスフィルター機能（オプションの“DSP-1”が必要です）

DSPによるデジタル・バンドパスフィルター回路により、シャープな特性の狭帯域フィルターを作り出すことができます（SSB,AM,FMモード時に、個別に違う値を設定することができます）。



1. **[F]**を押したあとに**[DSP]**を押します。
 2. “→”が“LOW-CUT”を指していることを確認して**[.]**を押します。
◎すでにデジタルバンドパス機能が動作している場合は、**[.]**を押さず、操作3に移ってください。
 3. **[ENT]**を押し、DIAL ツマミで“LOW-CUT”の値をあわせて**[ENT]**を押します。
◎LOW-CUTの値は100～1600 Hz（50Hz間隔）から選択することができます。
 4. DIAL ツマミで“→”を“HIGH-CUT”にあわせて**[ENT]**を押します。
 5. DIAL ツマミで“HIGH-CUT”の値をあわせて**[ENT]**を押します。
◎HIGH-CUTの値は1500～3000 Hz（50Hz間隔）から選択することができます。
 6. DIAL ツマミで“→”を“END”にあわせて**[ENT]**を押します。
 7. “→”が“UPDATE”を指していることを確認して**[ENT]**を押し、続けて**[DSP]**を押します。
◎“CANCEL”を選択すると設定中止，“RETRY”を選択すると、操作2からやり直すことができます。
- ◎操作2で“OFF”にあわせると“デジタルバンドパスフィルター機能”を“OFF”にすることができます。

■CWフィルター機能（オプションの“DSP-1”が必要です）

CWフィルターの通過帯域幅を変更し、混信を低減させることができます（CWモード時のみ）。

1. **[F]**を押したあとに**[DSP]**を押します。
 2. “→”が“CW-BW”を指していることを確認して**[.]**を押します。
◎すでにCWフィルター機能が動作している場合は、**[.]**を押さず、操作3に移ってください。
 3. **[ENT]**を押し、DIAL ツマミで希望の通過帯域幅にあわせて**[ENT]**を押します。
◎通過帯域幅は25/100/200/400 Hzから選択することができます。
 4. DIAL ツマミで“→”を“END”にあわせて**[ENT]**を押します。
 5. “→”が“UPDATE”を指していることを確認して**[ENT]**を押し、続けて**[DSP]**を押します。
◎“CANCEL”を選択すると設定中止，“RETRY”を選択すると、操作2からやり直すことができます。
- ◎操作3で“OFF”にあわせると“CWフィルター機能”を“OFF”にすることができます。

さらに進んだ使いかた

CW ピッチ機能 / ノイズブランカー機能 NR 機能 / アッテネーター機能

■ CW ピッチ機能（オプションの“DSP-1”が必要です）

CW フィルターの通過帯域幅をずらすことにより、さらに混信を低減させることができます（CW モード時のみ）。

1. **[F]**を押したあとに **[DSP]**を押します。
2. DIAL ツマミで“→”を“CW-PITCH”にあわせて **[ENT]**を押します。
◎すでに CW ピッチ機能が動作している場合は、**[ENT]**を押さず操作3に移ってください。
3. **[ENT]**を押し、DIAL ツマミで希望のシフト幅にあわせて **[ENT]**を押します。
◎シフト幅は 400 ~ 1100 Hz（50Hz 間隔）から選択することができます。
4. DIAL ツマミで“→”を“END”にあわせて **[ENT]**を押します。
5. “→”が“UPDATE”を指していることを確認して **[ENT]**を押し、続けて **[DSP]**を押します。
◎“CANCEL”を選択すると設定中止，“RETRY”を選択すると、操作2からやり直すことができます。

雑音を軽減する（ノイズブランカー機能 / NR 機能）

■ ノイズブランカー機能（SSB / CW / AM モード時のみ）

自動車のイグニッションノイズのようなパルス性雑音を軽減することができます。

[F]を押したあとに **[NB]**を押します。

- ◎ノイズブランカー機能を解除するには、再度 **[F]**を押したあとに **[NB]**を押します。
- ◎ノイズブランカー機能が動作中は、ディスプレイに“NB”が点灯します。

■ NR 機能（オプションの“DSP-1”が必要です）

連続した帯域性のノイズを軽減することができます。

1. **[F]**を押したあとに **[DSP]**を押します。
 2. DIAL ツマミで“→”を“NR”にあわせて **[ENT]**を押します。
◎すでに NR 機能が動作している場合は、**[ENT]**を押さず操作3に移ってください。
 3. **[ENT]**を押し、DIAL ツマミで“NR”のレベルをあわせて **[ENT]**を押します。
◎NR のレベルは 0 ~ 15 から選択することができ、数字が大きくなるほど激しいノイズに効果を発揮します。
 4. “→”が“END”を指していることを確認して **[ENT]**を押します。
 5. “→”が“UPDATE”を指していることを確認して **[ENT]**を押し、続けて **[DSP]**を押します。
◎“CANCEL”を選択すると設定中止，“RETRY”を選択すると、操作2からやり直すことができます。
- ◎操作2で“OFF”にあわせると“NR 機能”を“OFF”にすることができます。

受信感度を下げる（アッテネーター機能）

受信信号が強すぎる場合や、近くに強力な信号があり、目的の信号が聞きにくい場合、アッテネーター（ATT）を動作させると聞きやすくなる場合があります。

[F]を押したあとに **[ATT]**を押します。

アッテネーターを解除するには、再度 **[F]**を押したあとに **[ATT]**を押します。

◎アッテネーターの減衰量は約 20dB です。

◎アッテネーターが動作中は、ディスプレイに“ATT”が点灯します。

周波数などが変わらないようにする（ロック機能）

誤ってキーボードやDIALツマミに触れても、周波数などが変わらないようにすることができます。

① ①を押したあとに②を押します。

ロック機能が動作して、ディスプレイにが表示されます。

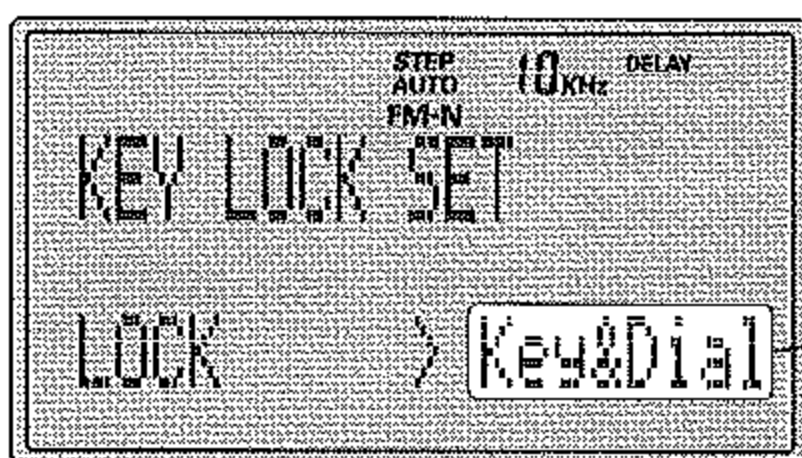
② ロック機能を解除するには、再度①を押したあとに②を押します。

③ DIAL ツマミだけ、またはキーボードだけをロックさせることができます（下記“ロック条件とパスワードの設定”参照）。

④ パスワードを入力しないと、ロックを解除できないようにすることができます（下記“ロック条件とパスワードの設定”参照）。

■ロック条件とパスワードの設定

- ① ①を押したあとに③を押します。
- DIAL ツマミで“→”を“MISC”にあわせて③を押します。
- DIAL ツマミで“→”を“KEY LOCK”にあわせて③を押します。
- ④を押して希望のロック条件にあわせて③を押します。



Key&Dial：キーボードとDIAL ツマミをロック
KEY： キーボードだけをロック
Dial： DIAL ツマミだけをロック

5. 4桁の数字でパスワードを入力して③を押します。

② パスワードの設定が必要ない場合は、数字を入力せずに③を押します。

③ ロック機能を解除するときは、パスワード入力画面でパスワードを入力し③を押します。

●以後、ロック機能に関する操作を行う際には、必ずパスワードが必要になりますので、忘れないように注意してください。

6. “→”が“WRITE”を指していることを確認し③を押します。

② “CANCEL”を選択すると設定中止，“RETRY”を選択すると、操作2からやり直すことができます。

■パスワードの解除

- ① ①を押したあとに③を押します。
- DIAL ツマミで“→”を“MISC”にあわせて③を押します。
- DIAL ツマミで“→”を“KEY LOCK”にあわせて③を押します。
- パスワードを入力して③を押します。
- ③を押し、続けて①⇒④⇒③と押します。
- “→”が“WRITE”を指していることを確認し③を押します。

さらに進んだ使いかた

ステップ変更 / ファンクション時間設定 ビープ音 “OFF” 機能 / ディマー調整

周波数ステップを変更する（ステップ変更）

DIAL ツマミや  または  キーを操作したときの周波数変化量（周波数ステップ）を変えることができます。

1. **MODE** を押して “AUTO” 以外のモードにあわせます。
2. **STEP** を押して希望の周波数ステップを選択します。

モード	設定可能なステップ（単位記載のない値は全て kHz）
LSB/USB/CW	20Hz / 100Hz / 500Hz / 1 / 5
AM-N/AM/WAM	1 / 5 / 9 / 10 / 20 / 25 / 50 / 100 / 500
FM-N	5 / 6.25 / 10 / 12.5 / 20 / 25 / 50 / 100 / 500
WFM	10 / 50 / 100 / 500

ⓐ キーの有効時間を変更する（ファンクション時間設定）

ファンクション動作（ディスプレイ左上に “” が表示される）が終了するまでの時間を設定することができます。

1. **F** を押したあとに **ENT** を押します。
2. DIAL ツマミで “→” を “MISC” にあわせて **ENT** を押します。
3. DIAL ツマミで “→” を “FUNC TM” にあわせて **ENT** を押します。
4. DIAL ツマミで希望の時間を設定して **ENT** を押します。

◎有効時間は “1 / 2 / 3 / 5 / 10（秒） / Togg1（再び押されるまで有効）” から、選択することができます。

5. DIAL ツマミで “→” を “END” にあわせて **ENT** を押します。
6. “→” が “WRITE” を指していることを確認して **ENT** を押します。

◎ “CANCEL” を選択すると設定中止，“RETRY” を選択すると、操作2からやり直すことができます。

操作音を鳴らないようにする（ビープ音 “OFF” 機能）

キー操作音などの操作確認音などのビープ音を、鳴らないようにすることができます。

1. **F** を押したあとに **ENT** を押します。

再びビープ音が鳴るようにするには、再度 **F** を押したあとに **ENT** を押します。

ディスプレイの明るさを変える（ディマー調整）

ディスプレイの明るさを調整することができます。

1. **V** を押します。
2. DIAL ツマミで希望の明るさに設定して **ENT** を押します。

◎明るさは0（暗い）～7（明るい）までの中から選択できます。

●音声機能（48 ページ）が動作中は、**F** を押したあとに **V** を押してください。

ディスプレイのコントラストを変える（コントラスト調整）

ディスプレイのコントラスト（明瞭度）を調整することができます。

1. **[F]**を押したあとに**[ENT]**を押します。
2. DIAL ツマミで“→”を“MISC”にあわせて**[ENT]**を押します。
3. DIAL ツマミで“→”を“LCD Cont”にあわせて**[ENT]**を押します。
4. DIAL ツマミで希望のコントラストにあわせて**[ENT]**を押します。
◎設定値は“0”（薄い）～“15”（濃い）から選択することができます。
5. DIAL ツマミで“→”を“END”にあわせて**[ENT]**を押します。
6. “→”が“WRITE”を指していることを確認して**[ENT]**を押します。

◎“CANCEL”を選択すると設定中止，“RETRY”を選択すると、操作2からやり直すことができます。

信号の電界強度をグラフ表示する①（簡易電界強度表示機能）

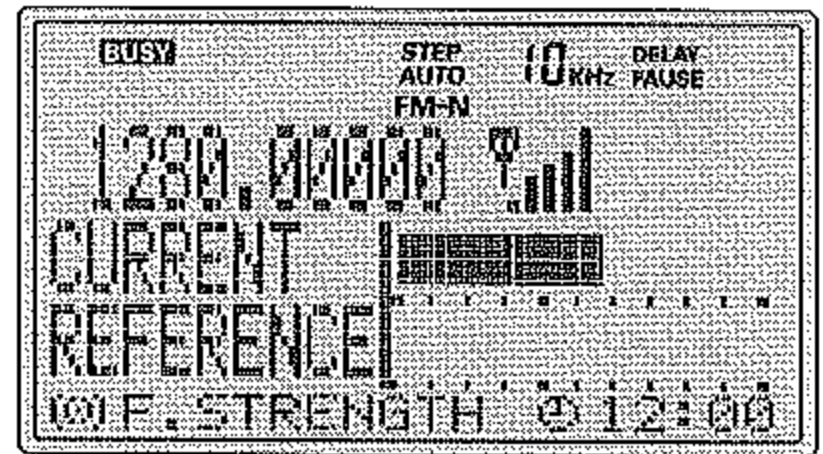
1. **[F]**を押したあとに**[4]**を押します。
2. DIAL ツマミで“→”を“BASE FIELD STRENGTH”にあわせて**[ENT]**を押します。
3. 現在受信している信号レベルを表示します。

CURRENT : 受信中の信号レベルを表示します

REFERENCE : ピークレベルを表示します

◎ピークレベルは**[0]**を押すと現在受信している信号レベルと同じレベルに設定されます。

◎**[ENT]**を押すとピークレベルを保存することができます。



◎信号を受信していないときでも、メーターが若干振れますが、故障ではありません。

4. **[CLR]**を押して“→”が“CANCEL”を指していることを確認して**[ENT]**を押すと、通常のモードに戻ります。

◎“RETRY”を選択すると、操作2からやり直すことができます。

信号の電界強度をグラフ表示する②（簡易電界強度表示機能）

1. **[F]**を押したあとに**[4]**を押します。
2. DIAL ツマミで“→”を“CURRENT FIELD STR.”にあわせて**[ENT]**を押します。
3. 現在受信している信号レベルを表示します。

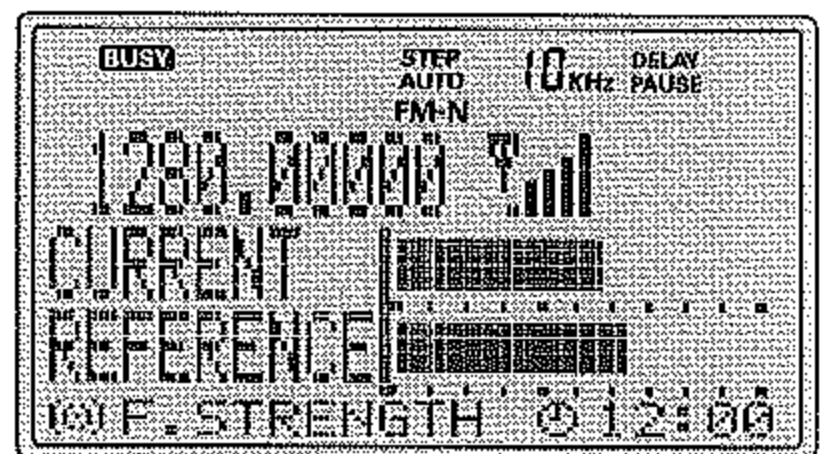
CURRENT : 受信中の信号レベルを表示します

REFERENCE : 保存されているピークレベルを表示します

◎信号を受信していないときでも、メーターが若干振れますが、故障ではありません。

4. **[CLR]**を押して“→”が“CANCEL”を指していることを確認して**[ENT]**を押すと、通常のモードに戻ります。

◎“RETRY”を選択すると、操作2からやり直すことができます。



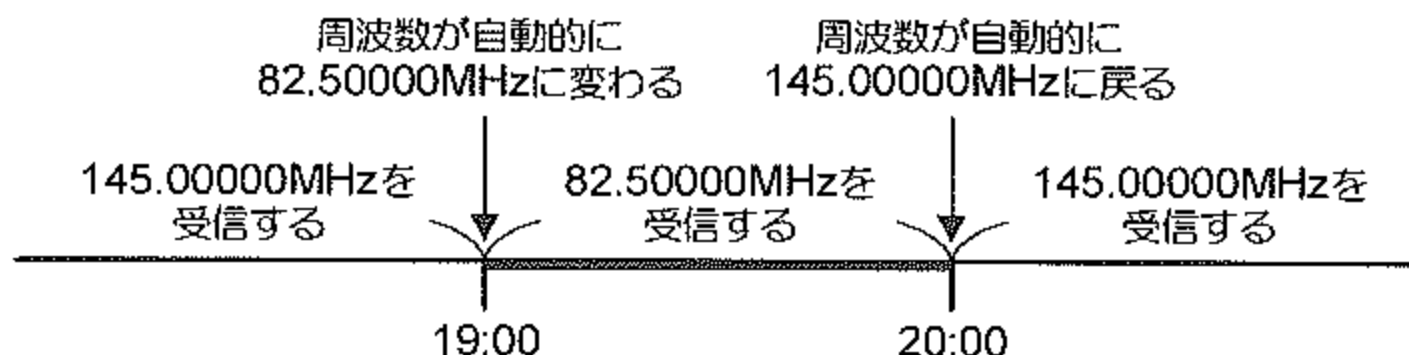
さらに進んだ使いかた

タイムプログラム機能

設定した時間に自動的に周波数を変更する（タイムプログラム機能）

放送開始と終了の時間を設定しておくことにより、設定した時間になると自動的に周波数が変わり、放送終了後は、プログラムが動作する前の周波数に戻ります。

《例》現在受信中の周波数が 145.00000MHz で、19:00～20:00 に 82.50000MHz を受信するようにプログラムしたとき。



■プログラムを設定する

◎合計 48 のプログラムを設定することができます。

1. プログラムがスタートしたときに受信したい周波数を、メインバンドにあわせます。

●サブバンドの周波数を受信することはできません。

2. **[F]**を押したあとに **[9]**を押します。

3. DIAL ツマミで “→” を “TM PROG.” にあわせて **[ENT]**を押します。

4. **[ENT]**を押します。

5. DIAL ツマミで、プログラムを “ON” にする時間を設定して **[ENT]**を押します。

6. DIAL ツマミで、プログラムを “OFF” にする時間を設定して **[ENT]**を押します。

● ON/OFF 時間は、24 時間制の 10 分単位で設定してください。

●すでに設定されているプログラムの、ON時間とOFF時間の範囲内に設定することはできません。

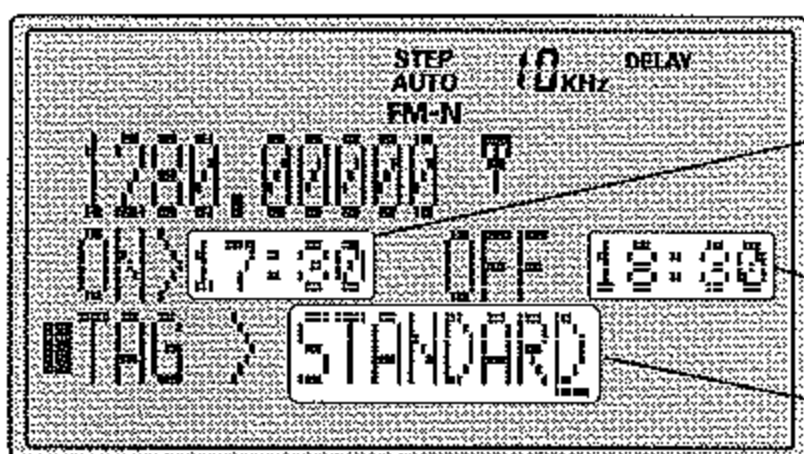
●ラジオアラーム機能（34 ページ）の ON 時間と同じ時間に設定すると、ラジオアラーム機能が優先されますので、本機能は動作しません。

●プログラムの途中で、日付が変わるような時間の組合せを設定することはできません（例：ON 時間を 23:30、OFF 時間を 00:30 など）。

7. DIAL ツマミをまわすかキーボードを押して、プログラムに付ける名前を入力（8 文字まで）し、最後に **[COPY]**を押します。

◎キーボードの押しかたによって、28 ページの表に示す各種の文字を入力することができます。

◎名前を付けない場合は **[COPY]**を押して、操作 8 に進んでください。



8. “→” が “WRITE” を指していることを確認して **[ENT]**を押します。

◎ “CANCEL” を選択すると設定中止，“RETRY” を選択すると、操作 3 からやり直すことができます。

入力音声波形表示機能

■プログラムを動作させる

- タイムプログラム機能には、日付の設定がありませんので、プログラムをONにすると、毎日設定した時間にプログラムが動作します。
- “世界の放送局”（14 ページ）または“PS メモリー”（15 ページ）が動作しているときは、タイムプログラム機能は動作しません。

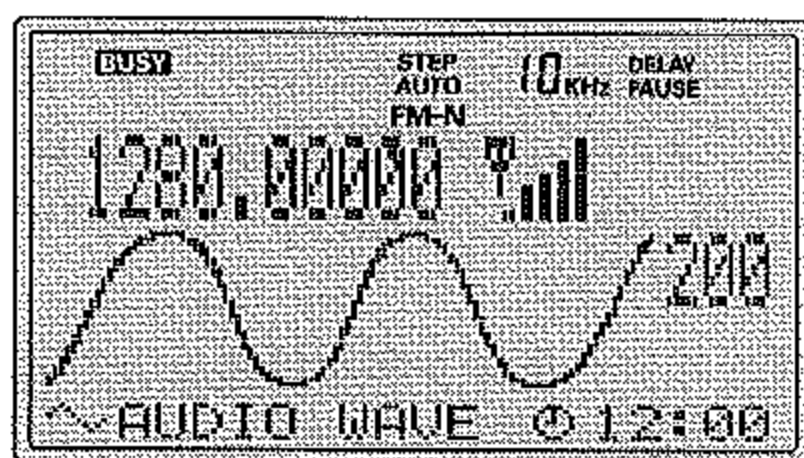
1. **[F]**を押したあとに**[9]**を押します。
2. DIAL ツマミで“→”を“TM PROG.”にあわせて**[ENT]**を押します。
“OFF”の表示が“ON”に変わり、タイムプログラム機能が動作します。
3. DIAL ツマミで“→”を“END”にあわせて**[ENT]**を押します。
4. “→”が“WRITE”を指していることを確認して**[ENT]**を押します。
 - ◎“CANCEL”を選択すると設定中止，“RETRY”を選択すると、操作2からやり直すことができます。
 - ◎操作2の時に“OFF”を表示させると、タイムプログラム機能を中止することができます。
 - ◎プログラムが動作中は、ディスプレイに**PROG**が点灯します。

■プログラムを消去する

1. **[F]**を押したあとに**[9]**を押します。
2. DIAL ツマミで“→”を“TM PROG.”にあわせて**[ENT]**を押します。
3. DIAL ツマミで“→”を消去したいプログラムにあわせします。
4. **[ENT]**に続けて**[COPY]**を押します。
5. “→”が“WRITE”を指していることを確認して**[ENT]**を押します。
 - ◎“CANCEL”を選択すると設定中止，“RETRY”を選択すると、操作2からやり直すことができます。

信号の音声波形を表示する（入力音声波形表示機能）

1. **[F]**を押したあとに**[4]**を押します。
2. DIAL ツマミで“→”を“AUDIO WAVE”にあわせて**[ENT]**を押します。
 - ◎現在の入力音声を波形で表示します。
 - ◎**[V]**または**[M]**キーを押すと、表示周期の間隔を10ms ステップで50ms～200msの間から選択することができます。
3. **[ENT]**を押して“→”が“CANCEL”を指していることを確認して**[ENT]**を押すと、通常モードに戻ります。
 - ◎“RETRY”を選択すると、操作2からやり直すことができます。



※イラストの波形はイメージです。

さらに進んだ使いかた

スキャン機能を選択する (1)

停止したスキャンが再開する条件を変更する

信号を受信してスキャンが停止したときの、“スキャンが再開する条件”を、以下の3種類から選択することができます。

ディレイスキャン (DELAY)

信号が無くなるまで受信し、信号が無くなると約2秒後にスキャンが再開します。

◎スキャンが再開するまでの時間を変更することができます。(45 ページ)

ポーズスキャン (PAUSE)

スキャンが一旦停止したあと、信号を2秒間受信します。ただし、途中で信号が無くなった場合は、1秒後にスキャンが再開します。

◎信号受信の時間とスキャンが再開するまでの時間を変更することができます。(45 ページ)

ホールドスキャン (HOLD)

スキャンが一旦停止したあと、2秒間信号を受信し、スキャンが終了します。

ただし、途中で信号が無くなった場合は、1秒後にスキャンが再開します。

◎信号受信の時間とスキャンが再開するまでの時間を変更することができます。(45 ページ)

■ VFO スキャンが再開する条件の変更方法

1. **[F]**を押したあとに**[ENT]**を押します。
2. “→”が“VFO”を指していることを確認して**[ENT]**を押します。
3. “→”が“MainScan”を指していることを確認し、**[.]**を押して希望の“スキャン再開条件”にあわせて**[ENT]**を押します。

◎サブバンドの“スキャン再開条件”を変更する場合は、“SubScan”にあわせて設定してください。



DELAY : ディレイスキャン
PAUSE : ポーズスキャン
HOLD : ホールドスキャン

4. DIAL ツマミをまわして“→”を“END”にあわせて**[ENT]**を押します。
 5. “→”が“WRITE”を指していることを確認して**[ENT]**を押します。
- ◎“CANCEL”を選択すると設定中止，“RETRY”を選択すると、操作2からやり直すことができます。

■ メモリーチャンネルスキャンが再開する条件の変更方法

1. **[V/M]**を押してメモリーモードにします。
2. **[V/M]** / **[BANK]**で、設定したいメモリーバンクを選択して**[BANK]**を押します。
3. DIAL ツマミをまわして“→”を“ScanStop”にあわせ、**[.]**を押して希望の“スキャン再開条件”にあわせて**[ENT]**を押します。
4. DIAL ツマミをまわして“→”を“END”にあわせて**[ENT]**を押します。
5. “→”が“WRITE”を指していることを確認して**[ENT]**を押します。

◎“CANCEL”を選択すると設定中止，“RETRY”を選択すると、操作2からやり直すことができます。

スキャン機能を選択する (2)

スキャン停止中の各動作時間を変更する

1. **[F]**を押したあとに**[ENT]**を押します。
2. DIAL ツマミで“→”を“SCAN TM”にあわせて**[ENT]**を押します。
3. DIAL ツマミで変更したい項目にあわせて**[ENT]**を押します。

M-DELAY： 信号が無くなってからスキャンが再開するまでの時間

M-P.DELAY： “M-PAUSE”の時間が経過する前に信号が無くなった場合に、スキャンを再開させるまでの時間

M-PAUSE： 信号の有無に関わらず、スキャンが再開するまでの時間

M-H.DELAY： “M-HOLD”の時間が経過する前に信号が無くなった場合に、スキャンを再開させるまでの時間

M-HOLD： 信号受信後、スキャンが終了するまでの時間

◎サブバンドに対しての設定はS-XXXXXを選択してください。

4. DIAL ツマミで希望の秒数にあわせて**[ENT]**を押します。
5. DIAL ツマミで“→”を“END”にあわせて**[ENT]**を押します。
6. “→”が“WRITE”を指していることを確認して**[ENT]**を押します。

◎“CANCEL”を選択すると設定中止，“RETRY”を選択すると操作2に戻りますので、続けて他の項目の選択を行うことができます。

モードセレクトスキャン（メモリーモード時のみ）

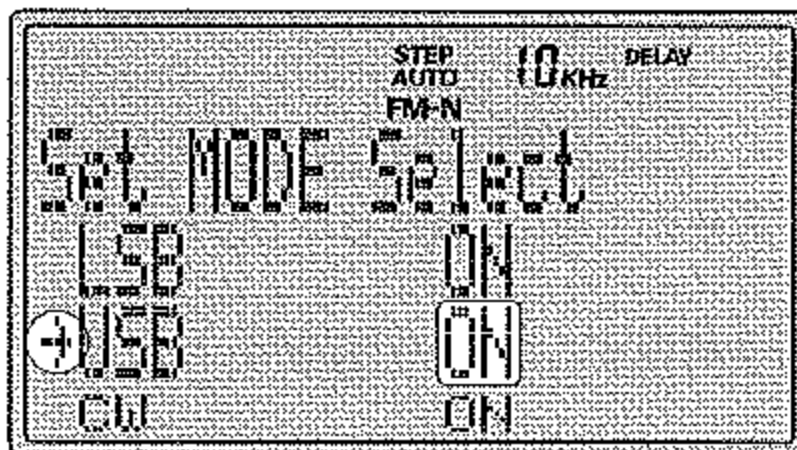
指定したモード（電波型式）のメモリーチャンネルだけをスキャンします。

1. **[F]**を押したあとに**[ENT]**を押します。
2. DIAL ツマミで“→”を“MR”にあわせて**[ENT]**を押します。
3. DIAL ツマミで“→”を“MODE SEL”にあわせて**[ENT]**を押します。

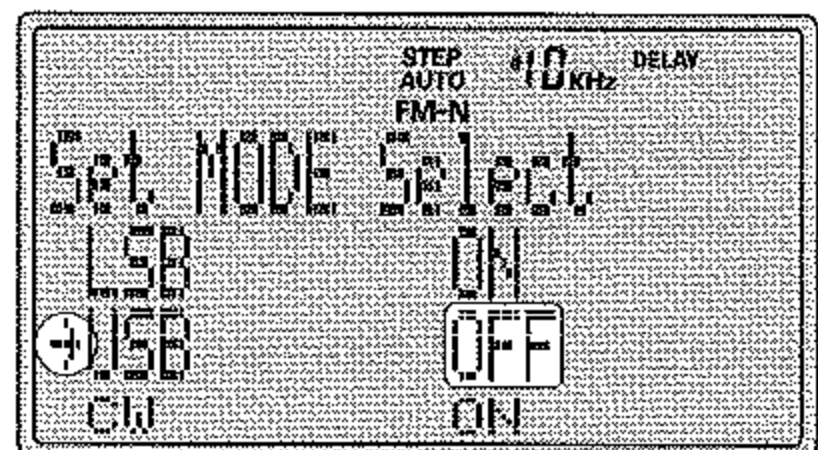
◎すでにモードスキャンを設定している場合は、**[ENT]**を押さず操作4に移ってください。

4. **[ENT]**を押し、DIAL ツマミで“→”を設定したいモードにあわせます。
5. **[ENT]**を押すたびに“ON/OFF”が切り替わりますので、希望の条件にあわせます。

《例》USB モードを変更する場合。



スキャンを行う



このモードはスキャンしない

6. DIAL ツマミで“→”を“END”にあわせて**[ENT]**を押します。
7. “→”が“WRITE”を指していることを確認して**[ENT]**を押します。

◎“CANCEL”を選択すると設定中止，“RETRY”を選択すると、操作3からやり直すことができます。

スキャン機能を選択する (3)

スキャンが停止する条件を変更する

スキャンが一時停止する条件を、“信号を受信”だけではなく、同時に“信号の強さ（Sメータースキャン）”または“音声の有無（音声スキャン）”の条件もあわせることができます。

■ Sメータースキャン（メモリーモード、PMS時のみ）

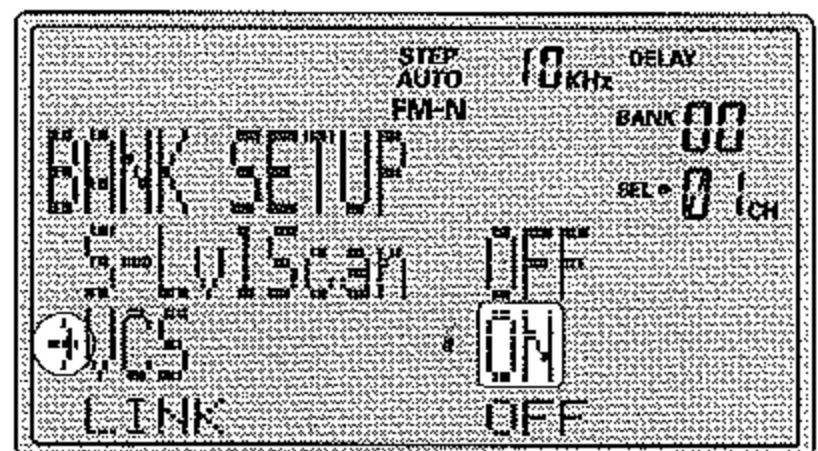
設定されたレベル以上の信号だけを探します。

1. **F**を押したあとに **V/M**を押します。
2. “→”が“Channel”を指していることを確認して **ENT**を押します。
3. **▼**/**▲**またはキーボードで、Sメータースキャンを行いたいメモリーバンクを選択して **BANK**を押します。
4. DIAL ツマミで“→”を“S-LvlScan”にあわせて **ON**を押します。
◎すでにSメータースキャンを設定している場合は、**ON**を押さず操作5に移ってください。
5. **ENT**を押し、DIAL ツマミで希望のレベルにあわせて **ENT**を押します。
6. DIAL ツマミで“→”を“END”にあわせて **ENT**を押します。
7. “→”が“WRITE”を指していることを確認して **ENT**を押します。
◎“CANCEL”を選択すると設定中止，“RETRY”を選択すると、操作3からやり直すことができます。
◎操作5で **OFF**を押して“OFF”にあわせると、Sメータースキャンを解除することができます。

■メモリーモード時の音声スキャン

メモリーチャンネルスキャンの際、音声が含まれた信号だけを探します。

1. メモリーモード時に、**F**を押したあとに **V/M**を押します。
2. “→”が“Channel”を指していることを確認して **ENT**を押します。
3. **▼**/**▲**またはキーボードで音声スキャンを行いたいメモリーバンクを選択して **BANK**を押します。
4. DIAL ツマミで“→”を“VCS”にあわせします。
5. **ON**を押して表示を“ON”にします。
6. DIAL ツマミで“→”を“END”にあわせて **ENT**を押します。
7. “→”が“WRITE”を指していることを確認して **ENT**を押します。
◎“CANCEL”を選択すると設定中止，“RETRY”を選択すると、操作3からやり直すことができます。
◎操作5で“OFF”にあわせると、音声スキャンを解除することができます。



■ VFOモード時の音声スキャン

VFO スキャンの際、音声が含まれた信号だけを探します。

VFO モード時に、**F**を押したあとに **7**を押します。

◎ディスプレイに“VCS”が表示されます。

◎再度 **F**を押したあとに **7**を押して“VCS”を消灯させると、音声スキャンを解除することができます。

放送局の周波数リストを変更する

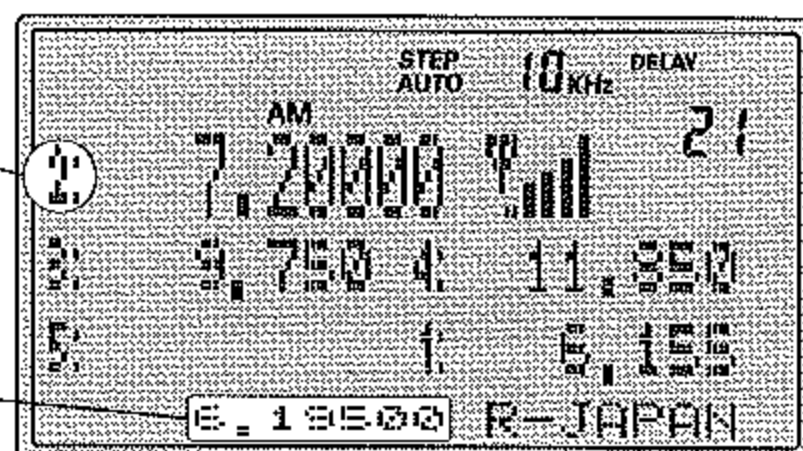
すでに登録されている放送局の周波数を変更することができます。

1. 新しく登録したい周波数にあわせます。
2. **F**を押したあとに **A**を押します。
3. DIAL ツマミで “→” を “STATION FREQ. WRITE” にあわせて **ENT**を押します。
4. または を押して、希望の地域を選択します（下表参照）。
5. DIAL ツマミで変更したいチャンネルを選択して **ENT**を押します。

《例》 R-JAPAN の2チャンネルの周波数を 6.19500MHz に変える場合

変更したいチャンネルにあわせる

変更後の周波数



6. “→” が “WRITE” を指していることを確認して **ENT**を押します。

◎ “CANCEL” を選択すると設定中止，“RETRY” を選択すると、操作3からやり直すことができます。

地域番号	表示	国名	放送局名	登録周波数 (MHz)
00	VOA	アメリカ	Voice Of America	6.030 6.160 9.760 11.930
01	R-CANADA	カナダ	Radio Canada International	5.995 7.235 9.735 11.705
02	R-PORTUG	ポルトガル	Radio Portugal	9.780 11.960 15.555 21.655
03	SPAIN	スペイン	Radio Exterior de Espana	7.270 9.520 11.920 15.585
04	BBC	イギリス	British Broadcasting Corporation	6.195 9.410 12.095 15.310
05	R-FRANCE	フランス	Radio France International	6.045 9.790 11.670 15.525
06	BELGIUM	ベルギー	Radio Vlaanderen International	5.985 9.925 13.740 11.780
07	R-NEDERL	オランダ	Radio Nederland	5.955 6.020 9.895 11.655
08	R-LUXEMB	ルクセンブルグ	Radio Luxembourg	6.090
09	D-WELLE	ドイツ	Deutsche Welle	3.955 6.075 9.545 9.735
10	SWISS-R	スイス	Swiss Radio International	3.985 6.165 9.885 15.220
11	R-NORWAY	ノルウェー	Radio Norway International	7.485 9.590 9.985 13.800
12	ITALY	イタリア	Italian Radio International (RAI)	6.060 7.175 9.515 17.710
13	R-DENMAR	デンマーク	Radio Denmark	9.590 9.985 13.800 15.735
14	R-SWEDEN	スウェーデン	Radio Sweden	6.065 9.490 13.625 17.505
15	R-FINLAN	フィンランド	Radio Finland	6.120 9.630 9.795 11.755
16	ISRAEL	イスラエル	Israel Broadcasting Authority	9.435 11.585 15.615 17.545
17	RUSSIA	ロシア	Voice of Russia	5.920 5.940 7.205 12.030
18	INDIA	インド	All India Radio (AIR)	6.045 9.595 11.620 15.020
19	CHINA-R	中国	China Radio International (CRI)	5.250 7.190 9.855 11.685
20	R-KOREA	韓国	Radio Korea	5.975 7.275 9.570 13.670
21	R-JAPAN	日本	Radio Japan	6.155 7.200 9.750 11.850
22	R-AUSTRA	オーストラリア	Radio Australia	5.995 9.580 9.660 12.080

さらに進んだ使いかた

音声機能

周波数を音声で確認する（オプションの“FVS-1A”が必要です）

メインバンドの周波数を変更した際に、音声で周波数を確認することができます。

Ⓢを押したあとにⓂを押すと、メインバンドの周波数を発声します。

◎ 以後Ⓜを押すか、DIAL ツマミで周波数を変更するたびに発声します。

◎ 再度Ⓢを押したあとにⓂを押すと“周波数発声機能”が“OFF”になります。

◎ 発声する音声の音量は、SUB VOLで調節することができます。

● スキャン中および、VFOモード時以外では、周波数を発声しません。

音声録音・再生機能（オプションの“DVS-4”が必要です）

受信している音声を、最大16秒間録音することができます。

■録音のしかた

1. Ⓢを押したあとにMODEを押します。

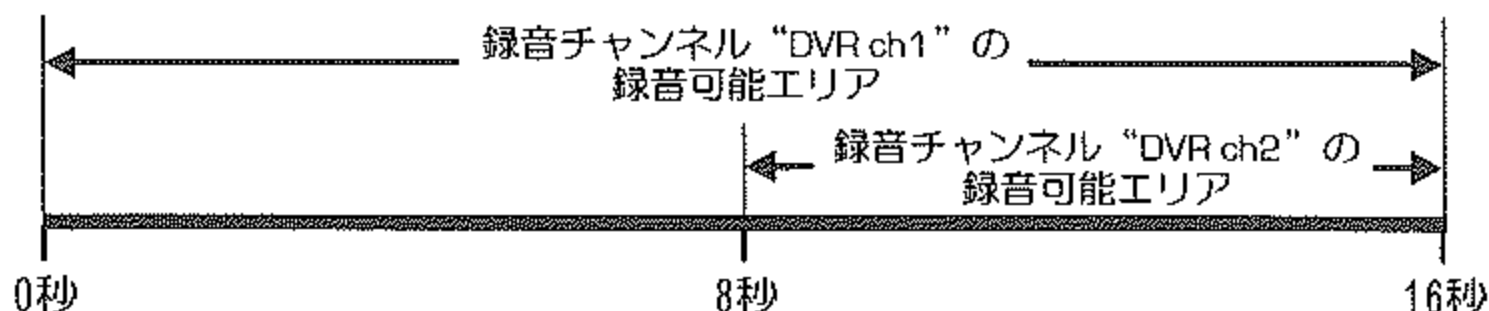
2. MODEを押すたびに録音するチャンネルが切り替わりますので、希望のチャンネルを選択します。

◎ 録音するチャンネルは“DVR ch1”または“DVR ch2”を選択することができます。

◎ 録音チャンネル“DVR ch1”には、最大16秒間録音することができます。なお、録音時間が8秒以内であれば、録音チャンネル“DVR ch2”にも、最大8秒間録音することができます。

● 録音チャンネル“DVR ch1”に8秒以上録音すると、“DVR ch2”の内容は消去されます。

● 録音チャンネル“DVR ch2”に録音すると、“DVR ch1”に録音した後半の8秒間が消去されます。



3. Ⓢを押したあとにCOPYを押すと、録音を開始します。

◎ 録音を途中で中止する時はⓈを押したあとにCOPYを押します。

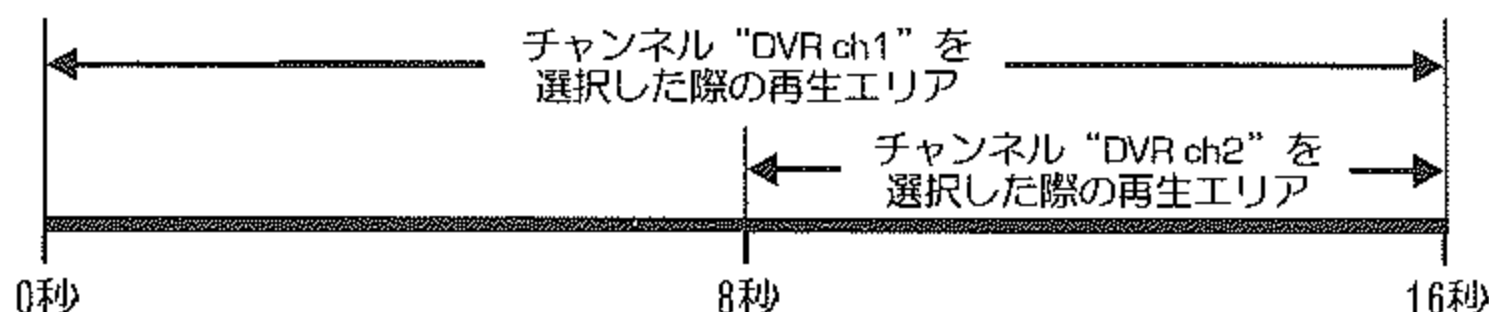
■再生のしかた

1. Ⓢを押したあとにMODEを押します。

2. MODEを押すたびに再生するチャンネルが切り替わりますので、希望のチャンネルを選択します。

◎ “DVR ch1”を選択した場合：録音した時間に関わらず、16秒間再生します。

“DVR ch2”を選択した場合：録音した時間に関わらず、後半の8秒間を再生します。



3. Ⓢを押したあとにSTEPを押すと、再生を開始します。

◎ 再生を途中で中止する時はⓈを押したあとにSTEPを押します。

メモリー内容や各種設定内容を、他の VR-5000 にコピーすることができます。

1. 2台の VR-5000 の“通信速度（ボーレート）”を同じ速度に設定します（下記“通信速度（ボーレート）の設定”参照）。

●2台の通信速度が異なる場合は、クローン機能は動作しません。

2. 2台の VR-5000 の電源を“OFF”にし、RS-232C クロスケーブルを背面にある **CAT** 端子に接続します。

3. 受け側の電源を“ON”にします（“CLONE SLAVE”が表示されます）。

4. 送り側の電源を“ON”にします（“CLONE MASTER”が表示されます）。

5. 送り側の **[COPY]** を押します。

“WRITE”が表示され、データのコピーが開始されます。

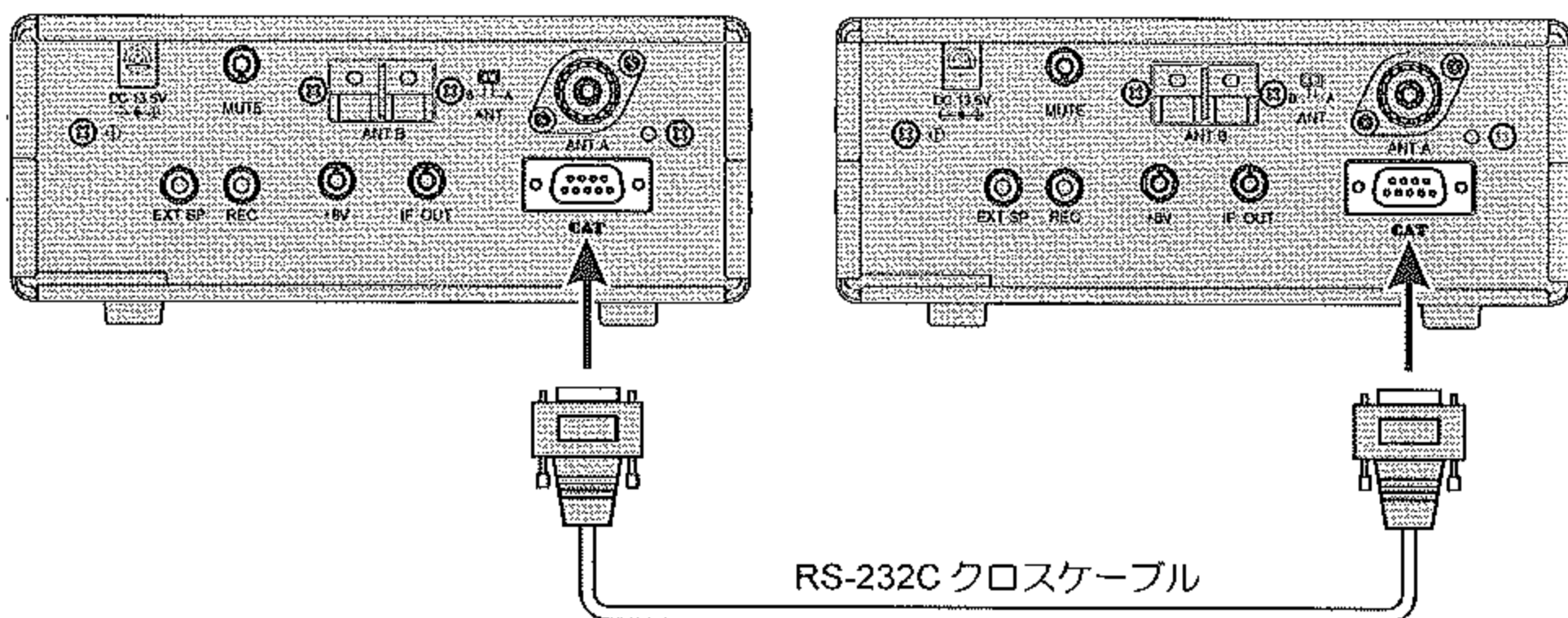
●クローン中に電源を OFF にしたり、RS-232C クロスケーブルを外したりしないでください。

◎クローンが終了するまでの時間は、通信速度により異なります。

通信速度（ボーレート）	クローン終了までの所要時間
4800bps	約5分
9600bps	約3分
57600bps	約1分

6. 送り側のディスプレイに“COMPLETE”が表示されたら、クローンは終了です。

7. 2台の VR-5000 の電源を“OFF”にし、RS-232C クロスケーブルを外します。



通信速度（ボーレート）の設定

1. **[F]** を押したあとに **[ENT]** を押します。
2. DIAL ツマミで“→”を“MISC”にあわせて **[ENT]** を押します。
3. DIAL ツマミで“→”を“CAT RATE”にあわせて **[ENT]** を押します。
4. DIAL ツマミで希望の通信速度にあわせて **[ENT]** を押します。

◎通信速度は 4800 bps/9600 bps/57600 bps から選択することができます。

5. “→”が“END”を指していることを確認して **[ENT]** を押します。

6. “→”が“WRITE”を指していることを確認して **[ENT]** を押します。

◎“CANCEL”を選択すると設定中止，“RETRY”を選択すると、操作2からやり直すことができます。

さらに進んだ使いかた

CAT 運用

パーソナルコンピュータを接続することにより、VR-5000の一部の動作をコンピュータで操作することができます。

■通信速度（ボーレート）の設定

CAT 運用時の、パソコンとVR-5000間の通信速度（ボーレート）を設定します。

1. **ⓔ**を押したあとに **ENT**を押します。
2. DIAL ツマミで“→”を“MISC”にあわせて **ENT**を押します。
3. DIAL ツマミで“→”を“CAT RATE”にあわせて **ENT**を押します。
4. DIAL ツマミで希望の通信速度にあわせて **ENT**を押します。

◎通信速度は4800 bps/9600 bps/57600 bps から選択することができます。

5. “→”が“END”を指していることを確認して **ENT**を押します。
6. “→”が“WRITE”を指していることを確認して **ENT**を押します。

◎“CANCEL”を選択すると設定中止，“RETRY”を選択すると、操作2からやり直すことができます。

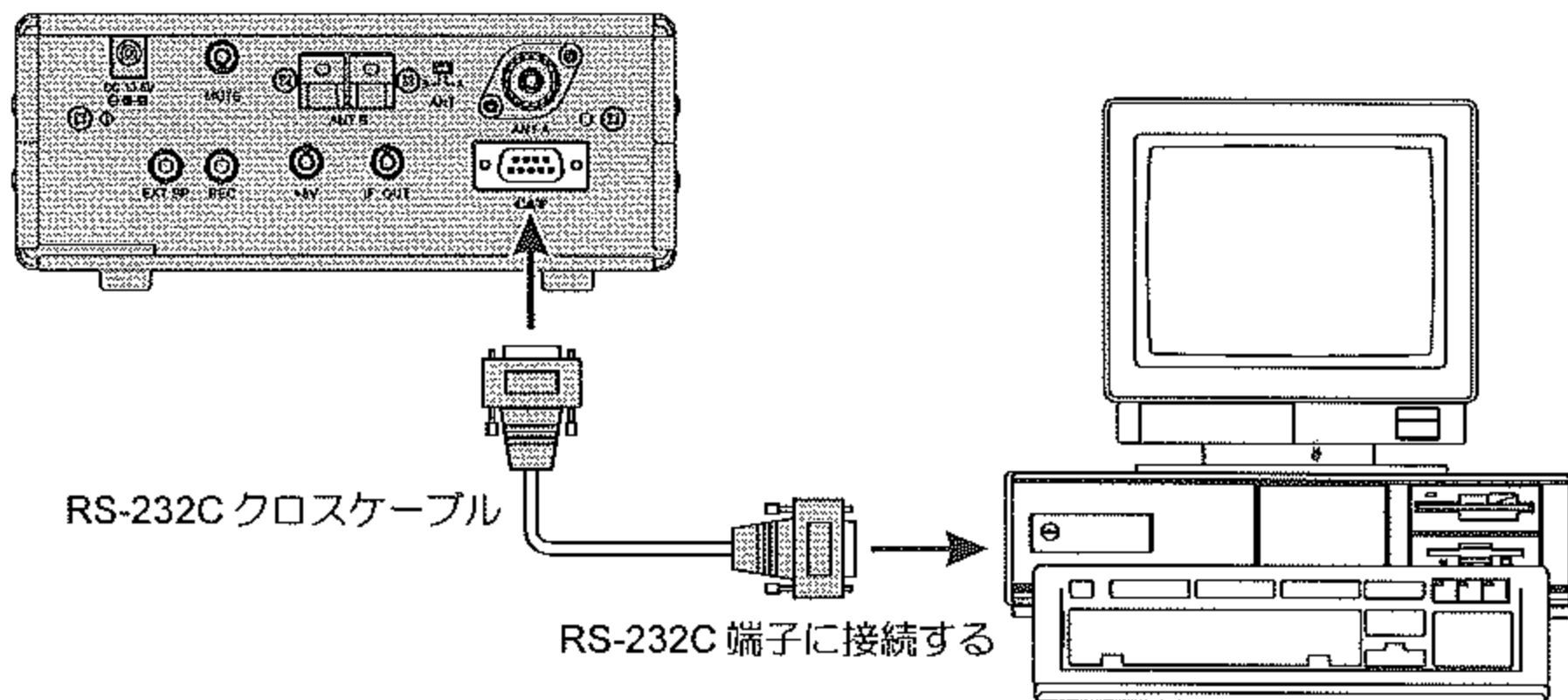
■CAT 運用時の注意事項

一般的にパーソナルコンピュータは、雑音を発生する可能性があります。

そのため、本機とパーソナルコンピュータを接続すると、この雑音により受信が妨害されることがあります。

このような場合には、ホトカブラやノイズフィルターなどを通して接続してください。

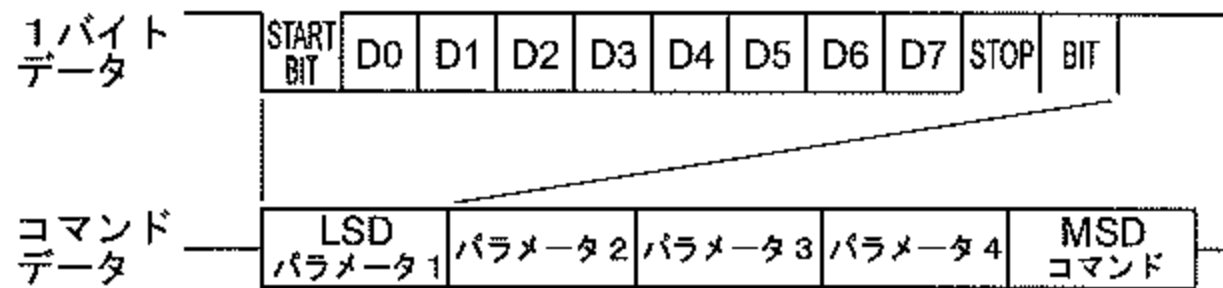
また、アンテナに直接ノイズが混入する場合には、本機とパーソナルコンピュータをできるだけ離してお使いください。



さらに進んだ使いかた

■通信フォーマット

通信データは、“コマンド一覧表”に示すように、1組の通信データを5バイトで構成し、下表に示すタイミングでLSDよりMSDまで、順に入力してください。



通信速度：4800/9600/57600 ボー

データ長：8ビット（パリティ無し）

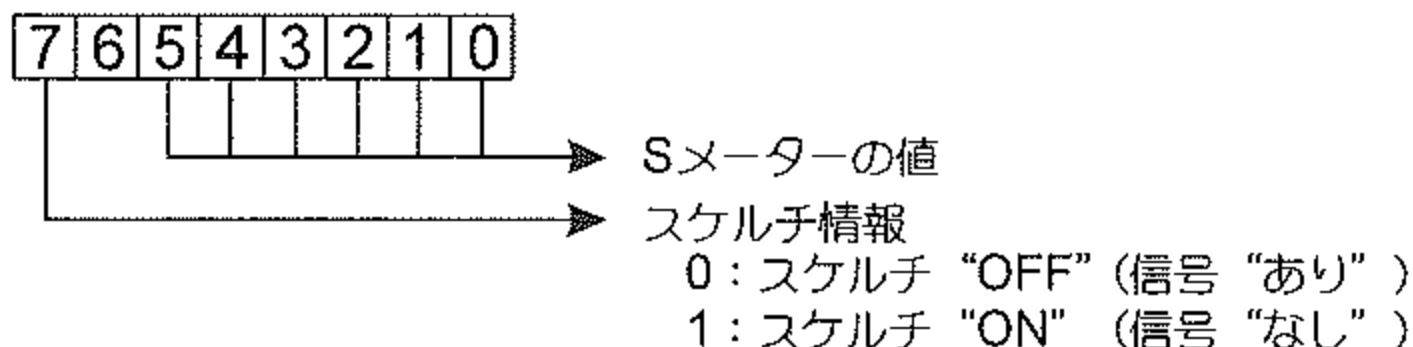
スタートビット：1

ストップビット：2

コマンド一覧表

コマンド内容	パラメーター				コマンド	コメント
外部コントロール (CAT)ON/OFF	※	※	※	※	P1	P1=00 : CAT ON P1=80 : CAT OFF
周波数設定	①	②	③	④	P1	①～④の順番に周波数を入力します(HEX) (例)02, 9E, ED, D0 = 439.7MHz P1=01 : メインバンドに対して P1=31 : サブバンドに対して
運用モード(電波型式)の設定	D1	D2	※	※	P1	D1=00 : LSB, D1=01 : USB, D1=02 : CW, D1=84 : AM-N, D1=04 : AM, D1=44 : AM-W, D1=88 : FM-N, D1=48 : FM-W, D2=21 : 20Hz, D2=02 : 100Hz, D2=42 : 500Hz, D2=03 : 1kHz, D2=43 : 5kHz, D2=53 : 6.25kHz, D2=63 : 9kHz, D2=04 : 10kHz, D2=14 : 12.5kHz, D2=24 : 20kHz, D2=34 : 25kHz, D2=44 : 50kHz, D2=05 : 100kHz, D2=45 : 500kHz P1=07 : メインバンドに対して P1=37 : サブバンドに対して
受信ステータスの呼び出し	※	※	※	※	D7	メインバンドに対してSメーターの値やスケルチ回路の“ON/OFF”状態などを送ります。(注1)
					E7	サブバンドに対してSメーターの値やスケルチ回路の“ON/OFF”状態などを送ります。(注1)

(注1) 受信ステータス



さらに進んだ使いかた

オプションの取付方法

オプション取り付け時の注意事項

本機にオプションを取り付ける場合には、必ず電源を“OFF”にするとともに、電源コードも本体背面の電源端子から外した状態で行ってください。

また、誤って金属片などで回路素子をショートさせないように十分に注意してください。

さらに、静電気などにより半導体が破損する恐れがありますので、必要箇所以外の場所には不用意に手を触れないでください。

なお、オプションの取り付けをお近くの営業所/サービスにご依頼になる場合は、所定の工賃を別途申し受け致しますので、ご了承ください。

DSPユニット“DSP-1”の取付方法

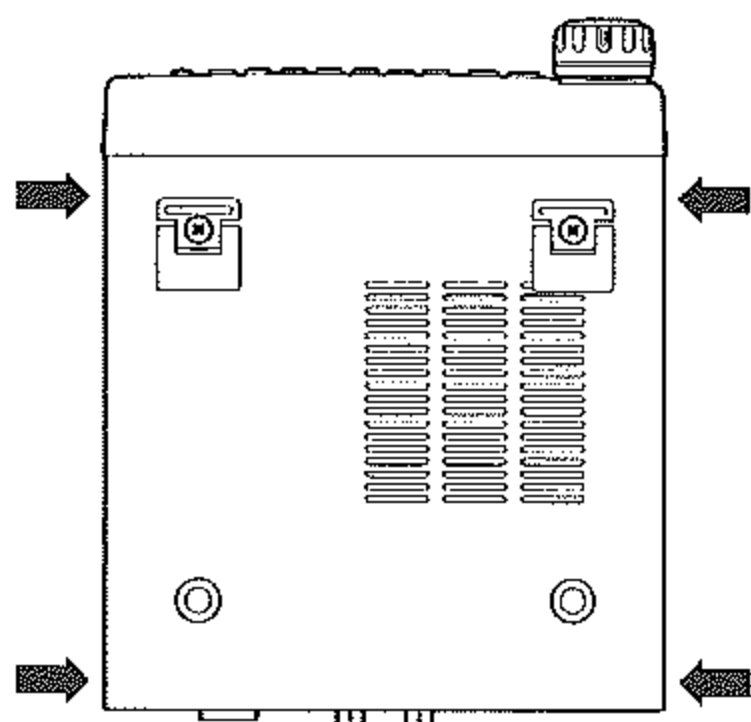
1. 第1図を参考に、矢印で示した4本のビスを外して下ケースを取り外します。
2. 何も接続されていない11ピンのコネクタがありますので、“DSP-1”のコネクタを接続します。
3. 第2図を参考に、4本のビスで“DSP-1”を取り付けます。
4. 下ケースを元通りに取り付けて、作業は終了です。

デジタルボイスメモリーユニット“DVS-4”の取付方法

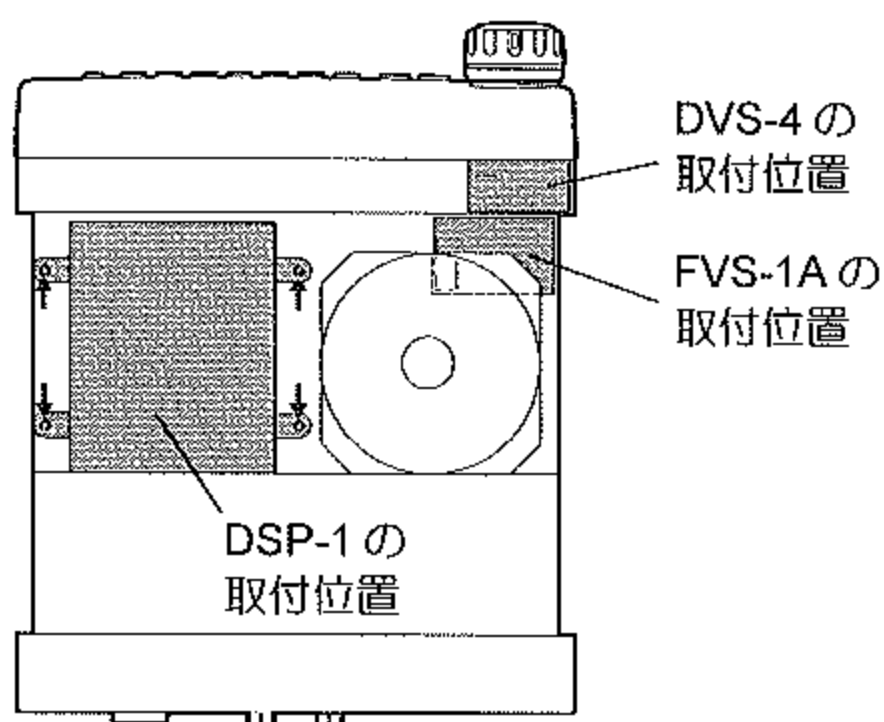
1. 第1図を参考に、矢印で示した4本のビスを外して下ケースを取り外します。
2. 第2図を参考に、8ピンコネクタに“DVS-4”を取り付けます。
3. 下ケースを元通りに取り付けて、作業は終了です。

音声合成ユニット“FVS-1A”の取付方法

1. 第1図を参考に、矢印で示した4本のビスを外して下ケースを取り外します。
2. “FVS-1A”は、日本語と英語の音声を選択できますので、コネクタ脇のスライドスイッチで選択します（スイッチを“JA”にすると日本語、“EN”にすると英語になります）。
3. 何も接続されていない10ピンのコネクタがありますので、“FVS-1A”のコネクタを接続します。
4. 付属の両面テープを“FVS-1A”のIC面に貼り付け、第2図に示す場所に“FVS-1A”を取り付けます。
5. 下ケースを元通りに取り付けて、作業は終了です。



第1図



第2図

故障かな？と思ったら

修理を依頼される前に、次の事項を確認してください。

電源が入らない

AC アダプターまたは電源ケーブルが外れていませんか？

周波数が変わらない

ロック機能が動作していませんか？

サブバンドの周波数を、メインバンド周波数の± 20MHz の範囲外にあわせようとしていませんか？

音が出ない

VOL ツマミを反時計方向にまわし切っていませんか？

SQL ツマミを時計方向にまわし切っていませんか？

電波型式はありますか？

ザーとノイズ音が出る

SQL ツマミを反時計方向にまわし切っていませんか？

メモリーに書き込めない

メモリーチャンネルが空いていますか？

メモリープロテクト機能が動作していませんか？

一つのメモリーバンクに 100 チャンネル以上書き込もうとしていませんか？

スキャンやスマートサーチができない

SQL ツマミを反時計方向にまわし切っていませんか？

アフターサービスについて

◎保証期間はご購入の日より 1 年です。

本製品には保証書が添付されています。ご購入いただいた日から 1 年以内に、取扱説明書に従った正常な使用状態で故障した場合には、無料で修理をお引き受けします。

◎保証書は大切に保管してください。

保証書を紛失しますと、保証期間中に発生した故障でも、保証期間が過ぎたものとして有償扱いにさせていただきますのでご了承ください。

また、販売年月日・販売店名等の必要事項が記入していない保証書も無効扱いにさせていただきますので、ご購入いただきました販売店名・ご購入年月日等が正しく記入されていることをご確認のうえ、大切に保管してください。

◎保証期間が過ぎた後に故障した場合は、ご相談ください。

修理により機能が維持できる場合には有償で修理させていただきますので、ご購入いただきました販売店またはお近くの営業所 / サービスにご相談ください。

◎梱包箱も大切に保管してください。

修理や点検のために本製品を運搬する場合には、運搬中の事故やトラブルを防止するため、梱包箱を使用して運搬してください。

製品の改良のため、取扱説明書の図面が一部製品と異なる場合があります。あらかじめご了承ください。

本製品または他の当社製品についてのお問い合わせは、お近くの営業所 / サービス宛にお願いいたします。また、その際には、必ずセットの製造番号（本体底面に貼ってある銘板に記載してあります）を併せてお知らせください。なお、お手紙をいただくときには、お客様のご住所・ご氏名を忘れずにお書きください。

索引

A	ANT A 端子	7
	ANT B 端子	7
	ANT スイッチ	7
B	BANK キー	5
	BS キー	4
C	CAT 運用	50
	CAT 端子	7
	CLR キー	5
	COPY キー	5
	CW ピッチ機能	38
	CW フィルター機能	37
D	DIAL ツマミ	5
	DIM キー	5
	DSP キー	5
E	EXT SP 端子 (外部スピーカー端子)	6
F	F (ファンクション) キー	5
	F キーの有効時間を変更する (ファンクション時間設定)	40
I	IF OUT 端子	7
L	LO SHIFT 機能	36
M	M/S キー	4
	MODE キー	5
	M-S スキャン	11
	MUTE 端子	6
N	NOTCH 機能	36
	NR 機能	38
P	PHONE 端子 (ヘッドホン端子)	4
	PMR 機能 (メモリーチャンネルの 使用状況を確認する)	19
	PMS キー	4
	PMS スキャン (プログラマブルメモリースキャン)	12
	PS キー (プリセットキー)	5
	PWR キー (電源スイッチ)	4
R	REC 端子	6
	RF チューン機能	36
S	SCAN キー	4
	SQL ツマミ	4
	STEP キー	5
	S メータースキャン	46
T	TONE ツマミ	4
U	UTC の変更	33
V	V/M キー	5
	VOL ツマミ	4

W	WIDTH キー	4
あ	アッテネーター機能	38
	アフターサービスについて	53
	アラーム機能	34
	安全上のご注意	1
	アンテナアース端子	6
	アンテナについて	7
	アンテナ切り替え スイッチ (ANT スイッチ)	7
	アンテナ端子	7
お	オートステップ・ オートモード関係表	56
	オプション	3
	オプションの取付方法	52
	音声機能	48
	音声スキャン	46
	音声録音・再生機能	48
か	外部スピーカー端子 (EXT SP 端子)	6
	簡易電界強度表示機能	41
	簡単操作のラジオとして使うには ..	15
き	キーボード	5
く	クローン機能	49
こ	故障かな?と思ったら	53
	混信を軽減する	36
	コントラスト調整	41
さ	雑音を軽減する	38
	さらに進んだ使いかた	36
し	受信するモード (電波型式) のあわせかた	9
	受信感度を下げる (アッテネーター機能) ..	38
	周波数監視機能	30
	周波数ステップを変更する	40
	周波数などが変わらない ようにする (ロック機能)	39
	周波数のあわせかた	9
	周波数を音声で確認する	48
	周波数範囲を指定して スキャンする (PMS)	12
	消去したメモリーチャンネルを 復活させる	26
	資料	52
	信号のある周波数を 自動的に探す (スキャンする)	11
	信号の音声波形を表示する (入力音声波形表示機能)	43
	信号の電界強度をグラフ表示する ..	41
	信号を受信する	9

- す** スキャン 11
 スキャンが停止する条件を変更する ... 46
 スキャンしたくない
 チャンネルをスキップする... 21
 スキャン機能を選択する..... 44
 スキャン停止中の
 各動作時間を変更する ... 45
 ステップ変更 40
 全てのメモリーチャンネルを
 呼び出す ... 18
 全てのメモリーバンクの
 メモリーチャンネルを
 スキャンする ... 20
 全ての周波数をスキャンする..... 11
 スマートサーチ 28
 スリープ機能 35
- せ** 世界の放送を受信する..... 14
 世界時計 32
 設定した時間が経過したら
 自動的に電源を“OFF”にする... 35
 設定した時間になると
 自動的に電源を“ON”にする... 34
 設定した時間に自動的に
 周波数を変更する ... 42
 前面の説明 4
- そ** 操作音を鳴らないようにする
 (ビープ音“OFF”機能) ... 40
- た** タイムプログラム機能..... 42
- つ** 通信速度(ボーレート)の設定... 49
- て** 停止したスキャンが
 再開する条件を変更する... 44
 ディスプレイのコントラストを変える... 41
 ディスプレイの明るさを変える... 40
 ディスプレイの説明 8
 ディマー調整 40
 デジタルバンドパスフィルター機能 ... 37
 電源端子 6
- と** 登録されている都市の
 名称を変更する ... 33
 時計機能 32
 時計のあわせかた 8
- に** 入力音声波形表示機能..... 43
- の** ノイズブランカー機能..... 38
- は** 背面の説明 6
 8V 端子..... 6
 バンドスコープ 30
- ひ** ビープアラーム機能 34
 ビープ音“OFF”機能..... 40
- ふ** 2つの周波数を同時に受信する ... 10
 ファンクション時間設定..... 40
 付属品 3
 プライオリティ機能(優先受信)..... 27
 プリセットキー(PSキー)..... 5
 プログラマブル
 メモリースキャン(PMS) ... 12
 フロントエンドを
 最適化する(RFチューン機能) ... 36
- へ** ヘッドホン端子(PHONE端子)..... 4
- ほ** 放送局の周波数リストを変更する ... 47
- め** メインバンドと
 サブバンド間の周波数を
 スキャンする(M-Sスキャン) ... 11
 メモリー操作 17
 メモリーソート機能 25
 メモリーチャンネルに書き込む... 17
 メモリーチャンネルに付けた
 名前で呼び出す ... 23
 メモリーチャンネルに名前を付ける ... 22
 メモリーチャンネルの
 使用状況を確認する(PMR機能) ... 19
 メモリーチャンネルの
 順番を並び替える ... 25
 メモリーチャンネルの
 内容を一時的に変更する
 (メモリーチューン機能) ... 18
 メモリーチャンネルを消去する... 26
 メモリーチャンネルを消去
 上書きできないようにする
 (メモリープロテクト機能) ... 21
 メモリーチャンネルの編集..... 22
 メモリーチャンネルをスキャンする ... 20
 メモリーチャンネルを呼び出す... 18
 メモリーチャンネル番号を
 割り当て直す ... 25
 メモリーチューン機能..... 18
 メモリーに書き込んである
 周波数を変更する ... 24
 メモリーバンクに名前を付ける... 23
 メモリーバンクを指定して書き込む ... 17
 メモリープロテクト機能..... 21
- も** モードセレクトスキャン..... 45
- ら** ラジオアラーム機能 34
 ラジコンチャンネルの
 使用状況を確認する ... 16
- り** リセットのしかた 10
- ろ** 録音端子(REC端子)..... 6
 ロック機能 39

オートステップ・オートモード関係表

オートステップとオートモード時の周波数と、周波数ステップ・モード（電波型式）の関係は、下表のようになります。

周波数範囲 (MHz)	モード	ステップ (kHz)	周波数範囲 (MHz)	モード	ステップ (kHz)	周波数範囲 (MHz)	モード	ステップ (kHz)
0.10000 ~ 0.49400	AM	1	20.13840 ~ 20.99990	USB	0.1	250.45000 ~ 250.85000	FM-N	50
0.49500 ~ 0.53000	USB	1	21.00000 ~ 21.14990	CW	0.1	250.90000 ~ 268.00000	AM	100
0.53100 ~ 1.62900	AM	9	21.15000 ~ 21.44990	USB	0.1	268.01250 ~ 269.98750	FM-N	12.5
1.63000 ~ 1.80950	USB	0.5	21.45000 ~ 21.85000	AM	5	270.00000 ~ 281.00000	AM	100
1.81000 ~ 1.82500	CW	0.1	21.85500 ~ 23.34900	USB	1	281.01250 ~ 282.98750	FM-N	12.5
1.82600 ~ 1.90700	USB	1	23.35000 ~ 23.99998	USB	0.02	283.00000 ~ 315.30000	AM	100
1.90750 ~ 1.91250	CW	0.1	24.00000 ~ 24.88990	USB	0.1	315.35000 ~ 317.85000	AM	50
1.91300 ~ 2.50300	USB	1	24.89000 ~ 24.92990	CW	0.1	317.90000 ~ 322.00000	AM	100
2.50400 ~ 2.50500	AM	1	24.93000 ~ 24.98990	USB	0.1	322.02500 ~ 322.47500	FM-N	25
2.50600 ~ 3.19900	USB	1	24.99000 ~ 25.01900	AM	1	322.50000 ~ 335.90000	AM	100
3.20000 ~ 3.39500	AM	5	25.02000 ~ 25.17290	USB	0.1	336.00000 ~ 336.88750	FM-N	12.5
3.40000 ~ 3.49900	USB	1	25.17300 ~ 25.26150	USB	0.5	336.90000 ~ 339.00000	AM	50
3.50000 ~ 3.52490	CW	0.1	25.26200 ~ 25.66990	USB	0.1	339.02500 ~ 340.18750	FM-N	12.5
3.52500 ~ 3.57490	LSB	0.1	25.67000 ~ 26.10000	AM	5	340.20000 ~ 340.60000	AM	100
3.57500 ~ 3.74600	USB	1	26.10100 ~ 27.52350	USB	0.5	340.70000 ~ 342.48750	FM-N	12.5
3.74700 ~ 3.75390	LSB	0.1	27.52500 ~ 27.99500	AM	5	342.50000 ~ 343.40000	AM	100
3.75400 ~ 3.79050	USB	0.5	28.00000 ~ 28.19990	CW	0.1	343.50000 ~ 343.98750	FM-N	12.5
3.79100 ~ 3.80490	LSB	0.1	28.20000 ~ 28.99990	USB	0.1	344.00000 ~ 345.00000	AM	100
3.80500 ~ 3.89900	USB	1	29.00000 ~ 29.29000	FM-N	10	345.05000 ~ 348.48750	FM-N	12.5
3.90000 ~ 4.00000	AM	5	29.30000 ~ 29.50990	LSB	0.1	348.50000 ~ 349.05000	AM	50
4.00500 ~ 4.62900	USB	1	29.51000 ~ 29.99000	FM-N	10	349.07500 ~ 349.28750	FM-N	12.5
4.63000 ~ 4.63090	CW	0.1	30.00000 ~ 35.52500	FM-N	25	349.30000 ~ 350.00000	AM	100
4.63100 ~ 4.74900	USB	1	35.54400 ~ 36.24900	AM	1	350.10000 ~ 350.38750	FM-N	12.5
4.75000 ~ 5.10000	AM	5	36.25000 ~ 39.00000	FM-N	25	350.40000 ~ 352.50000	AM	100
5.10500 ~ 5.85900	USB	1	39.00800 ~ 40.02400	AM	1	352.53750 ~ 353.38750	FM-N	12.5
5.86000 ~ 6.19500	AM	5	40.02500 ~ 43.99500	FM-N	5	353.40000 ~ 355.50000	AM	100
6.20000 ~ 6.79400	USB	1	44.00000 ~ 49.97500	FM-N	25	355.52500 ~ 355.78750	FM-N	12.5
6.79500 ~ 6.99500	AM	5	50.00000 ~ 50.09990	CW	0.1	355.80000 ~ 356.90000	AM	100
7.00000 ~ 7.02990	CW	0.1	50.10000 ~ 50.99998	USB	0.1	357.00000 ~ 358.18750	FM-N	12.5
7.03000 ~ 7.09990	LSB	0.1	51.00000 ~ 51.99000	FM-N	10	358.20000 ~ 358.50000	AM	50
7.10000 ~ 7.58000	AM	5	52.00000 ~ 52.49990	USB	0.1	358.52500 ~ 358.98750	FM-N	12.5
7.58100 ~ 7.99400	USB	1	52.50000 ~ 54.01000	FM-N	10	359.00000 ~ 359.95000	AM	50
7.99500 ~ 8.00500	AM	5	54.02000 ~ 76.09500	FM-N	5	360.00000 ~ 360.18750	FM-N	12.5
8.00600 ~ 9.38900	USB	1	76.10000 ~ 89.90000	WFM	100	360.20000 ~ 361.05000	AM	50
9.39000 ~ 9.99500	AM	5	90.00000 ~ 107.95000	WFM	50	361.10000 ~ 362.28750	FM-N	12.5
9.99600 ~ 10.00500	AM	1	108.00000 ~ 118.00000	AM	50	362.30000 ~ 362.70000	AM	50
10.00600 ~ 10.09900	USB	1	118.02500 ~ 135.97500	AM	25	362.75000 ~ 362.98750	FM-N	12.5
10.10000 ~ 10.14990	CW	0.1	136.00000 ~ 138.04000	FM-N	10	363.00000 ~ 363.95000	AM	50
10.15000 ~ 10.16208	CW	0.02	138.05000 ~ 141.95000	AM	50	364.00000 ~ 366.08750	FM-N	12.5
10.16300 ~ 11.49900	USB	1	142.00000 ~ 143.98000	FM-N	20	366.10000 ~ 367.00000	AM	50
11.50000 ~ 12.16000	AM	5	144.00000 ~ 144.09990	CW	0.1	367.05000 ~ 368.13750	FM-N	12.5
12.16100 ~ 13.60450	USB	0.5	144.10000 ~ 144.69990	USB	0.1	368.15000 ~ 368.25000	AM	50
13.60500 ~ 13.84500	AM	5	144.70000 ~ 154.65000	FM-N	10	368.30000 ~ 429.98750	FM-N	12.5
13.84510 ~ 13.99990	USB	0.1	154.67500 ~ 157.42500	FM-N	25	430.00000 ~ 430.09990	CW	0.1
14.00000 ~ 14.09990	CW	0.1	157.45000 ~ 159.29000	FM-N	10	430.10000 ~ 430.79990	USB	0.1
14.10000 ~ 14.34990	USB	0.1	159.30000 ~ 160.97500	FM-N	25	430.80000 ~ 440.01000	FM-N	10
14.35000 ~ 14.35598	USB	0.02	161.00000 ~ 161.50000	FM-N	10	440.01250 ~ 469.48750	FM-N	12.5
14.35600 ~ 14.98990	USB	0.1	161.52500 ~ 162.90000	FM-N	25	469.50000 ~ 469.97500	FM-N	25
14.99000 ~ 15.00500	AM	5	162.91000 ~ 169.99000	FM-N	10	470.00000 ~ 774.45000	WFM	50
15.01000 ~ 15.10490	USB	0.1	170.00000 ~ 224.95000	WFM	50	774.50000 ~ 904.98750	FM-N	12.5
15.10500 ~ 16.00000	AM	5	225.00000 ~ 247.90000	AM	100	905.00000 ~ 939.99375	FM-N	6.25
16.00500 ~ 17.48490	USB	0.1	247.95000 ~ 248.05000	FM-N	50	940.00000 ~ 960.00000	WFM	100
17.48500 ~ 17.90000	AM	5	248.10000 ~ 248.90000	AM	100	960.10000 ~ 1259.97500	FM-N	25
17.90100 ~ 18.06790	USB	0.1	248.95000 ~ 249.05000	FM-N	50	1260.00000 ~ 1300.02000	FM-N	10
18.06800 ~ 18.10990	CW	0.1	249.10000 ~ 249.90000	AM	100	1300.02500 ~ 2399.97500	FM-N	25
18.11000 ~ 19.98990	USB	0.1	249.95000 ~ 250.05000	FM-N	50	2400.00000 ~ 2450.00000	FM-N	10
19.99000 ~ 20.13800	AM	1	250.10000 ~ 250.40000	AM	100	2450.02500 ~ 2599.97500	FM-N	25

定 格

受信周波数範囲	: 0.1 ~ 2599.99998MHz (下表の周波数帯を除く)		
アンテナインピーダンス	: 50 Ω (M 型), 450 Ω (ターミナル型)		
アンテナ端子	: M 型, ターミナル型		
受信周波数ステップ	: メインバンド		
	LSB, USB, CW	20Hz / 100Hz / 500Hz / 1kHz / 5kHz	
	AM-N, AM, WAM	1 / 5 / 9 / 10 / 20 / 25 / 50 / 100 / 500kHz	
	FM-N	5 / 6.25 / 10 / 12.5 / 20 / 25 / 50 / 100 / 500KHz	
	WFM	10 / 50 / 100 / 500KHz	
	サブバンド		
	AM	1 / 5 / 9 / 10 / 20 / 25 / 50 / 100 / 500kHz	
	FM-N	5 / 6.25 / 10 / 12.5 / 20 / 25 / 50 / 100 / 500KHz	
メモリーチャンネル数	メモリーチャンネル	2000 チャンネル	
	PS (プリセット) メモリー	5 チャンネル	
電波型式	: CW, LSB, USB, AM, AM-N, WAM, FM-N, WFM		
受信感度	: 0.2 ~ 0.49998MHz	SSB/CW	4.8 μV (10dB S/N)
		AM	10.8 μV (10dB S/N)
	0.5 ~ 1.79998MHz	SSB/CW	1.0 μV (10dB S/N)
		AM	4.0 μV (10dB S/N)
	1.8 ~ 3.99998MHz	SSB/CW	0.6 μV (10dB S/N)
		AM	2.5 μV (10dB S/N)
	4.0 ~ 29.99998MHz	SSB/CW	0.3 μV (10dB S/N)
		AM	1.1 μV (10dB S/N)
	28.0 ~ 29.99998MHz	FM-N	0.35 μV (12dB SINAD)
	30.0 ~ 1999.99998MHz	SSB/CW	0.3 μV (10dB S/N)
		AM	1.2 μV (10dB S/N)
		FM-N	0.45 μV (12dB SINAD)
		WFM	1.5 μV (12dB SINAD)
	2000.0 ~ 2599.99998MHz	SSB/CW	0.5 μV (10dB S/N)
		AM	1.8 μV (10dB S/N)
		FM-N	0.8 μV (12dB SINAD)
アンテナ不要輻射	: -54 dBm 以下		
電源電圧	: DC 13.5V ±15%		
消費電流	: 0.7 A (オーディオ出力 1W 時)		
スピーカーインピーダンス	: 8 Ω		
オーディオ出力	: 1W 以上 (8 Ω 負荷)		
使用温度範囲	: -10℃ ~ +50℃		
ケース寸法	: 180mm(W) × 70mm(H) × 203mm(D) (突起物含まず)		
本体重量	: 約 1.9kg		

測定法は JAIA で定めた測定法によります。定格値は常温・常圧時の値です。
 本機の外觀および定格は、改良のため予告なく変更することがあります。ご了承ください。

下記の周波数は受信することができません。

253MHz ~ 256MHz	380MHz ~ 383MHz	843MHz ~ 846MHz	915MHz ~ 961MHz
262MHz ~ 267MHz	412MHz ~ 416MHz	860MHz ~ 890MHz	
271MHz ~ 276MHz	810MHz ~ 835MHz	898MHz ~ 901MHz	



© 2001 株式会社バーテックススタンダード

禁 無断転載・複写



製造元・株式会社バーテックススタンダード
0112c-EY 〒153-8644 東京都目黒区中目黒4-8-8